

・景気の現状に対する判断理由等

景気の現状に対する判断の理由及びそれに対する追加説明等について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	良く なっている	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・7月の参議院選挙の影響で止まっていた需要が8月に動き出している。インバウンド、アウトバウンドともに旅客数が伸びている。作付けが遅れていた農作物も回復しているが、ここ数日の集中豪雨の影響が懸念される。
	やや良く なっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・夏物の展開を継続している店としていない店との間で差があるが、残暑が厳しいため、8月の閑散期に入っても夏のセール品を求める客がそれほど減っていない。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・8月は夏の最大イベント月であり、全体的に天候にも恵まれ、当地地方新聞では、ほぼ前年並みの来客数があったとの記事も掲載された。しかしながら、地元住民による場所取りが前年よりやや減少するなど、不安材料も残った。一方で、レンタカーや他県ナンバーの車両が中心市街地の駐車場でも散見された。飲食関連の店舗では、行列のできる店舗も何件か発生し、売上を伸ばした。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・雨の被害で旅行ができなかった人が意外にいたり、地元のイベントの際に当商店街への客足が遠のいたりしたが、売上は前年比で4%伸びている。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・来客数は前年比99%程度だが、売上は前年比100%のペースで推移している。盆シーズンの食品売上が絶好調であるほか、秋物の動きが良く、地方客の売上も伸びている。客単価の伸びも感じられる。
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・セールの開催時期を遅らせた影響もあり、婦人服、服飾雑貨中心に好調に推移している。8月は休業日を1日設定したが、何とか前年並みで終了できそうである。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・8月に入り北海道でも暑さの厳しい日が続く、夏物衣料を中心に好調を維持している。特に来客数の伸びが高くなっており、そのことが売上拡大に寄与している。これは全国的な猛暑の影響から、避暑のために北海道に旅行する人や、夏の間だけオフィスを北海道に移す個人事業主などが増えているためとみられる。
		百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・ずっと前年割れしていた来客数が回復傾向にあり、買上率も前年から改善している。客単価も衣料品を中心に前年を上回っており、全体的に動きが底堅くなってきている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・販売量はここ3か月下落傾向にあったが、8月は3か月の平均より2%程度良かった。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・夏休みに入り、ギフト、行楽、盆といった季節商材の購入を目的とする客が顕著に増加している。これにより、客単価も上がっており、好調な売上を維持している。
		スーパー（役員）	単価の動き	・8月の客単価はこの2～3か月と比べて前年比で2%強上昇している。販売促進の影響もあるが、夏の暑さや果物の糖度上昇などにより、グレードの高い商品や量目の大きい商品の売上構成比が伸びている。
		家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・気温が高い傾向にあるなか、エアコン、冷蔵庫、扇風機といった夏物家電の需要が前月に引き続き好調に推移している。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・今月は自己最高の販売台数となり、店全体としても販売台数が最も良かったため、今までより上向き傾向にある。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・近郊で開催されるスポーツ大会、イベント、学会が好調に推移している。全体的にWeb及び旅行会社の個人型商品の販売も好調である。
		タクシー運転手	来客数の動き	・観光客も増えているようで、週末は札幌市内のホテルも混んでいると聞いている。夜の人出も前年より多くなってきている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		タクシー運転手	販売量の動き	・競馬開催や大型イベントなどがあり、今月は3か月前と比較して27.8%の売上増であった。前年との比較でも9.7%の増収であることから、やや良くなっている。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・例年8月が年間を通じて最も入込数の多い月になるが、25日現在の当社の利用客数は前年比111.9%となっており、最繁忙期にあっても前年を上回る傾向が継続している。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・新しいメニューや新商品に関して客が興味を持ち、質問をしたり、買ったりといった傾向が出てきている。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・観光繁忙期による来客数が引き続きピークを迎えており、輸送量が増加している。
	変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・好天に恵まれてヤングカジュアルの軽衣料がやや活発化している。観光客に支えられている飲食店もやや良かった。酒屋のビールの売上でもそのことが立証されている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・暑さと集中豪雨の影響で客の様子に変化が生じるとみられたが、それほど変化がなかった。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・中心部の大型集客施設の7月の売上が芳しくない。原因は色々と考えられるが、景気回復はまだ道半ばであるとみられる。その一方で、海外からの旅行者の増加は著しい。日本のオンシーズン期は交通費、宿泊費とも高額なため、例年ならば旅行者の少ない時期であるが、そうしたことをもろともしない高所得者と思われる旅行者がたくさん来ている。消費金額も高額であり、旧正月の時期に匹敵するほどの消費動向である。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・中旬まで非常に気温の高い日が続いたり、あるいは盆の需要があったりということで、堅調に推移してきたが、後半になって、大雨が降るなど、天候が崩れたことで急速に売上が減少している。前半の貯金を食いつぶす形で後半は苦戦が続いている。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・前年に比べて、夏物のセールの動きが良くなっている。特にパンツ、ブラウス、カットソー関連が前年比で1割程度アップしている。また、下旬に入って秋の気配が感じられることで、秋物の動きも前年比で2割程度アップしている。
		百貨店（役員）	来客数の動き	・今月の来客数は前年比で2けたのアップで推移したが、買上客数は前年比103%、客単価は微増で推移した。ファッションは前半の暑さと後半の急激な寒さを受け、前半は夏物、後半は秋物が動き前年を上回った。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・前月から来客数が今一つ伸びてきていない。売上も苦戦している。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・盆期間は前年並みの来客数で推移したが、20日以降は来客数が1割程度減少している。好天であった前年の反動もあるが、盆期間に一時的に増加したアイスクリームや飲料水以外の商品群での売上の増加は少なかった。
		衣料品専門店（店長）	単価の動き	・夏になって少しは良くなるとみていたが、さっぱり良くならない。前年もそうだったが今年もやはり同じようなものであった。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・高額商品の動きが悪くなっている。
		衣料品専門店（店員）	販売量の動き	・夏の各イベントがあったが、夏物衣料の動きが前年に比べて鈍かった。消費税増税の問題やガソリン価格の高騰、電力料金の値上げなどによる家計の圧迫感があったとみている。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・来客数は前年よりもやや少なく、売上は微増であった。薄型テレビの販売量はまだ回復していない。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・車両販売台数はさほど変わらない。個人客の需要が減少しているが、法人のがまん切れによる乗替え需要で補っている。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・受注量に大きな変化がみられない。
		自動車備品販売店（店長）	来客数の動き	・原油高にともなう一部のカー用品の値上がりで客の購買意欲が低下している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		高級レストラン(経営者)	お客様の様子	・観光シーズンは来客数が増えて、一見景気も良くなったように見えるが、観光客が少なくなると、今までどおりの売上となっている。客の様子をみても、客単価が上がる気配もない。	
		高級レストラン(スタッフ)	来客数の動き	・残暑の厳しい日々が続いているが、ランチタイムは家族連れや修学旅行生の団体客が入り、常に満席である。ディナータイムは予約こそないものの、コースの注文も多く、来客数、客単価とも前年を上回った。売上は好調で前年から7%増加している。	
		高級レストラン(スタッフ)	お客様の様子	・真夏が増えたせい、西洋料理に対する客足が遠のいており、給料日後の月末も伸びなかった。一方で、今夏はビールが売れたようだ。食材は、輸入食品を中心に値上げが続いている。	
		高級レストラン(スタッフ)	お客様の様子	・現政権の経済対策の効果が薄れてきている。	
		一般レストラン(スタッフ)	単価の動き	・仕入食材の値上げにともない一部の商品を値上げしたため、客単価はアップしたが、来客数が減っており、売上は前年並みであった。	
		スナック(経営者)	来客数の動き	・人出がない。	
		スナック(経営者)	来客数の動き	・ここに来て、現政権の経済対策で少しは効果があったように感じられるが、店舗の売上と来客数にはほとんど変化がない。	
		タクシー運転手	来客数の動き	・8月の注文数が前年と同程度になるなど、今年の注文数が前年並みになってきた。	
		通信会社(社員)	お客様の様子	・景気が上向きかと言われると何となく上向きと答えたが、よく考えると消費が上向きなだけで景気はそれほど良くなっていない。消費税増税前の需要で消費が活発になっているが、それと景気の向上は別である。	
		通信会社(企画担当)	販売量の動き	・夏商戦向けの商品に対する客の反応は良いものの、競合他社へ流れる客も想定より多い。	
		パチンコ店(役員)	お客様の様子	・観光業界はアジア圏内からの観光客が増えているため、多少は潤うが、その他の業種については明るい兆しがみられない。	
		設計事務所(所長)	単価の動き	・問い合わせのある物件、案件は増え始めているが、単価は変わらず厳しいままである。	
		住宅販売会社(経営者)	お客様の様子	・客の様子が3か月前と比べても変わらない。まだら模様になっている。	
		住宅販売会社(従業員)	競争相手の様子	・分譲マンションのモデルルームに来訪する客は依然として購買意欲の高い客が多い。一方、デベロッパーは供給戸数を極端に増やすことには慎重である。したがって、売れ足は速いが、売り物の戸数に限りがあるため、ここ数か月、状況は変わらない。	
		やや悪くなっている	商店街(代表者)	単価の動き	・今月に入って来客数が減っている。特に単価の高い商品の売上が止まっている。
			観光型ホテル(経営者)	それ以外	・来客数は堅調だが、ツアーの客単価が低下傾向である。また、それと同時に水道光熱費や輸入材の価格が上昇しており、経営を圧迫している。売上の増加分以上のコストアップとなっている。
旅行代理店(従業員)	お客様の様子		・天候の影響で農作物にも影響が出ている。		
タクシー運転手	販売量の動き		・前月はやや持ち直しの感があったが、今月は前月ほどの伸び率が出ておらず、受注量そのものも落ち込んでいる。		
悪くなっている	その他専門店[医薬品](経営者)	来客数の動き	・天候不順のせい、来客数が激減した。高齢者の来店には好天が不可欠である。		
企業動向関連 (北海道)	良くなっている	○	○	○	
	やや良くなっている	食料品製造業(経営者)	それ以外	・参議院選挙の結果により、政治的な安定がもたらされるとの期待が高まっている。	
		家具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・住宅の活況、請負物件の活性化にともない、家具も動き出してきた。	
		建設業(従業員)	受注価格や販売価格の動き	・建築現場労務者の恒常的な不足、電気料金や石油価格の値上がりによる建築資材の価格見直しで、建築工事費は春先よりも少なくとも10%以上上昇している。	
		輸送業(支店長)	受注量や販売量の動き	・受注や物流につながるような荷動きが活発になってきた。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		金融業（企画担当）	それ以外	・公共工事の増加で建設業が堅調である。その効果が幅広く広がっており、運送業や小売業なども上向いている。最盛期を迎えた観光は、LCC就航や国際便拡充で入込客が増加している。しかし、円安による資材価格や燃料費の値上がりも、多くの業種の収益を圧迫している。
	変わらない	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・本州向け医薬品の輸送は順調である。飲料品の出荷は盆前の先送り商品が順調であったものの、盆明け以降は、東日本の猛暑が収まってきていることもあり、低迷している。製紙業では、飲料用等のカートン増産により段ボールの生産が増加している。
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・景況感はやや良くなっている。3か月前との比較では、受注量がほぼ同量で推移しており、やや良い状況が続いているため、判断としては横ばいである。
		司法書士	取引先の様子	・不動産取引、建物建築等において、季節的に若干の増加がみられるが、3か月前と比較して大きな変化はみられない。
		司法書士	取引先の様子	・消費税増税前の駆け込み需要などと言われているが、実感がない。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・受注自体は上向きであるが、経費も上昇しているため、景気上向きの実感はない。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・公共事業費の増額により取引先の仕事が増えている。それにともない消耗資材を中心に販売量が堅調に推移している。
	やや悪くなっている	食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・例年、売上の落ち込む時期であるが、今年は例年以上に落ち込んでいる。
		司法書士	取引先の様子	・不動産の売買、建物の新築が相変わらず低迷している。
	悪くなっている	—	—	—
雇用関連	良くなっている	—	—	—
（北海道）	やや良くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・建設業界、介護福祉業界を筆頭に、企業の募集意欲は相変わらず高い。また、それにけん引されるように飲食業界などのサービス業界の募集意欲も高い。介護福祉業界、飲食業界ともに新規の開設もみられる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・依然として、求人を出す企業が増加傾向にあるが、求職者の採用は思うように進んでいない。人手不足と成り手不足が大きな要因である。新卒採用への影響を調べてみると、各大学は前年よりも数%内定率が上向いているようだが、まだ企業の新卒枠の増加まで景気が波及していない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年から25.2%増加し、42か月連続で前年を上回った。月間有効求人数も前年から22.3%増加し、42か月連続で前年を上回った。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数に若干の減少がみられた一部の業種を除き、ほぼすべての業種で求人数の増加がみられる。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数の増加傾向が継続しているなかで、景気の上向きを背景に、自己都合退職者が増加しており、無業者による求職活動が活発化している。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・数年間、大卒採用を控えていた企業が求人を出してきたり、業務拡大による求人数の増加が目立ってきている。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人は常にあるが、なかなか充足せず常に求人が出ているものが多い。
		求人情報誌製作会社（編集者）	それ以外	・求人件数が高止まりで横ばい状態になっているなか、求人側と求職者の双方に求めるスキルにミスマッチが生じている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・募集広告の売上が前年比105%と好調さを維持している。ただ、一番の大口である派遣業が前年から25%ほど落ち込んだほか、飲食も同程度数字を落とした。好調だったのは、医療、運輸、運送、土建不動産で、それぞれ前年から4～6割の大きな伸びを示した。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・7月の新規求人数は前年を26.8%上回った。新規求職者数は前年を1.8%上回った。月間有効求人倍率は0.79倍となり前年の0.67倍を0.12ポイント上回った。しかし、新規求人数のうち、正社員求人の占める割合は44.6%と高く、求人者と求職者の間における職種や条件のミスマッチも少なくないことから、依然として厳しい状況にある。
	やや悪くなっている	求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・例年この時期は求人数が減少するが、今年は例年よりも減少幅が大きく、前年実績を下回る業種が多い。前々年の実績を下回る業種もみられる。
	悪くなっている	—	—	—

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (東北)	良くなっている	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新型車効果で来客数は増加し、販売も好調で、エコカー補助金のあった前年を上回っている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・今月は大変暑かったので乗っていただいたということもあるが、乗客からも調子が悪いという話は聞かない。また、七夕まつりも開催され、人も多かった。人が集まるということは、景気もある程度良くなっているのではないかと。
		テーマパーク（職員）	単価の動き	・トップシーズンである夏休みになり、観光地で過ごす人が多いなか、商品の動きや購入単価が格段に上がっているのが実感できる。
	やや良くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・例年8月の商店街は気候やお盆などの帰省客、行楽客に大きく左右される。今年は前年よりも人が多い割に消費は伸びていないが、人が増えてきたということを一応プラスにとらえておきたい。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・雨量も少なく、ゲリラ的な集中豪雨もなく、夜は飲食を中心に来客数が多くなっている。ねぶた祭り等の大きなイベントでも人出は若干増えている。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	単価の動き	・来客数は前年比100%だが、販売単価が前年よりも100円ほど上昇しているため、その分売上が良くなっている。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・宝飾品、時計を中心に高額品が売れており、消費者の購買意欲は引き続き堅調である。今月は天候が安定していることに加え前月の天候不順の反動もあり、夏物最終セールが好調で、婦人服を始めとしたアパレル商品の売上が良い。一方で、中元商戦については震災後3年目ということで需要の落ち着きもあり、前年をやや下回っている。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・夏物のクリアランスセールも一段落し、猛暑も落ち着いてきたことから、8月前半は動きの鈍かった秋物が動き出してきている。その結果、前年を上回る売上がとれてきている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・連日の猛暑で夏型商材の動きが好調であり、店舗業績も3か月前に比べ、3%ほど増加している。
		スーパー（物流担当）	販売量の動き	・猛暑、お盆期間ということを除いても、商品の動きが良くなってきている。ただし、相変わらず1点単価は低いままで、特売チラシ等に左右される客の購買状況は変わっていない。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・8月初めの天候が悪く気温が低かったため、スタートはかなり厳しかった。しかし、前月同様、購買意欲が向上しているようで、徐々に回復し、前年比で客単価が3%、買上点数が7%の上昇となっている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・競合店出店の影響が落ち着き、少しずつではあるが客が戻ってきている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・お盆は好天に恵まれたこともあって来客数が前年を超えている。競争環境が悪化した店舗があるなかでの実績であり、人の動きが確実に活発になっていることがうかがえる。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・気温に左右される商売なので、8月の上半は低温が続く芳しくなかったが、その後は気温が高い日が続き、売上も前年を超えている。
衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・梅雨明け後、一気に季節商材へのニーズが高まり、夏物商材の動きが活発になっている。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・夏場の猛暑により、エアコン、冷蔵庫が好調である。猛暑の影響もあるが、来年消費税が上がるということで、新築した客が家電製品を買うという動きが出ているようである。
		乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・消費税率が上がるのではないかとという憶測で、購入を早めようとする人が増えてきている。
		その他専門店〔靴〕（従業員）	販売量の動き	・8月に入り、やっと梅雨明けして夏物商材の動きが活発になったが、前年に比べ来客数が減っている。客単価は上がっているものの、全体的には盛り上がりが見られない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	単価の動き	・前年の売上金額は維持しており、特に夏物衣料品のセールが好調に推移している。婦人用の高額品と、単価の低いカジュアルウェア用品のまとめ買いにて売上が伸張している。
		高級レストラン（支配人）	来客数の動き	・お盆休暇、夏祭り観光等の集客が思いのほか順調で活気がみられる。この流れが秋口まで続くかは未知数だが、期待感が持てる動きとなっている。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・このところ減っていた来客数がようやく改善されてきている。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	お客様の様子	・注文の成約率、受注数、受注単価は、引き続き好調である。
		その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	販売量の動き	・供給高が予算を達成し、前年と同程度までに回復している。来客数も予算には及ばないものの、前年実績が見えるところまできている。
	変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・今の来客の動向からみると、必要なものだけを必要などきに消費しているようで、無駄な消費はない。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・8月は諸行事が多く来街客も増えるため、潤う飲食店が多いが、街が混むことにより常連客が減ったという飲食店もある。来街客増もその程度によっては苦勞が多い。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・好転材料がなく活気がない。商店街からも、消費者からも無力感が伝わってくる。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・8月上旬に梅雨明けしたものの、景気はあまりパツとしない。生鮮野菜、食品関連の動きも悪い。婦人服店ではセール時期も決めかねていた。年間のビッグイベント、七夕夏祭りもやや盛り上がり欠けている。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・8月は七夕まつりがあるので、中旬のお盆のころまでは客も非常に多かったが、20日を過ぎると途端に客足が落ち込んでいる。月の前半が良くて、後半が悪いという状況である。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・来客数、客単価共に横ばいである。初旬は極端に悪かったが、中旬に入ってそのマイナス分をカバーすることができた。アベノミクス効果による景気押し上げの実感はまだないが、逆に悪くなくてもいい。ただし、従来の上得意客の多くが経済的に余裕を失い、逆に今まで節約志向だった客や新客に消費意欲の高まっている様子がうかがえる。昨今の積極的な経済政策の結果、生活防衛に向かう年金生活者がいる一方で、勤労者層の消費意欲が高まっているようである。
		一般小売店〔カメラ〕（店長）	販売量の動き	・高額商品の販売はやや上向きで推移しているものの、低価格商品は激減傾向が続いている。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・来客数、客単価が落ちている。買い方も慎重で、じっくり選んで本当に必要なものだけ購入している。初秋商材の動きもまだ鈍い。
		百貨店（総務担当）	販売量の動き	・来客数は前年を若干上回っているが、1人当たりの購買点数はなかなか上がってこない。高額品の売行きは引き続き上向きであるが、全体を押し上げるまでにはっていない。客単価が伸び悩んでおり、販売高としても上向きにはなっていない。
		百貨店（企画担当）	販売量の動き	・帰省、お祭りなど活発な人の動きはあったが、商品販売動向はここ数か月変わっていない。衣料品はセールの前倒しにより苦戦しているものの、高額商品の動きは良い。高額商品のなかでも高級時計は、お盆期間などは県外客の購入もみられた。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（経営者）	来客数の動き	・局地的な豪雨があるなど、天候不順となっている。雨中は入店客もなく商売に大きな影響が出ている。晩夏、初秋物は堅調だが、気温が低いせいかわ物衣料品が厳しく、足を引っ張っている。生鮮を中心とした食品も厳しい。一方で、時計、宝飾、美術品など高額品は一部の富裕層により引き続き堅調となっている。
		スーパー（経営者）	来客数の動き	・夏らしい天候で安定していることや、お盆の休暇期間が長かったことにより、トータルで来客数がプラスになっている。買上点数も高い気温で飲料など涼味商材が増加している。
		スーパー（経営者）	単価の動き	・8月の既存店は、1品単価も買上点数も推移はほぼ前年並みである。来客数が若干減で、客単価がそれをカバーする状況に変わりはない。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・7～8月にかけての来客数、客単価、1品単価はいずれも98%台で推移しており、前月と変わりはない。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数、買上点数共に変わっていない。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・地域の経済にアベノミクスの効果は及んでおらず、客の買物もどちらかというとシビアであり、安いところに行く傾向がある。財布のひもも非常に固い。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・客単価は変わっていない。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・3か月前と依然変わらず、悪い状態をキープしているというのが正直なところである。人口が減っていることもあるが、やはり、工場閉鎖といったことも大きい。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数が前年を下回るトレンドは変わらない状況である。毎月2～3%の減少が続いている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・前年より天候に恵まれているが、来客数は回復していない。
		衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・原材料の高騰により仕入価格が徐々に高くなり、小売価格に反映してきている。一方で、来年の消費税率アップの懸念から、前倒して作業服等の受注も増加してきている。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・消費税率が上がりそうなこともあり、雰囲気良くない。
		衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・スーツの売上は依然厳しいが、スーツの売上分を礼服でカバーしている。
		衣料品専門店（総務担当）	販売量の動き	・買上点数、客単価共に大きな変化は無い。消費活動も活発になっている様子はうかがえない。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・季節商材の販売が好調に推移したため、前年売上は取れている。しかし、来客数は減少しているため、景気が回復しているわけではないようである。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・猛暑への期待を込めた夏商戦であったが、扇風機やエアコン等は思うように台数が伸びていない。
		乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・土日の客の動きが3か月前と変わっていない。
		乗用車販売店（店長）	お客様の様子	・新車検討の客が減少傾向にあるようである。しかし、代わりに高額修理や車検の要望が増え、工場の収益状況は悪くはない。
		住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・新築の客が少しずつ見え始めているが、来客数が増加していないため、売上は前年比で減少している。
		住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・今月はお盆がからんだ月であったので、仏壇、仏具の販売をしている当店では仏事用の小物の販売が好調であった。しかし、単価の大きい商品は相変わらず低迷している。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	来客数の動き	・来客数はお盆ということもありまずまずだが、売上の柱になる商材に乏しく、地道に営業を重ねて何とか前年に近い数字を出している。しかし、前年が大きく落ち込んだ月でもあったため、実質的には少し悪い。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・お中元ギフトはほぼ例年並みの動きだったが、梅雨明けが異常に遅かったことに加え、その後のゲリラ豪雨の影響も大きく、生ビール等の動きが鈍い。この遅れを取り戻すのは厳しい。
		その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（営業担当）	販売量の動き	・売上は前年を下回り、全体的に見ても芳しくない。ニュースでは景気回復の傾向というような話を聞くが、身の回りでは全くといっていいほどそのような兆しはない。現に夏物の販売においては苦戦続きで、秋冬商戦でどこまでばん回できるかに掛かっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他専門店 [ガソリンスタンド] (営業担当)	単価の動き	・猛暑の影響で販売量は良かったが、度重なる仕入れ価格の上昇で、収益が圧迫されている状況は改善されていない。長引く低収益のため、経営状況に悪影響が出てきている。また、価格が高止まりしているため、心理的に節約志向が強まってきている。燃料以外の商品の荷動きが悪い状況が継続している。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・お盆休み前までは祭りなどの影響で比較的忙しかったが、休み後は人出もなく、普段とそれほど変わらないような状況である。
		一般レストラン (経営者)	お客様の様子	・イベント的に通常の価格よりも安く提供しているメニューには、人気が集まってオーダーが入る。かといって、他のメニューが売れないということは今のところないので、景気は良くも悪くも無い。
		観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・今月は夏休み、七夕まつり、お盆とイベントがあったが、団体客は全くなく、個人客で補っている。入込はかろうじて前年並みだが、売上は5%減少している。猛暑のなか、温泉地としては健闘の部類ではないだろうか。
		観光型ホテル (スタッフ)	単価の動き	・天候不順や他の行楽地の利用により、単価を下げて営業しないと集客できず、前年までにはいかない状況が続いている。
		観光型旅館 (経営者)	来客数の動き	・お盆を挟んでの10日間ほどは客の動きも活発だったが、後半は逆に全く動きが止まっている。夏休みのために子供連れの家族客は激減している。原発事故の影響がいまだに大きいとみられる。
		観光型旅館 (スタッフ)	単価の動き	・8月の宿泊人数は前年を超えて順調であったが、安い商品が主力で、人数の伸びに売上がついてきていない。
		都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・レストラン関係及びデパート地下のデリカ各店については、利用人員、単価共に比較的順調に推移している。
		都市型ホテル (スタッフ)	単価の動き	・宿泊部門は、前半は天候不順が続く例年期待できる海水浴客は前年を下回るが、後半に高校生のコンクールのブロック大会が開催され、動員数は何とか確保する。しかし、低単価のため、売上、予算共に前年に届かない。
		都市型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・宿泊部門のみ変わらずに予算を達成できている。宴会料飲関係の落ち込みはあるが、大きな落ち込みではない。
		旅行代理店 (経営者)	販売量の動き	・販売量や周りの観光施設関係、宿泊先などの話を聞いても、旅行業界では巷でいわれているような景気の上向きはみられない。
		旅行代理店 (店長)	お客様の様子	・客に景気の良さがうかがえ、ゆとりが感じられる。
		タクシー運転手	お客様の様子	・客はより安い車を選んで乗っている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・相変わらず夜間の客が極端に少ない。
		通信会社 (営業担当)	お客様の様子	・派遣やパート雇用の賃金の上昇もなく、相変わらず家計を圧迫している。ガソリン代の値上げもあり、遠出の外出を控えている傾向もみられる。よって先月より悪い傾向があるが変わっていない。
		通信会社 (営業担当)	お客様の様子	・アベノミクス効果で一時景気が上向きとなったが、その後の客の様子を見ても、平行線で推移している。
		通信会社 (営業担当)	お客様の様子	・客の設備投資意欲に関しては、それほど積極的な傾向は感じ取れない。
		通信会社 (営業担当)	お客様の様子	・依然として、客との商談からは好況感や設備投資意欲はうかがえない。復興関連業種は継続的に好調な雰囲気があるが、その他の業種からは好況感はうかがえない。
		通信会社 (営業担当)	お客様の様子	・顧客からのヒアリング状況からも、特段の変化はうかがえない。
		観光名所 (職員)	販売量の動き	・来客数は前年比100%を維持している。客単価も変わらない。ただ、お土産を扱っているのだが、できるだけ多くの人に持って帰ろうとして、単価を下げ、安い物を大量に買うという方向に向いているようである。
		住宅販売会社 (経営者)	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み受注が止まらない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	やや悪くなっている	一般小売店〔書籍〕（経営者）	販売量の動き	・全体的には地方の人口減少、高齢化に伴うマーケットの縮小がある。また、震災に伴う消費マインドの維持、高揚がいまだに追い付かない状況である。雇用の関係も良くなっているとはいえ、全般的には厳しさがあ
		百貨店（経営者）	来客数の動き	・ガソリン価格の高止まりや、後半の高温等の影響もあり、来客数が減少している。また、夏物最終処分
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・お盆明け後、客の買上点数が下がり、買い控え、更にはディスカウント商品に移行する傾向が見られる。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・お盆期間中は帰省客の買物で売上が増大するが、今年に限っては来客数の減少が顕著であり、この期間の売上の落ち込みが8月の売上低迷の大きな原因となっている。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・夏物が最終の価格になっても、なかなか売上に結び付かない。景気が良くなってきた様子は見られない。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・例年この時期はスーツはそれほど売れないので、サマーフォーマルなどフォーマルの需要を見込んでいる。しかし、今年は8月上旬まで梅雨が続
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・前年はエコカー補助金終了前の駆け込み需要があったため、今年はその反動で3割強の落ち込みとなっている。ただ、新型車の受注並びに法人需要の受注等についてはほぼ想定どおりに推移しているが、個人需要についてはガソリン価格の上昇で一部に代替延長などを考
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・ねぶた祭りやお盆等で客足が少なかったが、後半に入り、少しずつではあるが、動き出してきている。
		自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・8月に入ってから商品の動きが特に悪い。前年同期と比べても悪い。9日の経験したことのない大雨災害の復旧作業などで、お盆の外出は例年に比べ大分減ったようである。
		その他専門店〔パソコン〕（経営者）	販売量の動き	・例年と比べ、お盆前の受注が減少傾向にあった。
		高級レストラン（支配人）	来客数の動き	・今夏は猛暑及び諸々の値上げにより、来客数が減少している。
		一般レストラン（経営者）	それ以外	・円安の影響だとみられるが、材料費が3,000円台のものが4,000円くらいと、3割程度上がっている。その影響もあ
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・上旬の竿燈まつりは過去最高の人出を記録するなど、多少雨に降られた日もあったが、そこまでは非常に順調であった。しかし、9日の豪雨により新幹線が12日まで止まってしまったため、人の行き来ができない状態でお盆を迎えてしまった。盛り上がり
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・震災被災地特需はほぼ終了し、来客数、問い合わせ数共にこの2年間に比べると減り始め、来月の予約状況も前年割れとなっている。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・8月上旬からようやく夏が続
		遊園地（経営者）	来客数の動き	・お盆に土日が繋がりカレンダー的には良い条件であったが、高温が続いたことや、前年ほどの消費の力強さがないこともあり、来客数は7%ほど下回っている。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・シャンプー剤やパーマ液の値上げにより、施術料金を200～300円値上げしたところ、客から「今までグレードの高いパーマをかけていただけ普通
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・今までこなしきれないくらいあった住宅関連の仕事も、今月は少しずつ少なくな

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	悪く なっている	百貨店（買付担当）	お客様の様子	・7月以降、東北は長雨の影響で最高気温が低くなる傾向が続いており、来客数及び夏物商戦の数字に影響が出ている。
		住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・耐久消費財を扱っており、特に2、8月は悪いのだが、それにつけても、暑かったり大雨だったり天候も不順で、来客数が思うように伸びず前年を下回っている。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・前月の半ばごろから突然動きが止まっており、前月は当社が始まって以来とっていいほど悪かった。今月も選挙と長雨の影響があったためか非常に良くないので、前月と同様の状態になるかもしれない。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・7月まではやや回復基調かとみられた客の状況に、8月はかなりブレーキが掛かっている。客の財布のひもはなかなか固いようで、オーダーは安く、しかも来客数は少ないという非常に厳しい状況である。
		通信会社（営業担当）	単価の動き	・ほとんどの客はスマートフォンに変わっていて、販売量の動きとしては、お盆を挟んで3割ほど落ち込んでいる。
企業 動向 関連 (東北)	良く なっている やや良く なっている	—	—	—
		建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・本年度前半に発注された大型公共工事の受注が確定してきている。
		建設業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み出件が医療関連で多く見られ、出件数は増加となっている。
		広告業協会（役員）	それ以外	・マスコミ業界は引き合いが活発化しており、この先も好調が見込まれる。あるテレビ局の長時間番組はイベント会場でのプロモーションもあり、飲料やノベルティ商品が品切れになる状況であった。
	変わらない	その他企業〔工場施設管理〕（従業員）	取引先の様子	・新品种を立ち上げているところであるが、物流は若干の増加傾向にある。
	変わらない	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・贈答用のもの注文数及び販売単価が、前年とほとんど変わらなかった。品質的にも前年とほとんど同じである。
		農林水産業（従業者）	それ以外	・さくらんぼの出荷精算が終わったが、やや不作気味にもかかわらず、価格は例年より低くなっている。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・アメリカ産牛肉の輸入が30か月齢以下のものまで拡大されれば、牛タンももっと入ってきて、総合的には相場も下がるとみてきていたが、2月に解禁になっても量的には緩和されず、ずっとシビアな状態にある。景気は若干良いまま推移しているが、大きくは変わっていない。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・七夕まつりは3日間とも平日ということもあり、売上は厳しかった。お盆の帰省需要で少しはばん回できたが、前年には届かない。
		食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・販売量をみても、依然として景気上昇の気配はみられない。
		食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・相変わらず販売量は、横ばいしないしは微減で推移している。業界全体でも前月は前年割れとの報道がなされていた。
		木材木製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・住宅部材の需給に変化がみられない。
		土石製品製造販売（従業員）	受注量や販売量の動き	・前月の大雨による土砂災害により、震災の復興事業工事もまだまだの状態での公共事業工事や補修工事が多く出てきている。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・自動車部品は輸出環境が好転しているが、スモールカーが中心のため付加価値が減少している。
		電気機械器具製造業（営業担当）	取引先の様子	・中小企業の特に製造業では、受注量が増えているわけでもなく、悪い状況が続いている。中小企業からは、景気が上向きという政府の判断はどこを見て言っているのかわからないという声が聞こえてくる。
		電気機械器具製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・身の回りに影響のある携帯電子機器分野が受注量、販売量共に好調だが、その好調ぶりは大きく変わっていない。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・景気は部分的だが良くなっている。また、同業者でもバラつきがあるが、消費税増税ムードが出てきている。
		輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・物量が低調に推移している。また、環境的にも明るさが見られない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・顧客の継続契約案件において入札が定例化してきているなか、過去の逸注案件で復活するものも現れ始め、やや上向きの傾向が見られる。
		通信業（営業担当）	それ以外	・消費税増税への不透明な状況及び円高を警戒している。
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・コスト減の話が主であり、戦略的投資など拡大路線の企業は皆無である。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・メガソーラー関連は引き続き好調である。一方、株価、為替が一進一退の状況で、投資家も慎重になっている。
		金融業（広報担当）	取引先の様子	・原材料の価格高による仕入れ価格の上昇が続いている。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・衣料品小売店ではバーゲンを行っても目標通りの売上が達成できない。
		公認会計士	取引先の様子	・クライアントの月次、決算状況から判断すると、建設関係は全体的に小康状態であり、人不足、資材高騰で利益はさほど好転していない。小売関係は売上が前年比で縮小している。
		その他非製造業〔飲食料品卸売業〕（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・当社のデリバリーの範囲は塩釜及び海岸通りである女川から相馬までだが、震災からの復興がなかなか進んでいないようである。また、会社そのものは中小企業や小規模企業が多く、ボーナスは出ない、給料は下がったという状況で、なかなか販売に結び付いていないのが実情である。
		その他非製造業〔飲食料品卸売業〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・県内、県外向け出荷共に安定して好調が続いている。一部の高額商品のほか、定番商品も順調なことから、飲食需要の好調がうかがえる。
		その他企業〔企画業〕（経営者）	取引先の様子	・得意先の公益エネルギー企業の収支状況が低迷を続けており、その影響が当社の受注減に大きく響いている。
やや悪くなっている		出版・印刷・同関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・役所関係の仕事が大幅に減っている。復興関係以外の予算は削られているようである。
		出版・印刷・同関連産業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・前月までの売上は前年比プラスであったが、今月は前年比10%マイナスとなっている。
		広告代理店（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・自治体における印刷物の入札で、価格競争が更に激化している。
悪くなっている		コピーサービス業（経営者）	受注量や販売量の動き	・例年夏場は業績が下がる時期ではあるが、例年の状況も大きく下回っている。
雇用関連 (東北)	良く なっている やや良くなっている	-	-	-
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年比10%の増加となっている。また、3か月前と比べても12%の増加とやや良くなっている。
	変わらない	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・在職中の求職者数は増加傾向にあるものの、総数では減少が続いている。
		人材派遣会社（社員）	それ以外	・派遣需要以外の有料職業紹介事業の増加や業務委託の新規増加等で単月売上が前年比プラスを計上できたことが現状維持を下支えしている。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人サイトでの中途採用の件数は増え、1社当たりの応募数は少なくなっている状況は3か月前と変わらない。言い換えると、募集している企業が引き続き多いということである。
		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・求人と求職者のミスマッチ状態に変わりなく、特に求職者数に伸びがない。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・悪天候と円安の影響で売上が低迷した販売やフード系のアルバイト、パートの募集件数が伸び悩んでいる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	雇用形態の様子	・新規求人はやや高めに推移しているが、正社員採用は極めて少ない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・相変わらず広告出稿の動きは鈍い。しかし、放送は前年をクリアしているようなので、これは地方新聞に限ったことのようなのである。
		職業安定所（職員）	それ以外	・新規求人数は引き続き前年同月比で増加を続けているものの、これまで前年同月比で減少が続いていた新規求職者数が、わずかではあるが増加に転じているのが気に掛かる。
職業安定所（職員）	求人数の動き	・今年度に入ってから、新たな離職者数の増加は減少しているが、求人数が増加しない。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は、若干の増減はあるものの引き続き高水準を維持している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数全体では前年比増加が続いているが、業種別に温度差があり、新規開設による増員は一部で、多くは更新によるものである。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・基幹産業である製造業の求人が増加しており、求人倍率も3か月前より0.15ポイント増えているが、まだ景気が上向いている状況とはいえない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人は業種ごとで多少の増減はあるものの、高止まりの状況が継続している。
		民間職業紹介機関（職員）	周辺企業の様子	・求人企業は相変わらず、復興や介護福祉、物流といった業種に偏っている。
	やや悪くなっている	アウトソーシング企業（社員）	それ以外	・ここ数年続いていた震災関連の仕事は、津波の被害が大きかったところ以外ほぼなくなってきたので、仕事が減っている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人数はここ数か月横ばい状態である。特に期待していた地元企業からの雇用が思ったほど増えていないのが現状である。
悪くなっている	—	—	—	

3. 北関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (北関東)	良くなっている	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・前年同月比で乗客数が106%、売上が109%と販売量や買上点数が伸びている。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・戸建住宅の消費税増税前の駆け込み需要が本格化しており、通常月の1.5倍近い動きがみられる。あわせて、店舗、一般建築、太陽光発電等も以前より活発に動いている。
	やや良くなっている	一般小売店〔家電〕（経営者）	販売量の動き	・太陽光発電のリフォーム関連は順調である。一般商材もエアコン等は伸びたので今月は割合良い。
		スーパー（商品部担当）	お客様の様子	・イベント時も含め買上個数などに変化が出てきている。また、観光地など好調のように思える。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・気温が高いためにドリンク等の購入客数が増え、売上が伸びている。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・2～3か月前と比べると良くなっているが、前年比でみると7%も落ち込んでいる。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・例年夏場、特に8月はコンビニの売上は伸びる状況にあるが、今年は連日35度を超えるような猛暑の中で、アイスクリーム、飲料水、ビールといったものが割と伸びており、良くなっている。
		乗用車販売店（統括）	競争相手の様子	・来月発表される新型車の予約がそれなりに入っている。
		自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・前月悪かった分の反動か、8月終わりの来客数並びに販売量がやや多く、例年になく8月が良かった。
		住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・季節変動を除いても、客1人当たりの買上点数、客単価の上昇が見て取れるようになってきた。生活必需品だけでなく、付加価値商品や趣味品への購買意欲が高まっている。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・売上だけみた場合は近年になく良い。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・厳しい状況なのは変わらないが、客数がいくらか回復しているように思う。原価率が上がっているので多少の回復では合わないが、上向いてきているのなら、もう少し頑張ってみようという気になる。
		観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・8月は年間で最も来客数が多い月となる。今年はお盆の日並びも良く、来客数が伸びた。
		観光型ホテル（営業担当）	来客数の動き	・今夏は少雨で猛暑続きであった影響で、避暑に訪れる客が増えた。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・猛暑の中、髪をカットする客が増えているが、単価は上がっていない。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・別荘訪問者数がやや増加している。
		住宅販売会社（経営者）	来客数の動き	・来年4月からの消費税増税の影響で、需要の先食いが目立つ。建物の消費税は金額が大きいため検討する顧客が多くなってきている。住宅ローンの金利上昇も影響していると思われる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・夏休みが終わり、いよいよ2学期が始まって、これから各学校で体育祭や運動会があるので、店頭販売も前年同様にいくらか忙しくなる。
		一般小売店〔精肉〕（経営者）	お客様の様子	・地域の花火大会は盛況であった。また、各町内ごとの納涼祭もなんとか行われている。ただし、ガソリンの値上がりで出掛けるのを控え目にする人が多くなってきた。その分消費が増えればよいと思うが、こちらも控え目である。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	お客様の様子	・猛暑の影響でエアコン等の売上は良かったが、これも必要に迫られての購入であり、消費者の購入意欲が出てきたわけではない。相変わらず消費には慎重さがみられる。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・一部初秋商材の動きがみられるものの、客の視線は依然お買得品に向いている。正価品の落ち込みをセール品でカバーしている状況であり、価格に対しシビアな状況は以前と変わらない。
		百貨店（販売促進担当）	単価の動き	・下旬まで気温の高い日が続き、大きく来客数が落ちた。各商品群とも低調だが、客単価はあまり変わっていないため、3か月前と比べても変わらない。
		百貨店（店長）	お客様の様子	・一部高額品は売れているが、全体的にみるとあまり変わらない。衣料のバーゲン品は50%オフを超えるまで買い控えがある。気温の変動により秋物の動きが厳しい。
		百貨店（店長）	販売量の動き	・前年に比べれば良くなっているが、ここ数か月はあまり変わらない。都内のように高額品が特別売れているわけではない。
		百貨店（店長）	お客様の様子	・セールの商品であっても、必要以上に無駄な買物をしないという姿勢が客の動きに顕著にみえるということからの判断である。
		スーパー（店長）	単価の動き	・数か月間、客単価の変化がない。
		スーパー（店長）	単価の動き	・来客数は好調であるが、1点当たりの単価が上がらないため、前年をクリアするのが厳しい状況である。仕入価格が上がっているが、売価への転嫁もできないため、利益面も厳しい。
		スーパー（総務担当）	販売量の動き	・前年度の売上数値と比較しても、ほとんど変わらない状況である。
		スーパー（経営企画担当）	単価の動き	・お盆商戦は前年並みの売上を確保できたが、その後は悪天候の影響もあり、来客数が落ち込み前年の売上に届かなかった。ただ、1品単価は前年を上回るようになってきている。
		スーパー（統括）	単価の動き	・猛暑が続き、アイスクリーム、カキ氷は前年比112%で、特に、プレミアムアイスは121%と大きく伸びている。ビール、発泡酒も109%で、プレミアムビールが115%の伸びを示し、「ちょっといいもの」の動きが良い。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・随分暑かったこともあり、水物やアイスクリームなどは大分伸びたが、一般的な物がなかなか出なかったので相殺したような形で、トータルでは大きな変化がないような状態である。
		衣料品専門店（経営者）	それ以外	・商品を買いたいと思っている人が少なくなってきた。
		家電量販店（店長）	単価の動き	・前年と比べ、主要な商品の単価が上がっている。テレビに関しては、ようやく金額で100%をクリアしている。猛暑のおかげでエアコンや扇風機などの夏物商材が健闘し、8月は良くなっている。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・当社では新車の販売台数が落ち始めた。しかし車検台数は増えているので、売上高は減少しているものの、粗利益としては横ばいという感じである。ただし、ディーラー以外の同業他社からはあまり良い話は聞かない。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・売上台数は増え、前年比104.7%である。売上は増えているものの、依然コンパクトカーの販売で収益は低く、非常に厳しい状況は変わらない。
		乗用車販売店（管理担当）	販売量の動き	・アベノミクスによる円安は安定しているが、輸入品の値上がりにより購買意欲は低下している。また、消費税増税の報道により、住宅メーカーは受注が順調に伸びてきている、これも一時的な傾向といえる。
		乗用車販売店（店長）	来客数の動き	・いまだに客足が鈍い。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		住関連専門店 (店長)	来客数の動き	・販売量は前年を上回っているが、来客数は前年を下回っている状況である。
		住関連専門店 (仕入担当)	単価の動き	・販売数、単価とも悪い方向に向かっている。生活用品については前月の販売不振から各社による販促が活発化し、低価格販売が増えている。
		一般レストラン (経営者)	お客様の様子	・この3か月間、来客数も客単価もほぼ変わらず、売上も大体横ばいの状態が続いている。売上が増加するような兆候はない。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・上向き業種、下向き業種の差が出てきているようだが、消費税増税の影響は多方面にわたり出てくると思われ、大手ではない一般サービス業や飲食業にはかなり悪影響が及ぶように思われる。
		スナック (経営者)	競争相手の様子	・アベノミクスの効果がどこまで届いているのか、この末端では見えない状況である。競争相手もますます増えている。
		都市型ホテル (支配人)	来客数の動き	・先の予約状況が悪いまま変わらない。
		都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・来客数の動きとしては前年とほとんど変わらない状況であるが、やはりお盆になると宿泊客、宴会関係共にやや落ち込んで、頭が痛いところである。
		都市型ホテル (営業担当)	販売量の動き	・ビジネス系のホテルであるが、客室の稼働については、お盆や夏休みの連休の関係で多少下がったものの、おおむね3か月前と変わらない状況である。
		旅行代理店 (所長)	来客数の動き	・円安基調のため、外国人の来訪者が目立つが、逆に日本人が減少傾向にある。猛暑のため海へ行ったか、あるいは世界遺産関連で東海エリアにシフトしたのかと思っている。
		旅行代理店 (副支店長)	お客様の様子	・昨年よりも夏休みのグループ旅行や家族旅行の相談、受注が少ない。来客数はあまり変わらない。客に迷いがあるのか、相談や受注のタイミングが遅く、相談を受けた時点で既に手配が不可能な商品も見受けられる。
		旅行代理店 (営業担当)	販売量の動き	・夏の旅行シーズンを迎えたが、猛暑の影響なのか、期待したほど売上が伸びていない。
		タクシー (経営者)	お客様の様子	・人の動きが鈍く、タクシーを利用する人も少なく、前年同月比で8%の減少である。
		通信会社 (経営者)	お客様の様子	・解約、休止は減少しつつあるが、新規加入にはまだまだである。
		通信会社 (営業担当)	販売量の動き	・夏季休暇の影響も落ち着き、景気回復への期待感が続くものの、消費税増税の不安から現状維持が続く。
		通信会社 (局長)	お客様の様子	・季節要因により販売数量は減少しているが、これを除外しても、客の様子を見る限り、3か月前と比較して消費行動がやや鈍化している。夏季休暇で他に消費がかさみ、その反動なのかもしれない。
		ゴルフ場 (支配人)	来客数の動き	・イベントの参加者や飲食店のコンベが増加してきた。ただ、今年は猛暑と少雨のため、散水作業が多く、電気使用量も増加したことから経費が非常に増えている。
		競輪場 (職員)	お客様の様子	・入場者数、購買単価共にほとんど変化がみられない。
		その他レジャー施設 [アミューズメント] (職員)	来客数の動き	・特に変化があるようには感じられない。
		美容室 (経営者)	来客数の動き	・暑い日は来客数が極端に少なくなる。その分、他の日に来店するかというところではないので、売上は伸びない。
		その他サービス [イベント企画] (職員)	お客様の様子	・燃料費の高騰等で出控えているためか、人の流れは変わらない。
		設計事務所 (所長)	来客数の動き	・相変わらず先月と同じ状況で、9月内契約がもはや困難ということからか、新規情報はほとんどない。
		住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・今月は特にこれといった進展はない。周りの空気もなんとなく沈滞している感じである。
		やや悪くなっている	商店街 (代表者)	来客数の動き
商店街 (代表者)	来客数の動き		・今年の8月は驚くほど悪い。来客もなく、品物も売れない、売上も最低である。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		商店街（代表者）	来客数の動き	・来客数は前年同月比で減少しているが、客単価が微増ではあるが7%ほどの微増となっている。
		一般小売店〔青果〕（店長）	販売量の動き	・例年、お盆は少しずつ売れなくなっているが、今年のお盆ほど果物が売れなかったことは初めてである。暑さで水物に動いているのかもしれないが、市場で聞いても今年は果物が本当に売れなかったようだ。
		家電量販店（営業担当）	販売量の動き	・季節商材は好調に推移したが、映像商品の動きが依然回復していない。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新型車の受注が始まっているが、発売が9月のため、今月の商売にはつながない。
		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・6、7月は天気が良く、客が海や山に行ってしまう、販売量が落ち込んでいた。ただし、修理関係はかなり増えているので、全体としてはさほど大きな落ち込みもなく、売上としても落ち込んでいない。その2～3か月前と比べると、販売量がやや減っており、少し悪くなっている感じがしている。
		高級レストラン（店長）	販売量の動き	・月の前半からお盆までは前年を多少上回るペースだったが、お盆が終わってから集客、売上共に激減し、結局前年同月比で20%近く落ち込んでいる。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・毎年夏場は客が減少する。今年は特に宴会関係が激減している。
		通信会社（経営者）	お客様の様子	・今年は猛暑の影響でガスの使用量が減っている。
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・東日本大震災後、学生団体の減少が止まらない。
		遊園地（職員）	来客数の動き	・猛暑や週末の雨天の影響で、3か月前と比べ来客数の動きは鈍くなっている。
		ゴルフ場（業務担当）	販売量の動き	・天候の影響で今月は入場者が大分少なくなっている。ただ、天候要因なので景気との関係がどうかというのは不明なところもある。
		その他サービス〔立体駐車場〕（従業員）	来客数の動き	・天候不順の場合、通常は来客数が増えるところだが、今月は逆に減っている。そのため販売量、売上も減少しており、悪くなっている。
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・何物件か重なっていた物件も落ち着いてきて、余裕が出てきている。
		悪くなっている		商店街（代表者）
スーパー（経営者）	競争相手の様子			・完全なオーバーストア状態が続いている。食品スーパーに限って、大手スーパーの低価格戦略が更なるデフレ要因になってくると感じている。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き			・月後半に暑い日が多く、来客数が極端に減少した。また、初秋物、夏物処分、どちらの動きも悪い。
衣料品専門店（販売担当）	来客数の動き			・8月は季節の変わり目で、夏物が終わって秋物が立ち上がる切替え時期のため、例年かなり売上が落ちるのだが、今年の8月は本当に悪い。猛暑もそうだが、何より家計を直撃するような身近な物での値上がりが多すぎるからか、来店客が極端に少なくなっている。通常であれば来店客と話をしてその様子からうかがえるものがあるが、それ以前の問題になってきている。
スナック（経営者）	来客数の動き			・6、7月と比べると売上の伸びが落ちている。また、来客数も減少している。
タクシー運転手	お客様の様子			・例年2月と8月は、仕事の少ない月だが、特に今年は、異常なぐらいタクシーを利用する客が少ない。町の中も人通りがなく、お盆の後の日曜日などは、朝から仕事しても売上が5千円にならない同業者が多数いた。駅から降りてきても、自家用車の迎えが多く、タクシーに乗らない。会社存続の危機である。
通信会社（経営者）	販売量の動き			・一般企業、商店、団体など、当社の得意先から例年ある受注は、東日本大震災以来、ほとんどが差し止めになっている。
企業動向関連 (北関東)	良く なっている やや良く なっている	その他製造業〔環境機器〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・太陽光発電関連で、バブル期に似た動きがあり、高額な見積書が飛び交っている。現在、太陽光発電関連においては景気はかなり良いと思える。
		食料品製造業（営業統括）	受注量や販売量の動き	・8月に入り、猛暑日が16日も続いた影響で、ワインより他の酒類への移行がみられ、伸び悩んだ。
		建設業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・国土交通省による労務単価引き上げの影響か、同じ工事でも利益率が良くなっているように感じる。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・建設業の受注増加や非製造業で業況感の改善がみられるためである。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
変わらない		金融業（経営企画担当）	取引先の様子	・営業エリア内に富士山の世界遺産の構成要素が多くあるためか、前年と比べ客足が伸びている。	
		金融業（役員）	受注量や販売量の動き	・建設業の公共工事や住宅関連、自動車関連の下請等の受注は増加しているものの、それ以外の業種は依然低迷している。	
		司法書士	受注量や販売量の動き	・例年少し落ち込む8月だが、今年はやや例外的に落ち込みもないため、やや良くなっている。	
		化学工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・仕入原材料の値上がり分を製品価格に転嫁しようと努力しているが、販売先との交渉が難航している。	
		窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・夏体験型イベント参加で一時的に集客はあったものの、状況は相変わらずの低迷している。	
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・まだまだ全体的な動きが鈍く、前年同月比で1～2割の減少が続いている。	
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・当社の50年目の決算は11年ぶりの赤字決算となってしまった。非常に厳しい状況である。しかしながら、ここに来て仕事の話がぼつぼつ出てきているので、もしかしたら2～3か月後には回復するかという気がしている。	
		輸送用機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・7～9月と試作品の特需があり、この2～3か月はやや良くなっている。	
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・暑さが続き、エアコンや扇風機など、家電の物量は前年を上回っている状況であるが、円安や産出国エジプト等の政情不安により、原油高による燃料コストの負担が大きくなり、利益が薄くなっている。	
		新聞販売店〔広告〕（総務担当）	取引先の様子	・雨などによる災害もなく、暑い夏で、夏物の売行きは好調だと聞いている。また、7月に新規開店した家電量販店に対抗した同業者及び周辺店が活気づいており、チラシ出稿量は103.1%となっている。	
		経営コンサルタント	それ以外	・街中の人出や人の流れ、一般主要道や生活道路の車の通行状況、沿道の商店や施設を訪れる人の流れ、主だった観光スポットなどの人出などに例年並みの動きが見え始めているが、まだ全体的な傾向とは思えない。	
		社会保険労務士	取引先の様子	・外出する人は増えているが、遠出するのだけで手一杯で、あれこれ現地でお金を使う余力はまだ無いようで、売上が伸びる状況ではない。	
		その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・上半期末に向けて受注量が増え、収益の改善が進んでいるが、一時的な現象と思われる。	
		やや悪くなっている	食料品製造業（製造担当）	それ以外	・販売数量はほぼ横ばいだが、原材料価格を含め、経費が上がっているため内容は厳しくなっている。
			出版・印刷・同関連産業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注件数が1割くらい減っている。
窯業・土石製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き		・低調に推移している。		
電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き		・受注も少なく、厳しさは変わらない。特に、光学関係の企業が厳しい状況だと聞いている。		
輸送用機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き		・受注量はそこそこ確保されているが、燃料価格の高騰など、もろもろのコストが上昇傾向にあるため、収益は非常に厳しくなっている。例年8月はメーカーが生産調整するので、9月以降に期待している。		
建設業（開発担当）	受注量や販売量の動き		・公共工事は現政権のもと、必要な社会資本維持管理・更新が重要視されてきているが、地方まで実施されるには時間がかかる。民間工事については、新規物件がなく修繕工事だけである。受注高は前年比8%減で、営業に力を注いでいるが即効性がないのも現状である。		
不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き		・受注額が下がったままで、上げることができない状態が続いている。		
不動産業（管理担当）	受注量や販売量の動き		・今月に取引先数か所で業務の発注見直しがあり、今まで受けていた管理、保守作業がなくなってしまった。その分だけ年間の売上が減少してしまっている。		
広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き		・夏の販促は例年通り減少した。ゴールデンウィーク後からの減少が著しい。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	悪くなっている	その他製造業 〔宝石・貴金属〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・8月に2回の新作発表展示会を行ったが、どちらも来客数が大幅に減少しており、景気回復への道筋は見えない。売上は前年比マイナス傾向が続いている。また、円安のため、輸入材料の価格が高止まりしていることが商品開発を難しくしている。
雇用 関連 (北関東)	良くなっている	—	—	—
	やや良くなっている	人材派遣会社 (経営者)	求人数の動き	・夏休み期間中ということもあり、夏物衣料、レジャー施設等の利用はかなり増えたようである。製造業等では住宅は横ばいと思われるが、増改築や施設の改善等での設備投資が若干出ている。携帯ではスマートフォン等の部品製造も、求人募集の内容からして多いようである。
		人材派遣会社 (経営者)	求人数の動き	・お盆明け以降、何社からも募集がきており、当社の仕事としては良くなっている。
		人材派遣会社 (管理担当)	採用者数の動き	・携帯電話関連の派遣社員採用人数が増えている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数は増加しているが、製造業は減少傾向にある。鉄鋼などの副資材や主材料、電気、油関係の価格がじわじわと上がってきているが、製品に転嫁できず、収益を圧迫している。運送業は仕事が増えてきているが、燃料費の値上げで収益は厳しい。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・業種により違いはあるが、全体的には求人数は増加し、求職者は減少傾向にあり、求人倍率も上昇していることから、景気は上向き傾向にある。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・建設業での求人増、製造業での人材確保の動きがある。景気回復に対する期待感が高い。
		変わらない	求人情報誌製作会社（経営者）	周辺企業の様子
	職業安定所（職員）		求職者数の動き	・5～7月の新規求人数は前年同月比で0.9%減少にとどまっている。一方、新規求職者は同6.6%増である。前月も報告したが、官内主要企業及びその関連企業で12月から3月にかけて早期退職を実施、その後、4～6月にかけてさらに追加で実施した影響で、求職者が増加している。新規求職者数は前年同月比で4月が7.5%、5月が6.4%、6月が2.6%増加しており、7月も10.9%増と依然厳しい状況である。
	学校〔専門学校〕（副校長）		求人数の動き	・求人の増えた職種と、ここ数年求人数が変わらない職種にばらつきが出てきている。求人数の状況を見る限り、景気が上向きであるとは思えない。
やや悪くなっている	○	○	○	
悪くなっている	—	—	—	

4. 南関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (南関東)	良くなっている	その他小売 〔ショッピング センター〕（統 括）	販売量の動き	・8月は暑い日が続ぎ、夏物衣料が引き続き売れている。また、映画も好調である。
		住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・契約数が前年同月比で150%となっている。
	やや良くなっている	商店街（代表者）	それ以外	・夏の終わりや猛暑の時は、屋外型の商店街である当地域の景気は良くないのが常だが、今年はアジアの観光客が多く、来街者は全般的に多めである。また、クレジットカードの取扱も相変わらず堅調である。
		一般小売店〔家電〕（経理担当）	販売量の動き	・景気が良いとは思えないが、暑さのせいでエアコン、冷蔵庫などが動いている。また、古くなった設備の交換などの仕事も多い。購入した業者が辞めてしまい、当社に依頼がくることも増えている。難しく手がかかるが、金額としては大きなものが多い。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般小売店〔祭用品〕（経営者）	販売量の動き	・夏のイベントで消費が増えてきている。
		百貨店（売場主任）	販売量の動き	・セールが好調で、気温も高いことから前年同月比で販売量は約10%増加、化粧品の販売量も6%増と大きく伸びている。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・宝飾品、高級時計を中心とした高額品、海外のラグジュアリーブランドが大幅プラスを維持し、商況全体を底上げしている。
		百貨店（販売管理担当）	お客様の様子	・価格に敏感な客が多いことに大きな変化はないが、気に入った商品があれば、セール品に限らず、プロパー品を購入する客が増えている。
		スーパー（仕入担当）	来客数の動き	・来客数自体は前年同月比で3ポイントほど上回っているが、買上点数の減少により客単価は前年同月割れ、売上は前年同月並みで推移している。
		スーパー（ネット宅配担当）	販売量の動き	・美味しい高品質商品の動きが良い。酷暑で来店客が減っているが客単価が良い。
		家電量販店（営業統括）	販売量の動き	・デジタルカメラ、腕時計、タブレットパソコンなどを中心に新製品が続々と発売され、購入する客が増加している。また、外国人観光客も引き続き多数来店しており、デジタルカメラ、腕時計、化粧品の売上が伸びていることも大きなプラス要因となっている。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・8月は稼働日数も少なく、例年同様に低迷するはずだったが、今年は来店客も多く、景気が良くなっていると感じている。
		乗用車販売店（販売担当）	競争相手の様子	・我々中古車屋は、今の状況は景気が良かったり悪かったり、需要が増えたり減ったりということではなく安定していない状況である。ただし、全体的な雰囲気は良くなっているし、競争相手もダンプカー、ミキサー車、クレーン車については大きく在庫を抱えて活用しようという動きが出ている。東北の復興需要で景気は持ち直して良くなるのだろうが、現状は足踏み状態である。
		乗用車販売店（渉外担当）	お客様の様子	・各メーカーの新型車が続々と発表され、特にハイブリッドカー、軽自動車、輸入車等を検討するユーザーが多い。免税車、減税車も増え、グリーン化税制も継続中なので、今後もやや良い状況が継続する。
		高級レストラン（支配人）	来客数の動き	・個人に比べ、企業の動きがやや活発になってきた。アベノミクス効果も少しずつではあるが、我々飲食業、サービス業にも浸透しつつあるのではないだろうか。
		旅行代理店（経営者）	単価の動き	・客の様子や販売量の動きなどはさほど変化はないのだが、単価に関しては多少だが上がってきているので、やや良くなっている。
		旅行代理店（営業担当）	販売量の動き	・富士山関連の商品の申込が順調である。
		タクシー運転手	お客様の様子	・いつもは自転車を利用しているが、この暑さではとても耐えられないため、タクシーを利用しているといった客の話も多く、時として集中的な大雨もあり、昼間の利用数は今までの倍近くに増えている。景気の上向きと異常気象により、売上が伸びている。
		通信会社（社員）	お客様の様子	・加入が予定通りの推移となっている。また、解約は減少傾向にある。新規サービスへの加入は出足はつまづいたが、ここにきて安定して伸びてきている。この先2、3か月は好調を維持できる見込みである。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・低迷していた販売量が持ち直してきている。
		通信会社（局長）	販売量の動き	・夏季休暇中の様子から、余暇に消費する意欲が感じ取れる。いえなか族としての過ごし方はほとんどなく、外出して消費する姿勢は出てきているようである。
		パチンコ店（経営者）	来客数の動き	・猛暑のおかげかもしれないが、店内は冷房がよく効いているので、昼から夕方にかけて涼みに来ながら遊技をするという人が少し増えたようである。また、夜も若干だが増えているので、やや良くなっている。
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・今後の業務の依頼が増えてきている。
		設計事務所（所長）	お客様の様子	・消費税率5%の経過措置が適用される9月までの契約締結を目の前にして、急ぎの依頼があり、多少契約に結び付いている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		住宅販売会社 (経営者)	それ以外	・住宅を主に扱う不動産開発業と総合建設業だが、当社においては直接景気が良くなっているとは感じられないが、世間のムードが明るさを持ってきているように思う。公共工事は現政権に変わり、たくさん出ているが、ほとんど赤字の状態、ムードだけではなく本当に個人消費が増えて景気が良くなることを期待している。
		住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・住宅の先高感により、販売量が増えている。
		住宅販売会社 (従業員)	それ以外	・戸建ての販売は若干良い動きになっており、在庫が少なくなってきて販売するものがなくなっている状況である。仕入も徐々に上がってきたが、数字になるのはまだ先である。
		その他住宅〔住宅資材〕(営業)	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要が期待できるところからは受注が伸びている。
	変わらない	商店街(代表者)	来客数の動き	・今まで景気が持ち直しつつあると感じたことがあったが、お盆を過ぎてから少し低調になってきた。客の来店が非常に鈍い動きになっており、前年の売上に届くことが非常に難しくなっている。
		商店街(代表者)	来客数の動き	・最近の天候は非常に不順で、客の出足が悪くなっている。この状態が長く続いているので、売上がかなり落ちている。
		商店街(代表者)	来客数の動き	・8月には子どもを連れて祭りや海などに行く人が多く、店に客が来ない。また、良い時間帯には豪雨が降るといような状況が続いており、非常に困っている。
		商店街(代表者)	お客様の様子	・商店街、街の中小小売店では、販売量の低下や後継者不足のなか、夜7時には早くもシャッターを閉めたり、その場限りのたな子の出店を許すことで、より一層顧客離れが進行している。大型店やコンビニ等の出店規制がなされない限り、とう汰されるのを待つばかりのように感じられる。
		一般小売店〔印章〕(経営者)	来客数の動き	・いつも悪いと回答しているが、今回はやや悪いと回答した。わずかだが客が増えている。持続して欲しい。
		一般小売店〔米穀〕(経営者)	お客様の様子	・上向きになるような具体的な状況は見られないが、今後は良くなるような気がする。9月7日にオリンピックが決定すれば非常に明るい方向になると思うが、今はこれといった材料が特でない。
		一般小売店〔靴・履物〕(店長)	単価の動き	・この夏の酷暑で売上自体は前年同月に比べて悪いが、3か月前と比べると、悪い状態が変わらない。
		一般小売店〔文具〕(販売企画担当)	販売量の動き	・今月に関しては、BtoBは大変良かったという感じがある。しかし、BtoCの方は暑かったせいなのか、客足が鈍り、伸び悩んだ感がある。総合的に判断すると、やや良かったが、これがどれだけ続くのかは、少し疑問な点もある。あまりその先の物件がみえてきていないということも現状である。
		一般小売店〔茶〕(営業担当)	単価の動き	・来客数は増えているが、ギフト需要が少なく、売上額は下がっている。
		百貨店(総務担当)	販売量の動き	・今年度に入ってから、前年同月比102~104%という売上の動きは変わっていない。来客数が少し良くなってきつつあるが、まだ一進一退で、良くなっているとはなかなか言えない。
		百貨店(総務担当)	来客数の動き	・昨今気温が高いことなどの要因はあるが、客数は依然低迷している。ただし、買上率は向上していることから、いかに来店してもらうかがキーポイントになる。
		百貨店(広報担当)	お客様の様子	・当初予定していた売上までは達していないが、春先から現在に至るまで継続して売上が伸びている。現在行われている高級時計の販売会も前年比1.3倍以上で推移し、継続して高額品が堅調な伸びを示している。特に、来客数に関しては地下鉄の相互乗り入れ延伸が実施されたとはいえ、昨年まででたらだと低下の一途であったものが増加に転じたのは特筆される。
		百貨店(営業担当)	販売量の動き	・猛暑など天候の影響も大きいですが、夏物の販売数量が上がっていない。まだ秋物の需要はなく、厳しい状況は続いている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・宝飾品等の高額品の動きは落ち着く一方で、服飾雑貨関連の動きが持ち直している。食料品は3か月前に比べ、前年比7ポイント改善している。一部商品の値上げの影響も一因と考えられる。来客数は猛暑の影響もあり、3か月前と比較して10ポイントほど下がっているが、購買単価上昇の影響で相殺されている。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・天候不順等もあり、夏物クリアランスが思ったほど伸びていない。一方で秋物も展開はしているが衝動買いも少なく、客は吟味して購買している。
		百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・消費に関して慎重な動きは継続している。衣料品等のセール品に関しても売りつくし等、最終価格になるまで購入を待つ傾向がみられる。婦人衣料に関しては、秋物の動きが鈍い。
		百貨店（店長）	販売量の動き	・夏物消費が思ったより良くなかった。株価の低迷も要因ではないかと思う。
		百貨店（営業企画担当）	お客様の様子	・宝飾品は引き続き好調だが、円安による値上げがあった海外特選ブランドは販売数量が減少している。猛暑の影響で紳士服、子ども服などは動きが良いが、シーズンを先取りする婦人ファッションは伸び悩むなど、商品により販売動向にばらつきが出ている。
		百貨店（計画管理担当）	販売量の動き	・今月は日配品の催事があり、告知、準備数量を増やしたこともあったが、とてもにぎわい、売上も前年を大きく上回った。お得感のある商品であれば、購買意欲は盛んであることが感じられる。
		スーパー（経営者）	単価の動き	・1点単価が少し高くなっているため、それで景気が少し上向くかもしれない。ただし、来客数が相変わらず良くないので、合わせると数字としては他の月と同じぐらいになってしまう。
		スーパー（店長）	単価の動き	・来客数、買上点数は前年並みを維持しているものの、依然として単価の上昇がみられない。特売の構成比が以前より上昇しているのもあるが、より安い物への嗜好はまだぬぐい切れていない様子である。
		スーパー（総務担当）	お客様の様子	・来客数は前年比マイナス4%ぐらいだが、買上点数、平均単価を含めた客単価自体が前年並みで動いていないため、売上も4%ほど落ちている状況となっている。8月は、猛暑、酷暑の割に夏物の売行きがあまり良くなく、また、頻度性の高い物の売行きもあまり良くない状況である。
		スーパー（営業担当）	単価の動き	・7月下旬は天候不順により若干厳しい状況であったが、8月に入って猛暑が続き、夏物商材の動きの活発化が顕著になってきている。
		スーパー（仕入担当）	販売量の動き	・猛暑の影響により、アイス、飲料等の盛夏商材が前年比2けた増で伸びているが、価格訴求の弊害もあり、数量と売上の伸びが比例していない。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・プレミアム商品の売上は伸びているが、ビールや飲料水の売上が減少している。要因は、大手スーパーで安売り時にまとめ買いをすることと、急速に広まったネットスーパーの利用により、水物の持ち帰りが減り、コンビニ利用に急激な変化が出てきたものと思われる。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・お盆休みを長期間取れる日程だったからか、今年の8月は例年に比べ来客数が特別増えていない。当店は駅に近い立地なので、近隣、あるいは朝、夜、通勤、通学客がいた方が売上も上がり、来客数も増えるような感じである。そのため、例年より若干来客数が減っている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・円安による燃料価格の上昇、また、給料も上がらないというような話がある。この夏のボーナスもあまり良くなかったということもあり、総体的にこの先もあまり良くない。
		コンビニ（経営者）	単価の動き	・相変わらず客単価の前年割れが続いている。今後の変化にも期待できない状況である。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・高額品が少しずつ売れ出しているのはプラス要素だが、たばこを購入する客数が想定より減少しており、結果として横ばいとなっている。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・時間帯サービス、あるいは曜日別のセールの日というように、スーパーやコンビニなどの使い分けが依然として続いている。
		コンビニ（商品開発担当）	販売量の動き	・前半は気温の上昇に伴い販売量も伸びていたが、お盆以降はゲリラ豪雨等の影響により伸び悩んでいる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ（商品開発担当）	来客数の動き	・来客数は減少傾向にあり、下げ止まりが見えてこない。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・夏物衣料の晩期でも安いからと飛びつかず、必要なものしか買わない。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・家電量販店における低価格競争は落ち着いてきたが、販売量としては買換え需要を含め、前年同月比で減ってきている。
		家電量販店（統括）	来客数の動き	・来客のうちレジを通過する客数が10%という傾向が続く。単価の上昇で売上は前年同月比100%を超える状況であるが、夏物の終息とともに、来客数の落ち込みは今後大きく影響する。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・自動車の整備と販売をしているが、整備の方は順調に入っているものの、販売があまり芳しくなく、前年度2割減となっている。
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・8月はメーカーも当社も夏期休暇がある影響で稼働日数も少ないが、例年以上に暑い日が続いたために来店客も少し減少してしまっている。
		一般レストラン（経営者）	競争相手の様子	・このところ高齢化で同業者の廃業が多く、後継者の事業継承には工夫が必要であり、後継ぎ不足も深刻である。
		一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・3か月前と比べて、前年よりは多少はプラスになっている。客の様子をみても、領収書を切って帰る客もそれほどいないし、給料が上がってたくさん使っていく客もいない。雰囲気的なもので多少はプラスになっているので、このまま給料が上がれば、もう少し良くなる。
		一般レストラン（スタッフ）	お客様の様子	・当店は焼き鳥屋なので、他の商売とあまり比べられないが、街の中をみても、アベノミクスといっても雇用と給料が上がってないため良くなっていない。富裕層は株などを動かしているだけで、雇用も生まず、何もないため、良くない。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・前年同期比で販売量が若干下振れだが、ほとんど同じ状況である。
		旅行代理店（支店長）	販売量の動き	・今年の8月は前年と比べると大きな差があった。学校関係は順調だったが、昨年オープンしたスカイツリーに対する団体客などが減少し、その分厳しい数字になっている。ただし、全体的には3か月前と変わらず、スカイツリー以外の動きは比較的順調である。
		タクシー運転手	お客様の様子	・今月は曜日の関係もあるが、お盆が前倒しということで、仕事としてはあまり良くない状況である。今後もあまり変わらないのではないかと。不動産業界はいくらかは良いという話もあるが、当業界はやや悪いようである。
		タクシー運転手	来客数の動き	・タクシーを使う客数は以前と変わっていない。
		通信会社（経営者）	販売量の動き	・テレビ、インターネット、固定電話、携帯電話共に計画どおりの加入を獲得している。
		通信会社（経営者）	お客様の様子	・相変わらず景気回復を市民が感じられるレベルにはなっておらず、料金に対する考え方はシビアである。
		通信会社（管理担当）	販売量の動き	・前月までのトレンドに変化はない。10月ごろまでは例年変化はあまりみられないことから、このまま変わらない。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・顧客の契約するサービスプランは低価格のものが多く、中小小売店は閉店しているところも多い。集合住宅も空室が多く、見込客が減少している。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・ここ数か月、契約数がほぼ横ばいの状況が続いている。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・新規加入状況や、コース、プラン変更については、ランニングコスト削減の意識は相変わらず強く、上位コースから下位コースへの変更が多い。
		通信会社（総務担当）	単価の動き	・日常の食料品購入時の価格が一部上昇しているが、異常気象や夏休み関連特需と考えられる。相対的には変化はない。
		通信会社（経営企画担当）	お客様の様子	・客からの受注、売上も上向きな変化はみられず、客によっては減っている状況もみられる。
		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・7、8月は猛暑で、来客数は前年を下回っている。景気が上向きなら、人はもっと元気になり、暑さにも負けまいと頑張るのではないかと。
		その他サービス[保険代理店]（経営者）	来客数の動き	・顧客の増加がない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		設計事務所（経営者）	それ以外	・当社は、建築設計ということで動いている。行政の仕事は、2～4月に仕事を取り過ぎてしまったという経緯があり、今は現場で夏休み工事をしている。そのため、新しい仕事も取れない状況である。選挙が終わってから大変な伸びがあったが、今はあまり変わらず、この夏どのように変わっていくのか様子見の状況である。
		設計事務所（所長）	お客様の様子	・今月初めに民間の動きが具体化する予定であったが、景気の先がよく見えないことから、相手の都合により延期となった。
		設計事務所（職員）	それ以外	・具体的な変化は感じられない。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・消費税増税に伴い、税率5%の経過措置が適用されるのは9月末までの工事請負契約締結とされているが、客の態度から契約を急ぐ様子や焦りは見られず、受注量にも変化はない。
	やや悪くなっている	一般小売店〔和菓子〕（経営者）	来客数の動き	・猛暑による影響で来客数の減少が目立っている。
		一般小売店〔家電〕（経理担当）	来客数の動き	・今年は例年のない猛暑だったが、8月になってエアコンの売上が伸びていない。数としては、それほど売れていない。
		一般小売店〔家具〕（経営者）	来客数の動き	・3か月前ぐらいから多少上向いてきており、来客数も多くなってきたような感じがしたが、最近になってまた以前のように戻っている。
		一般小売店〔茶〕（営業担当）	販売量の動き	・当業界の天敵は今月に入ってから猛暑であり、売上が減少している。今年は35度以上の日が今までになく多く続いている。煎茶の販売においては、熱いお茶はほとんどの人は飲まず、冷たいジュースか、冷たい麦茶に人気が移る。例年以上にお茶の販売量が少ないのが、はっきりと浮き彫りになってきている。
		百貨店（総務担当）	来客数の動き	・個人消費は好調とは言えない。
		百貨店（副店長）	販売量の動き	・ゲリラ豪雨など天候の影響があり、売上が極端に悪い日が多い。夏休みのイベントを開催しても売上に結び付かない。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・当店は駅前に近いが、本来ならば小売業にとって書き入れ時のお盆に需要がほとんど見込めず、店の周りが一部ゴーストタウン化してしまったような状況で、客が非常に少なかった。また、客は飲料やアイス等の物を買物かごを使わずにそのまま手に持ってレジへ行くというような状況なので、非常に厳しい状態が続いている。
		スーパー（店長）	それ以外	・今月に入り、来客数、客単価が毎週下がっており、7月が暑さにより好調だった反動もあり、夏物が非常に厳しく、食品も含めて全体的に売上が下がっている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・たばこの売上が激減し始め、前月より15%下がっている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・近隣に競合店ができて、大した影響はないが、若干の落ち込みがあると思う。今後もその傾向は続くのかと危惧している。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・今月はこの数年で最低の売上となる。日々猛暑で客の動きが悪く、秋物衣料も大きく展開できない状況で、近隣店舗も暇である。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・昨年同様8月は猛暑日が多く、熱中症注意報のニュースも連日流されていたので、外出を控える客が結構多かった。買物も必要な物だけで余分な物は買わず、出費を控えている様子が見える。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・販売量の動きを選択したが、これから単価の動きも関係ある。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・今月も猛暑の日が多く、日中、商店街では高齢者の買物姿がほとんどみられず、その上、衣類への購買意欲も感じられず、売上は前年同月比85%となっている。
		衣料品専門店（営業担当）	販売量の動き	・8月のスタートは好調だったが、7日過ぎからの猛暑到来で人出が少なくなった。連日30度を越え、厳しい営業を強いられたが、売れ筋を確保することで何とか前年をクリアすることができた。しかし、前年が前々年比90%であったため、手放しでは喜べない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		乗用車販売店 (販売担当)	お客様の様子	・客も購入意欲はあるようだが、現実はお金がないように感じる。今後、景気が改善されたら購入したいと言う客が多く、現状は厳しい。
		住関連専門店 (統括)	販売量の動き	・来客数はある程度あるのだが、それに伴った販売量、売上高がなかなか伸びずに推移している。
		その他専門店 [ドラッグストア] (経営者)	単価の動き	・今年は暑いため殺虫製品関連が好調であるが、価格競争により利益が取れていない。
		その他小売 [ゲーム] (開発戦略担当)	販売量の動き	・国内の夏季商戦は前年同月比で6割程度と激減している。
		高級レストラン (店長)	来客数の動き	・春先は期待感からか、景気の上向き感があつたが、ここ最近では厳しい状況である。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・8月は3か月前と比べ、かなり落ち込んできている。暑さのために来客数も減っている。パーティー、ケータリングも夏は食品が傷みやすいのであまり仕事がなく、かなり落ち込んでいる。
		一般レストラン (経営者)	販売量の動き	・前年同月比でみて、3か月前の5月は1～24日までの売上が102.2%、来客数101.9%という結果であったが、今月は、全面改装の店舗が先月下旬にオープンし、1～27日まででその店舗は売上105%、来客数98%であるが、全体では売上98.1%、来客数94.6%という結果になっている。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・お盆もあり、消費が他に向けられているようである。毎年のことだが、今年はお盆休み明けの来客数が極端に減っている。無駄な消費はしないというような感じがする。
		都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・特にレストランの客数が伸びない。今月は前年比8割強の来客数でかなり厳しい状況である。単価は前年と変わらず内容も前年並みで提供しているつもりだが、客から評価を受けていないようである。宿泊は近隣施設で大型イベントが続いたこともあり、客数は前年比プラスである。宴会は前年に実施した企画が今年には実施できず、これも前年比で客数が減少している。会社全体としてはレストランの減少の影響が大きく、減少している。
		都市型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・夏休みに入り、宿泊及び一部レストランは家族での利用が増え例年並みに推移したが、婚礼、宴会については減少傾向であり、3か月前と比べて改善が全くみられない。全体的な景気回復の実感はなく、逆にやや悪くなっている。
		旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・国内団体旅行の受注件数が少なくなっている。
		タクシー運転手	競争相手の様子	・連休中はタクシーの休車が多かったので、稼働した車両は多少稼げたが、連休が明けたらどっと空車の列ができたため、売上が半減した。また、長引く猛暑とアベノミクス効果が出てこないため、景気があまり良くない。
		タクシー(団体役員)	来客数の動き	・8月はお盆、夏季休暇等で都市部の顧客が地方、海外等に移動するので、都市部の当業界は営業収益が減少する。
		通信会社(経営者)	お客様の様子	・客からの単価削減交渉及び業務削減が10月以降、多くなっている。
		観光名所(職員)	来客数の動き	・観光地のため、3か月前はゴールデンウィークのトップシーズンであった。また、8月に関しては猛暑の影響及びゲリラ豪雨等でかなり客足が鈍っている。
		ゴルフ場(支配人)	来客数の動き	・7、8月と猛暑の影響により、来場者が例年同時期より若干少ない。
		ゴルフ場(支配人)	単価の動き	・依然として客単価は下落傾向に歯止めがかかっている。業界全体として来客の低下が顕著なため、プレイ料金を下げた集客が多い。
		その他レジャー施設 [アミューズメント] (店長)	来客数の動き	・単純に来客数が減少している。競合施設ができたことで施設全体の来客数が落ちていることに一因があるものの、徐々に減少傾向となっている。
		美容室(経営者)	来客数の動き	・猛暑が早く終わらないと、客はなかなか来てくれないようである。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他サービス [福祉輸送] (経営者)	販売量の動き	・民間では景気上昇に対する感覚が若干無くなってきているように思う。今後の経済政策、消費税増税を控えてということで、財布の口が厳しくなっていると感じている。
		設計事務所 (所長)	お客様の様子	・仕事量が非常に少ない。新築物件が少なく、耐震補強や改修工事が圧倒的であるので、仕事が増えるということはなかなか難しい。
		住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・8月は年間を通じて通常月よりも落ちる時期であるが、今月の受注状況はユーザーが消費税の動向をみているのか足踏み状態である。売上も前年と変わらず横ばい状態で、あまり良くない。
		住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・今月の販売量は目標数字の約70%となり、3か月前と比べてやや悪くなっている。今年の夏休みは長期の休暇となる客が多かったことと、例年より猛暑であったため、住宅展示場への来場や打ち合わせに来ることも少なかったようである。
	悪くなっている	一般小売店 [文房具] (経営者)	来客数の動き	・今回の景気の悪さというものは、天候の悪さに尽きる。豪雨や、強烈な暑さのせいではないかと考えている。
		一般小売店 [食料雑貨] (経営者)	来客数の動き	・世の中の景気以前に、オープンした競合店へ人が流れている。
		その他小売 [生鮮魚介卸売] (営業)	販売量の動き	・猛暑、黒潮の蛇行、ゲリラ豪雨、円安による値上げと、様々なことが重なり過ぎて売上は過去最低である。
企業動向関連 (南関東)	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	建設業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・職人が不足している。
		建設業 (営業担当)	受注量や販売量の動き	・政権が変わり、徐々に公共工事などの案件が増え始めている。
		建設業 (経理担当)	受注量や販売量の動き	・当社にとって、やや大きな工事案件の引き合いが続いている。この先も何件か相談がきている。久しぶりに現場管理者のやり繰りが大変になっている状態である。
		不動産業 (総務担当)	取引先の様子	・賃貸ビルの空室率の改善が進んでいるのは良い傾向であるが、手放しで喜べないのは、成約条件が厳しく、賃貸条件改善は遅々として進まないからである。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・夏物セールなどで前年より動きが良い店舗がある。
		税理士	取引先の様子	・夏の旅行や衣料品、家電の売上は上々である。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・商店街の食料品店の話では、この長く厳しい暑さで、通常では夏物を脱する時期であるが根強く売れ、売上が上がってきている。手持ち在庫の処分を考えなければならない時期であるが、追加注文を出している。このペースでいけば、秋物への切り替えはスムーズに行くのではないかと。
		その他サービス業 [警備] (経営者)	それ以外	・9月より来年3月まで隊員25名での警備業務が始まる。
	変わらない	食料品製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・帰省、お盆期間のギフトは、来客数は前年同月並みであったが、客単価が下がり、売上は前年同月比95%ぐらいである。
		繊維工業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・ニット業界の景況は、依然として現状維持の状況で上向いていない。秋口にかけては売上が減少する傾向にあり、現在のままでいけば、業況は更に落ち込む。
		出版・印刷・同関連産業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・例年の夏期とさほど変わらない。
		出版・印刷・同関連産業 (営業担当)	受注量や販売量の動き	・受注件数、売上額共に前年同月の目標を3か月間達成できている。
金属製品製造業 (経営者)		受注量や販売量の動き	・当社の受注が増えているのは、建設機械排出ガス規制特需と消費税増税前の駆け込み特需である。現在は忙しいが、4か月先以降の見通しが減っているため、本当の景気は上向きではないと感じている。	
一般機械器具製造業 (経営者)		受注量や販売量の動き	・新規立ち上がりが全然ない。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・当社は輸出がほとんどないせい、円安による為替差益の恩恵がない。もうかっている企業のほとんどは輸出を多くしている企業のようなので、急いで輸出に力を入れないといけないと考えている。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・引き合いが最近増えているが、なかなか成約には至らない状況で、決して良い方向に向かっている感じはない。
		精密機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・客先はやや持ち直している感があるが、在庫などはまだ大きな改善がないのが現状である。様子見をしているようなので、あと半年はこのような状態が続く。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・テレビや新聞では消費税増税などと騒いでいるが、身の回りの景気は停滞したままで、まだ上向きとは全く感じられない。町工場の仲間同士でのやりとりでは、「消費税込みでお願いします」ということが横行してしまう。メーカーと仕事をするのは良いが、あまり仲間内でこういうことをしてしまうと、お互いに同じことを言うわけなので、プラスマイナスゼロになってしまう。
		その他製造業「靴」（経営者）	取引先の様子	・得意先、あるいは材料屋、それ以外においても、景気が悪いという言葉が耳には入ってきていないということに気が付いた。景気が悪い時は、悪い悪いと言うのが、それが出なくなったという印象である。
		建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・商品がなかなか売れない。
		建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・案件は出始めているが、材料単価が上昇しているため、利益が出なくなっている。
		輸送業（経営者）	取引先の様子	・景気が良くなったとは我々には思えないが、特に今月は大手企業が長期の夏休みになり、その日、その日の稼ぎ高によっての景気判断となるため、最も悪い月になりそうである。
		輸送業（経営者）	それ以外	・3か月前の景気と大きな変化は感じられないが、先月、今月と地区内での同業者の廃業が相次いでおり、当社の経営環境と併せて考えると、輸送業が一段と厳しい状況におかれている感じを強く受ける。
		通信業（広報担当）	受注量や販売量の動き	・前月の改善は、一過性のものであった。
		金融業（支店長）	取引先の様子	・株価、為替とも一進一退であり、相場の先行きがみえない状況である。投資家も慎重になっている。
		金融業（支店長）	取引先の様子	・取引先の様子だが、業種によって良いところと悪いところがあり、不動産関連は来年の消費税増税を見込んでの駆け込み需要が出始めているため、かなり好調ということと、自動車関連も少し仕事が出てきている。しかし、製造業、小売業がまだまだ売上も上がっていないため、先の見通しがつかないということで、総体的には変わらない。
		金融業（役員）	取引先の様子	・実感として景気が良くなっていると思えないので、積極的な行動に出られない。大きな買物や設備投資に対して、ちゅうちょする傾向がある。秋以降の国内外の動向をうかがっているようである。
		不動産業（経営者）	競争相手の様子	・駅から徒歩3分の1LDKの6戸は2月完成だったが、6か月かけてやっと満室になった。昨年12月完成の1LDKはまだ2戸決まらず苦戦中である。また、駅から徒歩5分の1LDK重量鉄骨造りオートロック、浴室乾燥機、追い炊き機能付き、3ロコンロ、ウォシュレット、カウンターキッチン、エアコン2機等、設備満点の6戸は7月から入居できるが、契約は2戸である。一昨年からこういう状態が続いている。
		広告代理店（営業担当）	取引先の様子	・仕事量が多いが、案件の相談単価が低いと聞く。当社も同様の状況である。
		税理士	それ以外	・駅近くの商店街の飲食店などを見ても、随分と空いていて客が入っていない感じである。リーマンショック前はそれなりに入っていた。
		社会保険労務士	取引先の様子	・給与の遅配や、資金繰りの苦しい会社のみられる。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・輸入材料の値上がりなど中小製造業の環境では値上がりがあるかもしれないが、売上には反映されず、賞与の支給も厳しい状況である。実体経済が良くなるのはまだ遠い様子である。
		その他サービス業「廃棄物処理」（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・受注件数は良くなっているように感じられる面もあるが、単価の低下が続いており、数字が上がらない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他サービス業 [映像制作] (経営者)	受注量や販売量の動き	・例年きている仕事はあるが、新規の受注はない状態である。
		その他サービス業 [情報サービス] (従業員)	受注量や販売量の動き	・インターネット環境の整備に関する受注件数が少しづつ右肩下がりになってきており、普及率が伸び悩んでいる。
	やや悪くなっている	出版・印刷・同関連産業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・今月は長期間の夏休みを取る客が多かったため、受注量が少なく、工場の稼働が非常に悪くなっている。
		出版・印刷・同関連産業 (営業担当)	受注量や販売量の動き	・印鑑や印刷の仕事をしている。通常15万円ぐらいの間屋への支払があるが、今月は7万5千円ぐらいしかなかった。8月ということもあるのだが、それを抜いても例年になく少ない。間屋から余計に仕入れることはなく、注文が発生してからなので、間屋の支払は受注量と連動している。変わらないというよりも、やや悪くなっているというのが実感である。
		プラスチック製品製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・毎年8月はお盆休みの影響で2～3割ほど売上が落ち込む。今年はアベノミクスに期待していたが、例年と全く変化はなかった。むしろ原材料やその他経費の値上げがあつてバランスシートは悪化している。
		金属製品製造業 (経営者)	取引先の様子	・取引先は物価の値上がり分を製品価格へ転嫁することを認めないどころか、値下げを要求してきている。
		輸送業 (総務担当)	取引先の様子	・国内出荷は増減の波が激しく、不安定な状態である。増加しても低運賃により地方の帰り車が集まらない。自社便では、長距離を走れば走るほど赤字が増えるばかりである。荷主は国内出荷より輸出を増している。
		金融業 (統括)	取引先の様子	・受注の減少による売上減で、顧客の景気も悪くなっている。受注が減少していることが大きい。倒産も出てきた。
		その他サービス業 [ソフト開発] (経営者)	受注量や販売量の動き	・最近の受注量が減少気味である。
	悪くなっている	出版・印刷・同関連産業 (所長)	受注量や販売量の動き	・お盆休みの影響が大きく、受注量が大幅に落ち込んでいる。
広告代理店 (経営者)		取引先の様子	・とにかく引き合いがない。主要顧客のうち2社の売上が激減しており、期首に決めていた予算を下方修正していることが影響している。	
雇用関連 (南関東)	良くなっている	—	—	—
	やや良くなっている	人材派遣会社 (営業担当)	求職者数の動き	・求職者が仕事を選び始めている。選べるほどの求人数が出てきているということかもしれない。
		人材派遣会社 (支店長)	求人数の動き	・N I S A 関連の求人が急増している。また、前月と比べても求人数が増加している。
		求人情報誌製作会社 (営業担当)	求人数の動き	・求人数の動きが若干増えてきているようである。
		職業安定所 (職員)	求人数の動き	・新規求人数が前年同月比で今年度最も増加率が高くなっている。
		職業安定所 (職員)	求人数の動き	・先月までの求人数増加の内訳は、フルタイム求人が微減し、パートタイム求人が増加だったが、今月はフルタイム求人も増加に転じている。
		職業安定所 (職員)	求人数の動き	・新規求人数は、前年同月比で増加の傾向が続いている。また、一時的にパート求人の割合が50%を超えたが、最近40%台に落ち着いている。
		民間職業紹介機関 (経営者)	採用者数の動き	・全般的には比較的中長期的な立場で人材をみているが、一部職種においては短期的な要求もある。採用においては、はっきりした改善はみられない。
	民間職業紹介機関 (職員)	求人数の動き	・求人メディアの前年比実績は引き続き好調である。あつ旋についても求人数が前年比30%以上アップしている。	
	変わらない	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・例年8月は求人が増えない時期だが、今年も変化がみられない。景気が良くなっているのではないかという新聞発表等もあるが、依然として求人数は増えていない。
人材派遣会社 (社員)		求人数の動き	・3か月前と同様に、求人依頼は堅調に推移している。	
人材派遣会社 (社員)		周辺企業の様子	・顧客の人材ニーズは引き続き堅調である。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		人材派遣会社 (営業担当)	求職者数の動き	・求人数は若干増加している。今まで派遣を活用することがなかった企業が、正社員採用に苦慮し、一時的に派遣を利用するケースが増えている。
		求人情報誌製作 会社(編集者)	採用者数の動き	・2014年の新卒採用において、9月以降のイベント参加企業は前年より増加しているが、予算を増やしているわけではなく、効率的な配分で執行されているだけである。変化はない。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・パート求人が多いためである。
		職業安定所(職員)	雇用形態の様子	・正社員求人の増加はほとんどみられず、中小企業を中心に景気の先行きに自信が持てていない状況にあるようである。採用時の賃金水準も上昇がみられない。
		民間職業紹介機 関(職員)	求人数の動き	・求人総数から、採用意欲は引き続き堅調である。
		学校[専修学 校](就職担 当)	求人数の動き	・求人獲得数は前年同月比で若干プラスに推移しているが、大きな上昇幅ではない。
		やや悪く なっている	人材派遣会社 (支店長)	それ以外
求人情報誌製作 会社(広報担 当)	周辺企業の様子		・当社を含め周辺企業では、賞与が減ったり、給与形態が変わって年収が減るといような話をよく耳にする。アベノミクスの恩恵はあまり感じられない。	
悪く なっている		○	○	○

5. 東海(地域別調査機関:三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株))

(-:回答が存在しない, O:主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (東海)	良く なっている	商店街(代表 者)	お客様の様子	・客の買上点数が増えている。
		一般小売店[土 産](経営者)	来客数の動き	・式年遷宮が本番を迎え、にぎわっている。
		一般小売店[土 産](経営者)	来客数の動き	・当地は式年遷宮の関連行事が続いており、全国から前年に比べ約20%多い客が来訪してにぎわっている。
	やや良く なっている	百貨店(売場主 任)	来客数の動き	・お盆休みで家族連れが観光地に出掛けるため、例年8月は来客数が少ないが、今年は当地へ観光に来る人が多いのか、来客数が多く忙しい毎日である。
		百貨店(経営企 画担当)	お客様の様子	・7月は衣料品が苦戦したが、8月は猛暑により夏物衣料が好調に推移している。また、高額商品がここ数か月では顕著な伸びを示している。
		百貨店(販売担 当)	単価の動き	・例年のボーナス時期よりも購買意欲の高まりと客単価の上昇を感じている。円安に伴う大手自動車メーカー系企業の好業績が、大いに関係している。
		スーパー(経営 者)	お客様の様子	・サラリーマン世帯で、長い夏休みを取って家族と国内外へ旅行する人が増えている。8月の景気は、レジャー関係の伸びなど全体的には良くなってきているが、電気、ガソリンなどのエネルギーや野菜、果物の値上がりで消費は思ったほど伸びていない。夏の暑さで高齢者は外出を控え、店や病院へ行く人が減っている。金の使い道のない高齢者で、余った分を孫達の教育や生活の支援に回す人がいる。
		スーパー(総務 担当)	販売量の動き	・お盆セール期間の1週間は、売上が対前年比で108%と好調であった。
		コンビニ(店 長)	販売量の動き	・暑さが続いているために、来客数、売上点数ともに、やや良くなっている。暑さが一段落した時にどうなるかが心配である。
		衣料品専門店 (販売企画担 当)	販売量の動き	・一部の高額商品の動きが良くなっている。
		家電量販店(店 員)	来客数の動き	・暑さのため夏物関係の商品が売れている。
		家電量販店(店 員)	単価の動き	・リフォームや太陽光発電への関心が高くなってきている。前年に比べ単価が良くなる一方で来客数が減少している状況には、依然として変わりがない。
乗用車販売店 (営業担当)	お客様の様子	・自動車1台あたりの単価の動きが、3か月前より良くなっている。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・ここ最近の購買需要は活発である。今月はお盆休みがあったが、その前後の来客数も多く例年よりも販売量が増えている。
		乗用車販売店 (経営者)	お客様の様子	・ユーザーはガソリン価格の高騰にも慣れたようで、必要な整備は実施してもらえるようになってきている。
		乗用車販売店 (従業員)	お客様の様子	・業務用車両の需要が少し動きだしている。趣味性の高い自動車も動いているが、業務用車両が売れるようになったということは良い傾向である。
		住関連専門店 (営業担当)	販売量の動き	・消費税増税に伴う駆け込み需要で、持ち家住宅や分譲マンションが堅調である。また、個人のリフォーム工事も増えている。民間工事、公共工事ともにしばらく落ち着いていたので動きが始めている。
		その他専門店 [雑貨] (店員)	お客様の様子	・下見の客からも具体的な質問が増えており、購入意欲が感じられる。
		観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・宿泊者数は、前年比で5～6%伸びてきている。
		都市型ホテル (支配人)	来客数の動き	・宿泊施設の稼働率が上昇し、宿泊単価を引き上げる動きもみられる。
		旅行代理店 (経営者)	お客様の様子	・仕事が忙しいという客が増えてきている。
		旅行代理店 (経営者)	お客様の様子	・3か月前に比べて、客の様子が明るくなっている。
		タクシー運転手	単価の動き	・3か月前と比べると、単価が少し良くなった程度である。繁華街で仕事をしているが、人出は少ない。
		美容室 (経営者)	お客様の様子	・客にお盆休みの過ごし方を聞くと、旅行に行った人が多い。
		住宅販売会社 (従業員)	それ以外	・下請業者 (特に大工) の仕事量が増えてきており、新規の仕事にかかれないう程になっている。
	変わらない	商店街 (代表者)	販売量の動き	・例年お盆の時期には、売上が一気に伸びる日があるが、今年はそういった波がない。客の購買意欲はあるが、実際の販売数に結び付いていない。
		商店街 (代表者)	販売量の動き	・個人客だけでなく仕事関係の客を全く見かけなくなったのが寂しい。
		一般小売店 [高級精肉] (企画担当)	販売量の動き	・アベノミクスの効果もやや沈静化し、景気が良いのかどうかわからなくなってきている。
		一般小売店 [薬局] (経営者)	来客数の動き	・全国1、2位の暑さを争う当地では、全般的に景気が落ち込むなかでさらに熱波も影響している。午前中には来客はあるが午後にはパタッと止まってしまい売上が上がらない。どこの店も同じ状況で本当に悪いという嘆きの声がほとんどである。
		一般小売店 [時計] (経営者)	来客数の動き	・客単価が低い。
		一般小売店 [贈答品] (経営者)	お客様の様子	・一部の客からは大きな売上があっても多くの客はマイナスで、平均としては同じような感じであるが、見方を変えれば客が二極化している。客の様子をみると、景気の良い会社の贈答需要は増えている一方で、まだまだ不景気な状況の会社では減少しており、二極化がますます進んでいる。
		一般小売店 [自然食品] (経営者)	販売量の動き	・必要最小限の買物で済ます傾向は変わらず、前年と変わらない。
		百貨店 (売場主任)	お客様の様子	・暑さのため秋物の動きが悪い。夏物もセール品で安いからといってまとめ買いはせず、慎重に購入している様子がうかがえる。
		百貨店 (経理担当)	販売量の動き	・美術品、宝飾品等の高額商品は、好調に推移しているが、ヤング衣料は不調である。
		百貨店 (経理担当)	競争相手の様子	・3か月前に比べて一層の上向き基調とは言い難いが、業界全体の売上を対前年比でみると、依然、景気は“良い状態”にある。ただし、業界内においては「勝ち組」「負け組」が表れつつあり、一様に良い状態にあるとはいえない。
		百貨店 (販売担当)	お客様の様子	・一般消費者からは購買意欲が感じられるが購入には慎重である。高額品ブランドの需要は変わらず好調である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・数か月前から同様で、高額品の動きが良い一方で、全体の販売数は伸び悩んでいる状態である。一部での景気の良さは変わらないと感じるものの、底上げが進んでいる感覚はない。
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・悪い状態で現状も変わっていないが、小売店のなかには前年比を上回るどころも出てきている。
		スーパー（店長）	単価の動き	・1品単価は相変わらずまだ下げ止まっていない。客単価は、1品単価の下落をある程度点数でカバーして、下げ止まっている。今後どうなるかは非常に不透明である。
		スーパー（店長）	単価の動き	・来客数は前年を若干下回っているが、1品単価の上昇によって売上高は前年を上回っている。
		スーパー（店長）	単価の動き	・客単価は前年比98%前後での推移と回復傾向はみられない。第3のビールは特売時に売れ、普段は買い控ええられる。米や食品等も、良く売れる価格帯は決まっておき、仕入れ値が上がっているにもかかわらず、売価に転嫁できない苦しい状況が続いている。
		スーパー（営業担当）	単価の動き	・1品単価、買上単価は変わらず、まだ景気は上向きとはいえない状況である。
		スーパー（営業企画）	お客様の様子	・お盆期間の客単価、客数、買上点数は前年を上回ったものの、お盆明け後は停滞してきており、月間を通しては、3か月前とあまり変わらない。
		スーパー（商品開発担当）	販売量の動き	・猛暑が続き売上の伸びやすい気候に恵まれたが、食品以外では前年割れが目立っている。ハレの日の動きは良いが、平常の苦戦が目立つ。
		コンビニ（企画担当）	来客数の動き	・天候の割には、動きは緩慢である。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・暑かった割には、来客数が回復してこない。
		コンビニ（エリア担当）	それ以外	・猛暑ではあるものの、全体的に客数、客単価は横ばいから減少気味である。
		コンビニ（エリア担当）	競争相手の様子	・競合各社の施策等が類似しており、売上確保に懸命さが感じられる。また、いかに有力なエンターテインメントを確保するかに躍起になっているようにみえる。今後については、本来の客に満足を与えられる商品・接客の提供が最大のポイントと感じる。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・1週間の動きでは、週末辺りには多少客が増えるが後は変わっていない。3か月前とほぼ似たような状況である。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・猛暑日が続きエアコンや扇風機の売上が伸びている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・ここ1～2か月は、良くも悪くもなく、上にも下にも行かない状況が続いている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・前年は補助金もあり販売台数は好調であったが、今年度は前期比80%で推移しており、かなり厳しい状況である。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・8月発表のハイブリッド車の受注が好調に推移し、来客数も増加している。車種に偏りなく販売されると良いが、客のハイブリッド車に対する関心は非常に大きなものを感じる。
		乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・異常な暑さとゲリラ豪雨など国民は色々な意味で不安を抱えている。それらも含めて景気が停滞している。
		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・一部の営業所と本社は予算に対して100%を達成したが、他の営業所は予算比60%で推移している。
		その他専門店〔雑貨〕（店員）	お客様の様子	・客が店の様子をよくみている。
		その他専門店〔貴金属〕（営業担当）	販売量の動き	・販売数並びに単価はほぼ変化がない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（営業担当）	単価の動き	・客は値下げをしないと買わない印象である。
		一般レストラン（従業員）	お客様の様子	・暑い方が客が来て忙しいはずであるが、客の話では、今年は暑すぎて外に出掛ける気力がなくなるそうである。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スナック（経営者）	来客数の動き	・客からは、お盆休みが長いので家庭での出費が多く交際費まで回すのは厳しいと聞いており、期待がでない。
		その他飲食〔仕出し〕（経営者）	販売量の動き	・猛暑で食品の購買意欲は減退している感じである。
		観光型ホテル（販売担当）	来客数の動き	・月初めに立てた宿泊者数の予想をかなり下回る結果となりそうである。インバウンドも同様であるが国内団体客も当初予約の人数からかなり変わってくる。3か月前とは客層が違っても、催行間際の対応が難しいことには変わらない。
		旅行代理店（経営者）	それ以外	・タクシー運転手の話では、輸出が増えても物価が上がり、利用客が増える感じではない。閑散期と繁忙期の差がなくなっていて、総じて経済の縮小が実感される。
		旅行代理店（経営者）	お客様の様子	・秋冬の新規旅行予約が苦戦している。一般層では、検討している様子はあっても費用を安く抑えたい価格重視の傾向がある。ハネムーン層やビジネス層しか動いていない。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・お盆前後から海外からの客が増えてきている。しかし、それまでの落ち込みをカバーするまでには至っていない。
		タクシー運転手	お客様の様子	・今月は暑く、お盆頃までは旅行やスポーツ関係の色々な動きがあり客は順調に多かったが、お盆で出費がかさんだためか、お盆過ぎから夜の客が少ない。週末も雨の予想で皆早く帰り、街に人が少なくなっている。
		通信会社（サービス担当）	販売量の動き	・新しく期間限定割引サービスが始まったことにより、光回線の新規申込が増えている。
		テーマパーク（経営企画担当）	来客数の動き	・猛暑にもかかわらず前年と同様に推移している。
		観光名所（案内係）	お客様の様子	・今まで千円使っていた人は800円、800円使っていた人は500円というように、とにかく金を使わなくなっている。
		ゴルフ場（企画担当）	来客数の動き	・8月の入場者数は、予算よりは少し良く、前年比では少し悪いという状況である。一方で、売上は、予算を下回っているが、前年よりは少し良くなっている。現時点の実績では、良くもなく悪くもなしというところである。
		美顔美容室（経営者）	販売量の動き	・ホームケアセットのキャンペーンが始まり、セット商品を購入する客が多い。
		設計事務所（職員）	お客様の様子	・客や現場からは、景気の良い話は聞かない。
		その他住宅〔不動産賃貸及び売買〕（経営者）	お客様の様子	・一時的な駆け込み要素の強い客が多かったが、既にそれもあまり感じられない。
	やや悪くなっている	商店街（代表者）	単価の動き	・連日の酷暑で、景気には関係なく和菓子業界は全体的にダウンである。8月帰省時に迎える繁忙期において主力商品の売れ方をみると、前年同月比で小口（6個入）の商品の売上は増加しているが、数量の多い（10個入）商品は大幅な減少である。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・従来から暑い時期は動きが悪いので、別段の驚きはないが、それでも例年と比較すればやや低迷している。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	来客数の動き	・毎年お盆明けは客が少なくなるが、猛暑の影響もあつてか今年はそれが顕著である。この暑さでは花を買う気にはならないのかもしれない。
		一般小売店〔食品〕（経営者）	来客数の動き	・連日の猛暑で来客数は前年に比べて大きく下回っている。売上も前年同月比で5%減の見通しである。8月に限っては、この猛暑の影響で景気が悪いといえる。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	来客数の動き	・お盆を過ぎてから、飲食店への来店が急速に鈍くなっている。
		一般小売店〔書店〕（経営者）	販売量の動き	・中古品のリサイクル業が飽きられてきたのか、以前のような力強さがなくなっている。ずっと期待感を持っているが、売上が伸びず厳しい状態が続いている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（経理担当）	来客数の動き	・8月に入ってから来客数の落ち込みが激しい。暑さのせいもあると思うが、消費税増税等の報道が多くなっているため、先行きの不透明感から様子見という状態に感じる。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・売上の前年比100%を達成するため、先月より特売価格の強化など販促活動を行っているが、現時点で99%となかなか達成できない。猛暑だった影響でパンや菓子等の売上の落ち込みも大きい。
		スーパー（店員）	単価の動き	・猛暑の影響で昼から夕方にかけての来客数がかなり減少している。お盆の帰省時の贈答果物も、予想した売上よりも動きが鈍く、悪いと感じている。
		スーパー（店員）	来客数の動き	・近くに競合店ができたこともあり、売上は若干減っている。
		スーパー（販売促進担当）	来客数の動き	・近傍に競合店が出店して客足が落ちている。客単価は前年比102%と上がっているが、売上、来客数は前年比で各95%、93%と今月も苦戦している。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数の落ち込みが目立つ。競争店ができて落ち込むならばわかるが、環境は変わらず天気も良かったにもかかわらず、落ち込んでいる。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・暑すぎて昼間の客足が鈍くなったためか、飲料水の売上が良くない。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・猛暑で客がほとんどなく、開店休業状態である。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・来客数は前年並みで推移しているが、成約率は逆に悪くなっている。車検を受けてもらえる場合も、値段の安い店で見積をとってから相談にくるので、その金額に合わさなければならず、全体的な収益としては厳しい。
		高級レストラン（役員）	来客数の動き	・前年と比較してお盆休みの客足が低調である。来客数の減少とともに客単価も前年を下回っている。酷暑の影響か、出控えの様子がうかがわれる。
		一般レストラン（経営者）	それ以外	・洋酒を取り扱っているが、ここ最近すべての商品で価格が上がっている。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・ガソリンや輸入品の物価は上がっているが、賃金には反映されていない。大型連休の企業も多く、レジャー代等に流れており、繁華街は人通りも少なく閑散とし、売上は前年より1割ほど下がっている。
		都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・繁忙と閑散の差が大きくなっている。
		旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・8月以降の新規受注件数が減ってきている。アベノミクスの効果が薄れているように思われる。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・円安の進展で海外旅行は代金が上がり、お買得感がなくなったため、旅行需要は減ってきている。申込件数、旅行相談件数ともに減少傾向である。中国ツアーは皆無に近い状況、韓国も前年比50%程度である。国内旅行は、国内有数のテーマパークや東京の新名所、式年遷宮を迎える観光地は好調であるが、その他の地域は、横ばいか減少気味である。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・他社との競争の激化もあるが、当社が提供する毎月費用のかかるサービスに対しては、節約ムードがあるように感じる。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・廃止又は切替による需要が多く、純増につながっていない。
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・天候には恵まれたものの集客数は伸びず、余暇への支出が抑え気味と感じる。
		テーマパーク（職員）	お客様の様子	・外国人は増えているが、日本人や団体客は少ない。
		パチンコ店（経営者）	販売量の動き	・来客数の動きがあまり良くない。
		理美容室（経営者）	来客数の動き	・今月はお盆があって繁忙期のはずであるが、あまり客は来ていない。
		その他サービス〔語学学校〕（経営者）	来客数の動き	・例年にない猛暑のため、出席者数が減少している。
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・消費税を気にして動いていた人の需要は、消費税の区切り目である9月を前にして、既に終了した感がある。
		その他住宅〔住宅管理〕（経営者）	販売量の動き	・消費マインドは上がっているものの、まだまだ慎重で様子見が続いており、契約件数は伸びていない。経済の活性化に期待する。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	悪くなっている	美容室（経営者）	お客様の様子	・8月は酷暑で、午前中は客が来るが昼からは暑さで出てきてもらえず、客の入りが悪い。
		理容室（経営者）	お客様の様子	・相変わらず安い店に流れていく。
		住宅販売会社（経営者）	競争相手の様子	・売行きが悪い。広告を出しても反応が少ない。同業者も同じ様子である。
企業動向関連（東海）	良くなっている	—	—	—
	やや良くなっている	食料品製造業（経営企画担当）	それ以外	・地元は20年に一度の大イベントが開催され、県内外から多くの人々が来ている。観光、サービス業関係の盛り上がりは大きく、狭いエリアではあるが、多大な経済効果がある。
		電気機械器具製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・年末商戦に向けた輸出が好調に推移しており、前期比でみても今年度は成長が見込まれる。
		輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	取引先の様子	・客先の設備投資が増えているように感じる。
		輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	完成車メーカーが自動車の生産を海外を中心に増産しており、それに伴って部品の発注数量が4月から7月にかけて20%ほど伸びている。
		輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・輸出貨物は増加している。
		輸送業（エリア担当）	受注価格や販売価格の動き	・売上を前年比較でみると、前年はマイナス5.0%であったが、今年は1.3%のプラスと6.3ポイント良くなっている。
		輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・発送便、到着便ともに、順調に伸びている。
		金融業（法人営業担当）	取引先の様子	・取引先自動車部品メーカーの稼働率が総じて上がっている。
		企業広告制作業（経営者）	それ以外	・やや停滞ムードといった印象だが、この時期では仕方がない。しかしムード全体は好転しており、秋に新製品が出れば飛びつく人は多いはずである。
		公認会計士	それ以外	・会計事務所の顧客である中小企業のなかには、業績が向上している企業がある。
		会計事務所（社会保険労務士）	取引先の様子	・黒字決算の会社が多くなってきている。
	変わらない	化学工業（総務秘書）	それ以外	・しばらく景気が上向きという感触を取引先や各種小売店・飲食店等で感じてきたが、ここ3か月はそれが一層上向いたという感触はない。しかし、後退もしていない。
		化学工業（人事担当）	それ以外	・地元では自動車産業に従事する人が多く、給与が上がって景気は少し良くなっているが、他の業種をみれば、まだまだ景気は横ばい状態である。
		鉄鋼業（経営者）	受注量や販売量の動き	・景気指標等は上がっているものの、受注量・販売量とも前月から上がっていない。仕入れ単価だけは円安や原料高で5%以上上昇しているの、粗利だけが大幅に下がっていく。
		金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・販売量がほぼ横ばいである。
		金属製品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・先行きのプロジェクトは動いているが、足元の物件の動きがわからない。見積件数の増加がある一方、実際の発注はさほど増えている感じがしない。
		一般機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・急激な円安に伴う特需状態が落ち着き始めている。大手EMS（電子機器受託製造サービス）ユーザーの設備更新も一段落したため、北米・南米・アジアどの地域でも受注金額が伸び悩んでいる。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今月はパチンコホール関係の取引先の設備投資が少なかったため、受注量が少ない。
		電気機械器具製造業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・若干円高傾向となって注文も若干控え気味となっている。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・住宅の販売はおおむね好調である。ただ、建築費が高騰（ケースバイケースで場合によっては20%位上昇）していて、今後の事業計画推進において大きな阻害要因となっている。
		建設業（営業担当）	取引先の様子	・ここ最近、大型店舗における下水道への切替えの話が出てきている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		輸送業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・国内日用品の単価は下落が止まり、物量も安定的に推移している。新興国への設備投資関連輸出も報道でいわれるほどの落ち込みは感じない。
		輸送業（エリア担当）	それ以外	・販売業者7～8社で軽油の価格競争を行っているが、ここ半年くらいは各石油販売店が、軽油を含めて油が売れないという話をしている。産業界は軽油・重油を使わない、ハイブリット車が台頭して一般消費者がガソリンを消費しない、などといった要因を差し引いても、油が売れない。
		通信会社（法人営業担当）	取引先の様子	・円安、株価高は一時休止といった感じである。来春には消費税増税を控え、今一つ景気に回復感がない。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・決算月を迎える会社では、以前よりも利益が出ているという話を聞く。自動車産業は大体良い動きであるが、中小企業では、悪くはないが良いというほどではない。
		不動産業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・アベノミクス効果は現場にはいまだみられず、為替レートの効果も一時的なもので、実体経済には波及していない。
		不動産業（開発担当）	受注量や販売量の動き	・マンション販売センターへの問い合わせ数、来場数が増加している。優良物件については動きが良い。
		不動産業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・ここ数か月は、事務所の引き合いが変わらない。
		広告代理店（制作担当）	取引先の様子	・少ない予算の提案物件でも競合が多く、受注が決まっても薄利のものが多いため、トータルではあまり変わっていない。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	受注量や販売量の動き	・折込広告は、サービス業では前年を上回ったが流通は10%以上減少し、全体では4%の減少となっている。
		行政書士	受注量や販売量の動き	・貨物の動きが変わらない。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・消費税の増税目前で、住宅取得の動きがまだ続いているようだが、所得水準は上がっていないため、効果は一時的である。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）	受注量や販売量の動き	・受注のためのコンペで連敗している。原因は金額面のみで、取引先では技術評価より金額基準のみで判断しているようである。
		その他サービス業〔広告印刷〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・期待感があったが、景気回復の動きはあまりない。
		その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	取引先の様子	・相変わらず繁忙が続き、納期の遅延が起こっている。このような状態は久しぶりで、各社とも前向きに取り組んでいる。この状態があと半年続けば、給与も上げることができる。
		やや悪くなっている		紙加工品〔段ボール〕製造業（経営者）
パルプ・紙・紙加工品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き			・受注量、販売量が3か月前に比べて5～8%減少しているのに加え、原材料の値上げがあっても製品への転嫁が難しく、採算が取れない。
出版・印刷・同関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き			・飲食店の広告掲載効果が上がらない。
窯業・土石製品製造業（社員）	受注量や販売量の動き			・前年度、1品種で当社の売上の25%を占めていた製品がアメリカ製にほとんど切り替わってしまい、売上が回復しない。対抗して試作品を出しているが、受注に結び付いていない。
電気機械器具製造業	受注価格や販売価格の動き			・通信業界では、新たな設備投資が増えていることは事実であるが、獲得競争の激化がみられ、発注側も厳しい条件を提示するので、受注増、売上高増となっても、利益拡大には繋がらない。
電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き			・ここ3か月くらいは徐々に回復傾向にあったが、8月は1割程度減少している。
金融業（企画担当）	取引先の様子			・前年来の株高、円安により個人保有の資産価値が上昇し、消費にも繋がっていたが、ここへ来てそれも停滞し、個人の消費の動きが鈍くなってきている。
会計事務所（職員）	取引先の様子			・暦の関係でお盆休みが長期化したこと、猛暑が続いたことなどにより、製造、建設需要が減少傾向にある。株価は横ばい、ガソリン等は高値安定で、景気回復への原動力に欠けている。成長戦略も案件だけで実行性が乏しい。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	悪くなっている	○	○	○
雇用関連 (東海)	良くなっている	人材派遣会社(経営企画)	採用者数の動き	・エンジニア市場は依然として需要が強く、供給面(人材獲得競争)では厳しい状況が続いている。
	やや良くなっている	人材派遣会社(社員)	求職者数の動き	・求職の登録者数が少し減少傾向にある。
		人材派遣会社(社員)	それ以外	・派遣法改正の動き、「今後の労働者派遣制度の在り方に関する研究会」の動向が影響する。
		人材派遣会社(支店長)	求人数の動き	・8月の求人数が、前年比で20%、3か月前比で40%の増加となるなど顕著な回復が見られる。特に、テレマーケティング関連の求人が伸びている。
		アウトソーシング企業(エリア担当)	求人数の動き	・国内の新車販売台数は前年比で減少であるが、為替が円安傾向に進み、輸出台数の増加による生産増加に伴い、求人数は上向き傾向である。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・ほとんどの業種で、前年同月と比べ新規求人の増加がみられる。一方で新規求職は減少を続けている状態である。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・新規求人数は増加しているが、製造業関連は横ばいである。新規求職者については横ばいから若干の減少で、有効求人倍率が改善してきている。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・新規求人数が増加しており、有効求人倍率も上昇している。ただし、製造業においてはまだ求人が少ないので、本格的に良くなってきたとは言えない。
		民間職業紹介機関(営業担当)	周辺企業の様子	・取引関係にある企業、外郭団体、官公庁とのやり取りでは、景気が上向きで、事業拡大や増員等という声があり、以前に比べて増加している。
	変わらない	人材派遣会社(経営者)	求人数の動き	・求人をしていても人がほとんど集まらない。集まったとしても年齢が高く人材派遣には向かない、という状態が続いている。
		人材派遣会社(営業担当)	周辺企業の様子	・客からの引き合い数は伸びていないが、落ち込んでいないため、横ばいと感じる。
		人材派遣会社(営業担当)	それ以外	・株価は13,000円台で伸び悩んでおり、生活者レベルではアベノミクスの効果を感じられない。
		新聞社[求人広告](営業担当)	周辺企業の様子	・企業の設備投資の動きはみられず、求人需要も低調である。
		新聞社[求人広告](営業担当)	雇用形態の様子	・有効求人倍率は、非正規労働者の求人増加で上がっている。好感度は一部の大手企業に留まっているため、波及効果はみられず、特に中小企業からは全く感じられない。
民間職業紹介機関(営業担当)		求職者数の動き	・前月に引き続き求人数は徐々に上向いているものの、求職者の動きは前年とさほど変わらない。転職に際しては、依然として慎重な姿勢がみられる。	
やや悪くなっている	人材派遣会社(社員)	求人数の動き	・先月と同様、2～3か月前より悪く、例年に比べても良くない。	
	職業安定所(職員)	求人数の動き	・求人数、求人倍率は、障害者の雇用率改定、消費税増税に伴う駆け込み需要などの特殊要因で実態以上に跳ね上がってしまっている。その傍らで小規模事業所の廃業、倒産が増加している。	
	その他雇用[広告代理店](求人広告担当)	雇用形態の様子	・以前と変わらず、社員の募集でも、短期の契約社員等の募集が多かったり、正社員であっても募集人員数はわずかな場合がある。	
	悪くなっている	—	—	—

6. 北陸(地域別調査機関:一般財団法人北陸経済研究所)

(—:回答が存在しない、○:主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (北陸)	良くなっている	—	—	—
	やや良くなっている	一般小売店[精肉](店長)	来客数の動き	・今月は来客数が伸びており、それに伴いどの店舗も売上が伸びているような感じである。
		百貨店(売場主任)	単価の動き	・高額商品の動向については、固定客及びフリー顧客ともに好調に推移している。
		スーパー(店長)	競争相手の様子	・前年同月に競合店が1店舗でき、前年同月比でみた来客数の減少をこの1年間ずっと引っ張ってきたが、1年が経過したことにより当該状況が改善され、今月の来客数はやや良くなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ（店長）	お客様の様子	・今月は気温が高く、例年よりも飲料及びアイスなどの売上が極めて好調であった。飲料やアイス類は利益率も高く、また、普段の購入品に併せて購入するケースが多いため、購入単価も上がり、売上全体が向上した。ただし、前年同月比で多少多かったのみであり、天気が悪かったり気温が低かった場合には前年同月を大きく下回っていた恐れも否定できない。
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・お盆期間の暦が良く、後半も息切れすることなく推移した。個人、法人及び旅行客の全ての来客数が微増となった。
		一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・8月の来客数については、前年同月と同様の販促活動を実施せずに、前年並みの水準を達成した。
		旅行代理店（従業員）	単価の動き	・商品価値のあるものは高額でも購入している。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	消費税率引上げにより、9月末までの工事請負契約については現行の5%が適用されるため、同月末まで駆け込み需要があると想定している。
	変わらない	商店街（代表者）	販売量の動き	・秋物に変わったが動きが良くはなく、例年より悪い状況にある。
		一般小売店〔事務用品〕（店員）	販売量の動き	・売上見込みも少なく受注量が上がらないことに加えて、ガソリン価格及び電気料金の値上げにより社内経費を圧迫しているが、3か月前の状況とほとんど変わらない。
		一般小売店〔鮮魚〕（従業員）	販売量の動き	・良くも悪くもなく、3か月前と状況は変わらない。売上は前年同月と同様であるが、これは質の良い新規取引先を開拓できたことによると判断しており、当該要因が無ければ前年同月を下回っていたと想定している。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・今月はフロアごとに数字のばらつきがあるが、お盆期間中は、食品のフロア以外は前年同月に対して多少不足している状況であった。なお、アパレル関係についてはお盆期間中も厳しい状況にあり、予算に対して多少不足しているが、前年同月は確保している状態にある。
		スーパー（店長）	単価の動き	・例年も同様のパターンであるが、お盆を境に客の買上単価が上がっておらず、今年は前年同月より残暑が早く秋の季節が早いことなどにより例年よりも伸びていない状況にあるが、客単価についてはほとんど変わらない状況にある。
		スーパー（総務担当）	来客数の動き	・今年の旧盆の帰省の動きは8/10から8/17ごろまでと長期化したため、この期間の売上高は前年同月を上回ったが、月間ではほぼ前年同月並みになっている。
		スーパー（総務担当）	お客様の様子	・来客数及び1人当たり買上点数は前年同月並みであり、また、お盆期間中のオードブルやギフトの受注については前年を多少上回る状況であった。なお、目立った状況は盛夏商品が好調であったぐらいであり、トレンドは変化していないと考えている。
		スーパー（統括）	お客様の様子	・今月は当地ではお盆時期により、帰省して家族で集まる客を対象に商売を行った。なお、これまでは「必要最低限」や「買い控え」といった様子が客にみられたが、今年のお盆については多少高価な物や良いものを、また、量についても前年より多少多く買うようになってきており、良い状況が続いている。
		コンビニ（店舗管理）	販売量の動き	・例年、猛暑の場合は売上が増加する傾向にあったが、本年はビールを中心とした酒類やチルド飲料の売上が前年同月を大きく下回るなど、低迷状態が続いている。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・暑い夏が続いているが、なかなか買上率も単価も上がらず、客の慎重な姿勢は変わらない。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・今年の8月の売上は、前年同月と比べると10%程度悪い状況に終わると想定している。客の動向については、価格の高い物や多数の商品を購入することは無く、特段変わった様子はみられないが、様々な商品の購入の動きがみられてきている。ただし、状況としては3か月前とほとんど変わらない。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・猛暑の影響によりエアコンの販売数量は前年同月より1.5倍の伸びがみられたが、全体としては前年同月と変わらない状況にある。
		家電量販店（管理本部）	来客数の動き	・ここ数か月、前年同月と比較した来客数の低下傾向が続いている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・発表前から新型車の予約の受注は増えてきているが、全体の販売量は変わらない。
		乗用車販売店 (役員)	販売量の動き	・業界全体では前年同月のエコカー補助金効果を補うことができず、前年同月比10%前後の減少を余儀なくされている。ただし、新車の受注及び販売ともに計画をクリアしており、新型車効果の影響と感じており、3か月前とほとんど変わらない状況にある。
		自動車備品販売 店(従業員)	単価の動き	・前月に引き続き、来客数も単価も前年同月から比べて減少している。なお、車両メンテナンス履歴も伸びメンテナンス費用は変動していないが、他の商品では出費を抑える傾向にある。全体としては3か月前の状況とほとんど変わらない。
		住関連専門店 (店長)	販売量の動き	・必要なものは購買するが、それ以外のものはなかなか購買に結び付かない。特に30代～40代の客はなかなか動かない。一方、60代の客は購買意欲がまだあると感じられる。
		その他専門店 〔酒〕(経営 者)	来客数の動き	・今年の8月の旧盆などはどちらかといえば飛び入り客が結構あったのだが、それも下旬にはかなり減ってしまい、本当に景気の底をさまよい歩いているという状態である。
		その他専門店 〔ガソリンスタ ンド〕(経営 者)	単価の動き	・仕入れが上がった時点で一度価格は値上げをするが、多少時間が経過した後、他店の安い価格に合わせて値下げしており、3か月前の状況とほとんど変わらない。
		その他専門店 〔医薬品〕(総 務担当)	来客数の動き	・猛暑の影響により来客数については午後の時間帯が少なく頻度も減少傾向にあるが、全体としては3か月前の状況とほとんど変わらない。カテゴリー別においては、医薬品及び化粧品の上は前年同月割れ、防虫関係及び飲料は好調に推移しているが、省エネグッズは前年同月ほどの勢いは無い。
		その他小売 〔ショッピング センター〕(統 括)	販売量の動き	・初夏の頃は堅調さがあった冷房家電や夏物衣料の販売量が、例年同月と比較して同程度にまで落ち着いてしまった状況にある。なお、消費税率引上げ前の駆け込み需要は大きくみられない。
		観光型旅館(経 営者)	来客数の動き	・夏休み期間中、家族連れを中心に例年並みの来客数があった。
		観光型旅館(ス タッフ)	来客数の動き	・今月の総売上は前年同月比93%、宿泊人数は同98%、宿泊単価は同103%となった。なお、今月の宿泊人数は、前年同月に比べ団体客が大幅に減少し、個人客は115%となったが、団体客の減少分をカバーできなかった。また、個人客のウエイトが増えたため、宿泊単価が上昇した。
		都市型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・前年同月のような大型のコンベンションや大会が無く、宿泊及びレストランは苦戦、宴会が好調に推移し、全体としては微増している。
		都市型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・7月から8月まで、宿泊については日本人が減少している一方外国人が増加しており、総じて前年同月並みである。なお、宴会やレストランについては、人数や件数の減少が続いている。また、消費税率引上げの駆け込み需要もみられず、3か月前とほとんど変わらない状況にある。
		タクシー運転手	来客数の動き	・今月は特に猛暑により外出を避けたため、タクシー利用客は少なかった。花火大会や歩行者天国の時は人出があり当該利用客もあったが、そのほかは人出が少なく、結果的には3か月前の状況と変わらない。
		タクシー運転手	販売量の動き	・配車を断るのが大変であった時期は大雨時のみであり、3か月前とほとんど変わらない状況にある。
		通信会社(職 員)	お客様の様子	・最近のガソリン代の値上がり影響していることなどにより、客に積極的な動きがみられない。
		通信会社(役 員)	販売量の動き	・大手通信事業者によるインターネット契約に対する新たな割引制度が登場し、競合がさらに激しくなっていることにより新規獲得件数に影響を及ぼしているが、3か月前とほとんど変わらない状況にある。
		通信会社(営業 担当)	販売量の動き	・夏モデルの販売も落ち着き、全体的な販売数も落ち込んできているが、3か月前の状況とほとんど変わらない。
		通信会社(役 員)	お客様の様子	・新規加入や既存加入者の増設及び解約の状況が3か月前とほとんど変わらない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明		
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・前年同月比でみてもほぼ横ばいの状況にあり、また、3～4か月前の状況からみても、ほぼ同水準の動きである。		
		その他レジャー施設（職員）	お客様の様子	・最大の山場の夏の販促が終わったが、予定の会員数の増加につながらず、3か月前の状況とほとんど変わらない。		
		美容室（経営者）	来客数の動き	・来客数が相変わらず前年同月比でマイナスとなっており、同業者も同じ傾向にある。状況としては、3か月前とほとんど変わらない。		
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・来場者数は徐々に減り始め回復の兆しがみられず、商談件数も併せて下降気味になってきている。状況としては、3か月前とほとんど変わらない。		
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・動いている客の大部分が消費税率引上げ前の駆け込み起因している。		
	やや悪くなっている		商店街（代表者）	来客数の動き	・郊外のショッピングセンターでは売上は前年同月実績を維持しているようだが、高額品を取り扱う街中では、来店を促しても暑さで外に出られないなどの反応が多く、例年より売上及び来客数ともに、お盆の盛り上がりがない。	
			一般小売店〔書籍〕（従業員）	お客様の様子	・一部を除き、市場としては景気が良くなっているとは感じられず、節約を意識している客が多いように見受けられる。	
			百貨店（営業担当）	お客様の様子	・8月は猛暑により涼感的な寝具関係は非常に売れたが、その反面、火を使う調理は敬遠しがちであり、鍋やフライパンなどのキッチン用品は非常に低迷した。全体としては、客は価格ではなく必要かつ付加価値の高い物といったかなり絞り込んだ購買行動をしており、3か月前よりやや悪くなっている。	
			百貨店（営業担当）	来客数の動き	・優待会を開催しても猛暑や水害の影響もあるためか、電話やメールの呼び掛けを行っても来客数が伸び悩んだ。	
			百貨店（一般顧客訪問担当）	販売量の動き	・一部でアベノミクス効果がみられるものの、一般庶民については先行き不透明の動きがみられ、購買意欲も低下している。	
			コンビニ（経営者）	来客数の動き	・競合店の影響はまだ続いており、来客数は大きく落ち込んでいる。	
			コンビニ（経営者）	販売量の動き	・近くに競合店が出店したことにより、売上については前年同月比94%位に落ち込んでいる。なお、8月中旬を過ぎてからのゲリラ豪雨や低温傾向の影響もあり、飲料の伸びがみられず、粗利率も前年同月を下回っている。	
			衣料品専門店（総括）	お客様の様子	・例年この時期は夏物がメインだが、先物買いの客が秋物を購入する頻度が増えていく傾向にあるが、今年の場合は気温などの影響もあり、夏物ばかりが売れており、3か月前よりやや悪くなっている状況にある。	
			乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新車及び中古車の販売台数はほぼ当初の計画台数をクリアしているが、車検及び修理などの売上は計画をかなり下回っており、3か月前よりやや悪くなっている。	
			乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・8月の車の販売量は前年同月比66%であったが、今年5月の車の販売量は同91%であり、3か月前と比較するとやや悪くなっている。	
			旅行代理店（従業員）	それ以外	・夏休みの繁忙期にもかかわらず、猛暑により出足が止まり、売上が増加しなかった。また、天候不順による運輸機関の不通や連休により、払い戻しや旅行中止に至り、売上の減少に至った。	
			競輪場（職員）	販売量の動き	・年に一度の地元記念レースがあったため、3か月前と比べ1日当たりの売上平均額、入場者数ともに増加しているものの、前年同月の地元記念レースと比較すると売上額は12%減であった。	
			住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・消費税率引上げの駆け込み需要がまだあると思っていたが、当該引上げがどのようになるか分からない状況になったため、客の動きも悪く販売量も前年を下回った。	
			悪くなっている	スナック（経営者）	来客数の動き	・当店は客層の年齢が高いため、天候不順の影響もあり出入りも少ない。また、個人経営者からは決して良くない話も聞かれ、実態は悪い気配を感じる。
			企業動向	良くなっている	—	—

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
関連 (北陸)	やや良くなっている	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・用途を問わず全体的に、受注状況がやや良くなっている。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・主軸である住宅市場においては、消費税率引き上げの影響により駆け込み需要が少し出てきていることにより、当社においては受注量が増えてきている。
		一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・3Dプリンターが話題になっており、当社の機械が注目を集め、受注が出てきている。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・8月の受注工事はある程度あったが、厳しい競争により採算性が悪い工事があり、また、現在施工中の工事においては交通誘導員を確保できないため、工事を中断せざるを得ない現場が存在することにより、実際は大喜びできる状況ではないが、気分的には景気が上向いていることにより、3か月前と比べてやや良くなっていると感じる。
		建設業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・低価格による受注業者が多少あるものの、消費税率引き上げ前の発注工事も加わり、全体では各業者とも施工能力が手一杯の状況にあり、受注価格は改善傾向で推移している。
		輸送業（配車担当）	取引先の様子	・来年からの消費税率の引き上げの流れにより、住宅関連の物量に顕著な動きがみられ、それに伴い物量が増大している。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・繊維機械業の工場がフル稼働するなど、輸出企業の業績が改善している。
		司法書士	取引先の様子	・マンションの売買や住宅新築の好調が続いている。
	変わらない	食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・全体的に販売量及び販売価格ともに、ここ数か月は横並びの状況が続いており、変化が無いと思われる。
		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注についてはまだ厳しい状況が続いており、回復感を持つに至っていない。
化学工業（総務担当）		受注量や販売量の動き	・現在の受注量が、直近3か月間高水準で推移している。	
精密機械器具製造業（経営者）		受注量や販売量の動き	・産地全体としては材料のサプライヤーや外注加工先からは依然として非常に厳しい状況が伺える。ただし、当社は3か月前と比べ、生産量は多少少なくなったもののそれなりの受注を確保しており、全体としては3か月前とほとんど変わらない状況にある。	
輸送業（配車担当）		受注量や販売量の動き	・荷動きは改善されつつあるが、軽油価格などの輸送コストも増加しており、良くはなっていない。	
やや悪くなっている		金融業（融資担当）	取引先の様子	・前年同月より状況は良いが、最近停滞状態にあることから多少悪くなってきているという客の発言や、月次の損益の状況により、3か月前よりやや悪くなっているとの認識である。
	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・同業者に聞くと、良くなっていると悪くなっているとの意見が半々であったが、当社については3か月前よりやや悪くなっていると認識している。なお、今後は特に個人客がかなり少なくなっていくという意見が多かった。	
	税理士（所長）	受注量や販売量の動き	・8月はお盆休みを長く取得しやすい曜日配列の影響もあり、お盆前から下請け企業においては元請けからの仕事が多少減少している。なお、消費関係につながるものについては個人の給料があまり上がっていないことも反映して伸びておらず、輸出関係についても同様の状況にある。また、公共工事については受注はあるが価格が厳しいことと人手不足によりなかなか工事が進まないことにより、全体的に閉塞感が感じられる。	
	悪くなっている	—	—	—
雇用 関連 (北陸)	良く なっている	—	—	—
	やや良くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・前年同月に比べて、求人の件数が増えている。
職業安定所（職員）		求人数の動き	・新規求人が増加しており、有効求人もそれに伴い増加している。懸念していた製造業の求人も増加傾向となってきたため、景気は回復傾向と思われる。なお、派遣求人の増加幅が最も大きくなっており、かつてたどった道を再びたどる可能性がある。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
変わらない		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は製造業においては前年同月比42.9%、建設業は同24.4%、医療福祉は同10.6%増加し、一方、卸売業及び小売業では同4.3%減少し、全体では同15.5%の増加となった。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・一部の産業で求人数が減少しているが、全体的には求人数が増加している。
		人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・最近の有効求人倍率は2～3年前の前年同月比を上回っているものの、専門職の成約数は少なく、派遣の成約についても同様の状況となっている。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数を前月と比較すると、数十名単位の大量募集がある業種も発生しているが、応募者数が少なくミスマッチの割合も多く、3か月前の状況とほとんど変わらない。
		求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・1回当たりの掲載件数がほとんど変わらない状況にある。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・人材紹介及び派遣とも受注数に大きな変化は無く低迷している。景気が良くなっている実感が無い。
	やや悪くなっている	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・企業の採用担当者の声からも、求人数の増加は無く、今後も変わらないと思われる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・8月の求人広告の売上は、前年同月に比べ8割である。
悪くなっている	—	—	—	

7. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所（株））

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連（近畿）	良くなっている	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・夏らしい天候に恵まれ、海水浴に来る客が増えている。
		百貨店（マネージャー）	販売量の動き	・中所得層の客を対象に高額品（時計、宝飾）が売れ出している。
	やや良くなっている	百貨店（商品担当）	お客様の様子	・セール品の動きが良い。特に、お中元の解体セールなどの、元の価格が分かっているお得な商品の売行きが大変良い。
		コンビニ（経営者）	単価の動き	・相変わらずプレミアム商品とファストフードの売上が好調で、客単価が上昇傾向にある。
		家電量販店（経営者）	販売量の動き	・猛暑によりエアコンや冷蔵庫の売上が良く、消費税の増税を控え、リフォームや太陽光発電関連の引き合いも多い。
		家電量販店（管理担当）	来客数の動き	・消費税増税前の駆け込み需要と思われる動きがある。
		乗用車販売店（販売担当）	お客様の様子	・消費税は増税となる可能性が高く、客からも増税前に購入したいという声をよく耳にする。
		住関連専門店（店長）	お客様の様子	・高額商品やオーダーメイド商品への客からの問い合わせがあるほか、熱心に商品説明を聞いてくれる客が増えている。
		観光型ホテル（経営者）	お客様の様子	・夏休みということもあり、家族連れの宿泊客が多く、人出が多いように感じる。
		観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・夏休み中の客単価に上昇はみられないが、申込数、稼働率、来客数は例年を大きく上回っている。これは当館だけではなく、地域全体でも同じような傾向である。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・エステといった、高額商品、高付加価値のぜいたく品、サービスが動き出している。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・今月の宿泊は、国内観光客を中心に活発化し、前年を大きく上回っている。1室単価も上がり、稼働・収入共に伸びている。ただし、朝食や夕食の利用率は大きく下がっており、旅行費用としての総額は抑え気味の様子である。一方、宴会はオフシーズンであるが、企業関連が伸びてきている。
		都市型ホテル（総務担当）	単価の動き	・宿泊の客室稼働率は、依然として高水準を保っている。以前からのビジネス客に加え、観光客の需要も増加したことにより、販売単価も高水準で推移している。
		旅行代理店（店長）	お客様の様子	・国内の客が増えており、単価よりも件数が上向いている。
旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・欧州方面の受注が好調である。		
タクシー運転手	競争相手の様子	・8月は酷暑でタクシーを利用する客が増えている。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		タクシー運転手	お客様の様子	・流しの営業では、平日と土日の差はあるものの、猛暑の影響で客の乗車機会が増えており、営業収入も増えている。また、大手企業によるハイヤー予約も増加している。
		通信会社（社員）	販売量の動き	・例年の夏に比べて、販売の落ち込みは少ない。
		その他レジャー施設 [イベントホール]（職員）	来客数の動き	・場内のレストランや売店も売上を伸ばしている。
		その他サービス [保険代理店]（経営者）	お客様の様子	・購買意欲が高まっているのは経済的に余裕のある層であるが、少しずつ一般の間でも先行きへの期待が高まり、資産購入などが検討され始めている。オリンピックの東京開催が決定すれば、景気が良くなることは間違いなく、期待している企業、個人は多い。
		住宅販売会社（経営者）	単価の動き	・土地の売出価格が、強含みの値段設定になってきているように感じる。
		住宅販売会社（従業員）	競争相手の様子	・新築分譲マンションの販売が各社好調に推移しているため、新規事業用地の取得意欲が非常に高く、土地の取得競争が激しくなっている。
		住宅販売会社（総務担当）	販売量の動き	・消費税増税を見込み、契約量が前年同月比で10%ほど増えており、やや好調である。ただし、増税後の予想が立たない。
		その他住宅 [展示場]（従業員）	来客数の動き	・8月の住宅展示場への来場数は、前年比で2割増となっている。
	変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・天候不順により大型施設へ客が流れている。地元企業ではボーナスの出なかったところが多く、財布のひもが固い。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・日々の売上が前年を超えることは少ない。明らかにオーバーストア状態である。
		一般小売店 [事務用品]（経営者）	販売量の動き	・アベノミクス効果で販売も上向くかと期待されたが、まだまだ実感を持って上向きといえる材料がない。
		一般小売店 [精肉]（管理担当）	販売量の動き	・一般小売では、日常の買い回り品の動きは一貫して活発化していないと感じる。外国人客がレストランで増えているケースはあるが、お盆の帰省に伴う消費は減少傾向にある。自宅でごちそうを食べるよりも、外食で済ませるパターンが増えているのかもしれない。
		一般小売店 [衣服]（経営者）	販売量の動き	・夏物の売行きが悪い。バーゲンも終わり、秋冬物に移行し始めるこの期間がしのぎにくい。
		一般小売店 [野菜]（店長）	お客様の様子	・相変わらず消費者の動きは良くなっていない。
		一般小売店 [花]（店長）	販売量の動き	・暑さのせいで、販売量や客単価が悪化している。
		一般小売店 [酒]（社員）	販売量の動き	・客単価、来客数が上向いている。セールに関して、大幅な値引きがなくても引き合いが増えている。輸入商社のため、円安による価格上昇もあるが、特に影響は感じていない。
	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・今月の売上は前年を上回っているが、目標は未達の見通しである。夏物商品の一部で品切れが生じるなど、好調なアイテムもあるが、バーゲン以外の商品については動きが鈍い。また、高額品についても目標を達成できていない。一部のブランドを除き、客の不急不急の商品に対する購買は、積極的とは言い難い状況である。	
	百貨店（売場主任）	販売量の動き	・3～7月までの累計売上は、前年比で2.4%ほど増えたが、今月は前年を下回っている。酷暑の影響も考えられるが、やはり婦人衣料を中心に身の回り品の売行きが悪い。	
	百貨店（企画担当）	販売量の動き	・来客数が大きく伸びているのに対し、売上の伸び率が低い。	
	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・猛暑の影響で来客数が減り、店頭売上は低迷している。一方、来月の始めに値上げされる高級ブランド品の駆け込み需要などで、高額品の売上は好調である。	
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・食料品は堅調であるが、衣料品の動きが鈍い。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（サービス担当）	お客様の様子	・先月と同様に来客数の増加傾向に変化はなく、順調に推移している。特に、お盆期間のレストラン街への来客が増加し、家族連れで外食する動きが増えている。また、宝飾、時計の高額商品は好調に売れている。
		百貨店（商品担当）	販売量の動き	・新規オープンした施設への客の流れは変わらず、売上も増加している。既存店舗の売上は多少の増減はあるものの、以前と大きくは変化していない。
		百貨店（販促担当）	来客数の動き	・今月も来客数が低迷している。猛暑や豪雨といった天候要因のほか、競合状況の影響も大きい。購買動向については、引き続き必要な物だけを厳選し、低価格でも余分に買う動きは少ない。
		百貨店（売場マネージャー）	お客様の様子	・株価が下がり、消費税増税の実施の可能性が連日報道されるなかで、価値のある商品は売れているが、本当に必要になってからの購入が目立つ。ただし、食品は高価格帯でも売行きは堅調である。
		百貨店（外商担当）	販売量の動き	・海外ブランド品や高級宝飾品、時計は依然として好調に動いているが、婦人、紳士衣料品が低調であり、本格的な消費の回復には至っていない。
		スーパー（店長）	単価の動き	・まだすべての人にアベノミクスの効果が及んでおらず、来客数が回復しても単価は低めであるなど、景気の回復は感じられない。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・お盆商戦は堅調であったものの、季節品の最終販売については例年よりも弱い。また、高い気温が続いたことで秋物の動き出しも鈍いのが現状である。
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・猛暑が続いているが、夏物商品の売行きは息切れ気味である。ゲリラ豪雨の影響も多少あり、売上は小康状態となっている。
		スーパー（広報担当）	単価の動き	・日常生活における必需品の需要には、大きな変化はみられない。1人当たりの客単価もほぼ横ばいである。
		スーパー（企画）	単価の動き	・アベノミクスによる株高などで、高額品の購入が増えているようだが、食品や家庭用品などの消耗品については、単価の上昇がみられない。むしろ財布のひもが固くなっている気配もある。
		スーパー（社員）	来客数の動き	・今夏は天候に恵まれているうえ、気温の高い日が多く、夏物商材（飲料、めん類、肌着、総菜全般）の動きは例年以上に良い状況が続いている。ただし、気温の高い昼間の時間帯は、来客数の伸び悩みが続いている。
		スーパー（販売担当）	お客様の様子	・客の様子をみていると、広告初日の目玉商品や、低価格を強調した商品を買って回り、そのほかの通常商品はかごに入れず、安い商品だけを購入する。
		コンビニ（店長）	お客様の様子	・気温が高いので、アイスクリームやソフトドリンク、アイスコーヒーをはじめ、冷たいめんなどの購入頻度が増えているが、全体としては例年とあまり変わらず、特に客の様子に目立った変化はみられない。
		コンビニ（店員）	販売量の動き	・厳しい暑さのなか、夏物商品の売行きは好調であったが、全体的な販売量は前年と変わらない。
		コンビニ（広告担当）	来客数の動き	・猛暑の影響もあるかもしれないが、来客数の大きな動きがみられない。
		衣料品専門店（販売担当）	お客様の様子	・紳士服の買い控えが増加している。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・不安定な世の中になっている。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・お盆休みがあるので売上目標もそれほど高くなく、90%は達成している。
		乗用車販売店（営業企画）	単価の動き	・単価の動きは良くなっているが、来客数が伸び悩んでいる。
		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・3か月前と比べても販売量に変化がなく、イベントでの受注も通常の15%減で推移している。
		その他専門店〔宝石〕（経営者）	お客様の様子	・株価が弱含みで、T P Pや消費税の問題もあり、先行きが不透明である。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・8月15日が中間決算日であるため、販促の強化を図った。前期比で来客数が3%、買上点数が2%増え、特によく動いた商品はカウンセリング化粧品となっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他専門店 〔食品〕（経営者）	販売量の動き	・販売量は前年と変わらない。
		その他専門店 〔宝飾品〕（販売担当）	お客様の様子	・来客数が少なく、特に購買意欲を感じる客の来店が少ない。
		その他専門店 〔スポーツ用品〕（経理担当）	販売量の動き	・株価の上昇も一段落し、沈滞ムードとなっている。
		高級レストラン （スタッフ）	来客数の動き	・お盆前後の猛暑期はやや静かであったが、それ以外は盛況となっている。
		一般レストラン （経営者）	来客数の動き	・急激な気温の上昇や集中豪雨が、客足を遠のかせている原因とはいいたくないが、いわざるを得ないほどの異常気象である。
		一般レストラン （経営者）	来客数の動き	・暑過ぎて人通りが一段と少なく、近くの商店街では高齢者はほとんど見かけなかった。暑過ぎてか、昼間からビールを注文する客が多く、アルコールの売上が伸びている。
		一般レストラン （スタッフ）	来客数の動き	・関西地区も2年前比では堅調であるが、他地域に比べると低調な状況である。特に、大阪市内は100%を下回っており、他の大都市に比べると良くない。
		一般レストラン （店員）	来客数の動き	・この1か月は毎日ほとんど変わりなく、平均的な動きをみせている。
		その他飲食 〔コーヒーショップ〕（店長）	来客数の動き	・直近は来客数の増減がほとんどなく、景気が良いとは感じられない。
		都市型ホテル （支配人）	来客数の動き	・参議院選挙が終わり、景気の見通しが少しははつきりすると予想していたが、先行きは不透明である。8月の異常気象や、電気料金の引上げ、円安による輸入品の高騰による収益の圧迫など、明るい見通しはない。消費税増税の結論が出る9月ごろまでは、現状のまままで推移する。
		都市型ホテル （マネージャー）	来客数の動き	・宿泊部門は好調な海外からのインバウンド客に支えられて前年を上回り、レストラン部門も来客数の増加により堅調に推移している。ただし、宴会部門は特に法人の利用が伸びずに苦戦しており、全体では前年を若干超えた程度である。
		都市型ホテル （客室担当）	来客数の動き	・客室部門は売上が前年同月比で12%増と好調に推移しているが、レストラン部門は新規オープンした商業施設の影響を受け、前年よりも大きく落ち込んでいる。
		旅行代理店（広報担当）	お客様の様子	・消費税率の引上げ議論が目立つようになり、客の目が耐久消費財の買換えに向かいつつある。夏休みの海外旅行の間際申込は今一つ盛り上がりせず、お金をためておくという客も多い。
		タクシー運転手	お客様の様子	・夏休みの影響もあり、子どもたちと遊びに行く際に利用されている。また、連日の猛暑で、昼間は短距離の利用もみられるほか、突然の雨でも使われるが、夜の街については動きが鈍い。
		タクシー運転手	お客様の様子	・公共交通機関を利用する人が多い。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・世間では景気が上向いているとの話を聞くが、販売量や価格に対する効果がまだ感じられない。
		遊園地（経営者）	来客数の動き	・営業努力の問題でもあるが、来園者数の動向はほぼ前年並みで、目立ったプラスは見受けられない。
		競輪場（職員）	単価の動き	・今月の客単価は9,402円と、3か月前の9,433円と大きく変わらないが、先月、先々月と比較すると悪くなっている。
		競艇場（職員）	単価の動き	・単価の動きに大きな変化はない。
		その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	来客数の動き	・海外からの観光客は好調であるが、猛暑による出控えもあるようで、天候の割には来客数が伸びない。
		美容室（店員）	販売量の動き	・カットの客が多く、パーマやカラーは周期が長くなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他サービス 〔ビデオ・CD レンタル〕（エ リア担当）	販売量の動き	・夏休みがある8月は、通常月よりもレンタル需要が 伸びる時期であるが、前年の水準を上回っている。ま た、それ以上に書籍売上も好調であるが、これは前年 が悪過ぎた反動もある。
		住宅販売会社 （従業員）	それ以外	・効果的な経済政策が打ち出されておらず、今のとこ ろは景気が上向きではない。
		その他住宅投資 の動向を把握で きる者〔不動産 仲介〕（経営 者）	それ以外	・一般消費者の所得の増加がみられない。
		その他住宅〔情 報誌〕（編集 者）	お客様の様子	・今年前半の上向き傾向と比較すると、停滞感が出て きている。新築マンションの販売状況は好調に推移し ているものの、モデルルームへの来場数については、 消費税増税前の駆け込み感はそれほど大きくない。
	やや悪く なっている	商店街（代表 者）	来客数の動き	・当商店街では高齢者の客が多いが、今年の夏は猛暑 のため来客数が激減している。
		一般小売店〔鮮 魚〕（営業担 当）	来客数の動き	・酷暑の影響もあるが、客の出足が非常に鈍い。
		一般小売店〔菓 子〕（経営企画 担当）	販売量の動き	・8月と5月の売上前年比を、各地区別に上位5店舗 の平均でみると、関西は8月が84.5%で、5月が 90.2%、関東は8月が92.7%で、5月が102.0%、中 部は8月が95.9%で、5月が89.4%、中国は8月が 90.6%で、5月が99.9%となり、各地区合計の平均は 8月が88.5%で、5月が93.2%となっている。8月に 入ってからは非常に悪い。猛暑での一時的な現象と考 えられるが、依然として厳しい状態には変わりなく、 回復傾向に転じることはもちろん、前年並みに回復す ることさえ難しい。
		一般小売店〔衣 服〕（経営者）	来客数の動き	・天候が悪かった影響もあり、来客数が少なく、前年 よりも売上が悪い。
		一般小売店〔雑 貨〕（店長）	それ以外	・販売量が減っているため、3台設置されていた自動 販売機が1台撤去され、2台になっている。
		一般小売店〔菓 子〕（営業担 当）	販売量の動き	・夏物商品の贈答品の販売量が芳しくなく、今月も売 上が低迷している。
		百貨店（企画担 当）	競争相手の様子	・円安に伴う外国人客を対象とした売上増加や、外商 顧客を中心とする高額品売上の増加は継続しているも の、昨年からの梅田地区での百貨店リニューアルや 商業施設の開業、阿倍野地区での商業施設の先行開業 など、競合環境の厳しさがボリュームゾーンの売上に 影響を与えており、前月に続いて今月も減収の見通し となっている。
		百貨店（売場マ ネージャー）	来客数の動き	・うだるような暑さや、連続真夏日の記録、突発的な 豪雨などで、消費者の購買意欲が薄れてきている様子 がうかがえる。時計などの高額品の動きはまだ落ちて いない様子であるが、中所得層以下の世帯の消費マイ ンドは厳しい。
		百貨店（店長）	単価の動き	・今月に入って、来客数や購買単価が急激に落ち込ん できている。
		スーパー（経営 者）	お客様の様子	・今月は月初めから中頃の20日過ぎまで、毎日非常に 暑かった。客は食料品を買うのもうんざりしており、 できるだけ早く調理できて、すぐに食べられる食材し か売れない。
		スーパー（店 長）	単価の動き	・猛暑に加え、電気料金の引上げ、猛暑や豪雨による 野菜の高騰、円安による輸入関連食材やガソリンの値 上げなどが、賃金の上昇前に起こり、増えかけていた 高付加価値商品の動きが抑制されている。
		スーパー（店 長）	来客数の動き	・来客数の減少が続いている。猛暑に耐え切れなく なった客の動きで、エアコンなどは好調であるが、そ れ以外は余分に買物する気配がない。
		スーパー（企画 担当）	単価の動き	・前年比でみると来客数よりも売上の落ち込みが大き く、客の買い回り傾向が強まっている。
		コンビニ（経営 者）	単価の動き	・盆休みが長かったので販売単価が下がり、盆休み明け の売上も前年比で約5%減少している。
		衣料品専門店 （経営者）	単価の動き	・客単価が昨年よりも下がっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明		
		家電量販店（企画担当）	来客数の動き	・猛暑日が続き、夏商戦のエアコンは販売に結びついた一方、11～16時は熱中症防止で外出を控える人が多くなっている。		
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・3か月前と比較すると、客が株や不動産などの話をしなくなった。アベノミクスで調子の良かった景気が、少し落ち着いてきた感がある。		
		その他小売〔インターネット通販〕（企画担当）	お客様の様子	・連日猛暑が続き、冷感寝具や夏物衣料などの暑さを和らげる商材に期待したが、既に行き渡ってきたためか、目立った動きはみられない。		
		一般レストラン（経理担当）	お客様の様子	・地元での祭りやイベントの際は、かなりの人出がある一方、普段の動きはかなり悪い。買物する場所を絞って、回数を減らしているようである。		
		スナック（経営者）	来客数の動き	・イベントを行った先月に比べ、来客数がかなり減少している。		
		旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・国内旅行は関東のテーマパークや神社関連が大きな話題で、昨年を上回る動きが継続しているが、海外旅行は中国や韓国、台湾、香港向けが良くないほか、円安の影響もあり、昨年を下回っている。		
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・猛暑やゲリラ雷雨など、外出する気を失わせる要素が大きく影響していると感じる。		
		パチンコ店（店員）	それ以外	・消費税増税の話をする客もみられるが、少しでもお金をためておかなければと、店から足が遠のいている気がする。		
		美容室（店長）	販売量の動き	・ボーナスが増えたという客はほとんどおらず、商品のまとめ買いもほとんどなくなっている。		
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・建築関係の駆け込み需要はあるが、建材や手間代などが上がっており、成約しにくくなっている。価格上昇に顧客がついてこられない状態である。		
悪くなっている		一般小売店〔時計〕（経営者）	来客数の動き	・毎日40度近い気温で来客数も少なく、店舗の前を通る人もあまりみられないなど、今夏の暑さの異常さを感じた。また、雨の予報もないのに突然の大雨となるなど、気象要因に振り回された1か月となっている。		
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・この夏の気温が異常に高かったこともあるが、電気料金やガス料金の値上げなどで財布のひもが固まっている。プロモーションをかけても反応が鈍い。		
		観光型旅館（経営者）	単価の動き	・前年と比べても、来客数、客単価共に落ち込んでいる。特に、売店などは客の購買意欲も弱く、物販品の動きも悪いため、2～3か月前と比べると客単価が約3%落ちている。		
企業動向関連 (近畿)	良くなっている	その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・猛暑効果により、飲料（ソフトドリンク、アルコール）、制汗剤（スプレー、シート）は大幅な売上増となっている。また、今年は例年になく家族連れの旅行者客でにぎわった影響で、お土産、菓子の売上が好調である。		
		金属製品製造業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・受注量が増えているため、派遣スタッフを増員している。残業時間も増えてきている。		
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・消費税増税の動向ははっきりしないが、増税される前提での土地売買や太陽光発電の設置計画などがあり、先月よりも少し上向きになりつつある。		
		金融業〔投資運用業〕（代表）	それ以外	・米国の株価上昇や円安、米国の量的緩和策の縮小延期による影響はほぼない。		
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・広告出稿の検討から出稿までの決断が早くなっており、件数も増えてきている。		
		コピーサービス業（店長）	受注価格や販売価格の動き	・客単価や来客数が以前よりも上向いており、一見すると良くなっているように感じるが、不安定な日も多く、油断できない状態である。		
		変わらない		食料品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・今月下旬ごろからの若干の気温低下に伴い、飲料水の受注量が上旬に比べて減少している。得意先の小売店での販売動向も減少傾向となっている。
				食料品製造業（経理担当）	それ以外	・相変わらず安い商品しか売れていない。
				繊維工業（団体職員）	受注量や販売量の動き	・受注は、昨年並みから若干増えた感じであるが、電気料金の値上げなどによるコスト増加分の転嫁がまだできていない。
				繊維工業（総務担当）	取引先の様子	・催事での売上が通常よりも20%減少している。注文が半分以下となり、値段が安いだけでは売れず、付加価値のある商品が主流となっている。一見すると良い傾向に見えるが、購入客だけの統計なので、市場全体の動きとは違っている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		出版・印刷・同 関連産業（情報 企画担当）	受注量や販売量 の動き	・営業部全体でみると、住宅関連の戸建住宅、マン ション販売の企業は活況を呈しているが、関西に盤 がある弱電メーカーからの販促関連の受注は皆無に等 しい。現在は、来年春に向けた大学からの受注獲得活 動を中心に行っているが、現状は価格競争が激しい。
		化学工業（経営 者）	受注量や販売量 の動き	・今月の売上はやや良かったが、良い状況と悪い状況 が交互にくるなど、景気動向は不安定である。
		化学工業（管理 担当）	受注量や販売量 の動き	・国内向け製品の販売数量がわずかに減少している。
		プラスチック製 品製造業（経営 者）	受注量や販売量 の動き	・注文の数量が減り、納期が短くなってきている。3 か月の期間でみると、受注量、販売量共にやや減少気 味だが、生産効率も落ちている。その対応によって利 益が左右されるため、生産システムの改良が必須であ る。
		窯業・土石製品 製造業（経営 者）	受注量や販売量 の動き	・円安の影響によるガスや電気料金の大幅アップで、 会社の経営が揺らいでいる。
		金属製品製造業 （経営者）	受注量や販売量 の動き	・特に大きな変化はなく、消費税増税の幅や引上げ時 期によって荷動きも変わる。
		金属製品製造業 （営業担当）	受注量や販売量 の動き	・建築関連の製品にも少し動きが出てきた。一方、長 期のお盆休みの関係で、車両関連の売上が少し落ち込 んでいる。
		一般機械器具製 造業（経営者）	受注量や販売量 の動き	・最近の受注は新規投資に伴うものではなく、既設機 器の更新などが中心である。積極的な投資姿勢はみら れないが、機器の保守に新規投資並みの金額を投入し ている。このような状況のなか、ここ数か月は横ばいの 景況となっている。
		一般機械器具製 造業（設計担 当）	受注量や販売量 の動き	・受注量、販売量の増加が見込めない。
		電気機械器具製 造業（経営者）	それ以外	・円安は事業に貢献するが、株高はあまり関係がない ほか、原油高や政府が賃上げを目指している点はマイ ナスに作用する。幸い、当社の製品は海外市場を開拓 できているが、本来は国内市場の開拓よりも時間と経 費がかかる。
		電気機械器具製 造業（経営者）	取引先の様子	・製造業における投資は、TPPや消費税増税の動 向、海外景気の動向など、不透明な部分があるため、 投資に対する思い切った方向性がみられない。
		電気機械器具製 造業（宣伝担 当）	受注量や販売量 の動き	・今月は酷暑の影響で、例年よりもエアコンの荷動き が活発であったが、テレビなどのAV関連商品の荷動 きは依然として鈍い。そもそも家電量販店への客足が 遠のいており、景気が上向いている状況とは言い難 い。
		電気機械器具製 造業（営業担 当）	受注量や販売量 の動き	・受注、売上共に悪いままである。
		輸送用機械器具 製造業（経理担 当）	受注量や販売量 の動き	・相変わらず国内の設備投資の動きは鈍く、価格競争 にも厳しいものがある。
		その他製造業 〔事務用品〕 （営業担当）	受注量や販売量 の動き	・ここ数か月は売上に変化がない。
		建設業（経営 者）	競争相手の様子	・消費税増税の関係か、改修工事が増えてきている。 また、9月中の契約を目指して、民間関係の入札も増 えてきている。
		建設業（経営 者）	受注価格や販売 価格の動き	・相変わらず1件当たりの単価が低調であるのに対 し、材料費や人件費は増加傾向にある。
		輸送業（営業所 長）	受注量や販売量 の動き	・例年8月は荷動きが鈍くなるが、今年は事務機器な どの荷動きが落ちていない。
		輸送業（営業担 当）	取引先の様子	・婚礼シーズンの時期でも購入が増える商品はなく、 大きな変化はない。
		通信業（管理担 当）	それ以外	・市場の価格が少し高いところで安定している。
		金融業（営業担 当）	取引先の様子	・一時期よりも、取引先からの受注や見積りの依頼が減 少している。
		不動産業（営業 担当）	取引先の様子	・神戸から企業が撤退を続けているので、事務所需要 が減っている。神戸に住む社員も少なくなり、住宅需 要も減少しているため、景気は悪くなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・広告出稿は春以降、大きな動きがなく、やや悪い状況のまま推移している。特に、新聞の広告出稿の動きが悪い。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・政府は中小企業に対して多くの助成金を用意しており、製造業や商店など、これを利用しようとする企業は多い。ただし、これを利用する経営者と話をすると、決して前向きな事業意欲があるわけではなく、利用しなければ損であるという、どちらかといえば消極的な考えの人が多い。
		経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・大きな改善の兆しはみられない。
		その他サービス〔自動車修理〕（経営者）	取引先の様子	・盆休み明けは普段よりも入庫が増えるが、今年は休み明けも入庫が少ない。
		その他非製造業〔衣服卸〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・8月入り後、酷暑のため外に出かける人が減少し、小売店は入込客数の減少に苦しんでいる。ネットスーパーなどは好調であるが、全体の数字を支えるほどの市場規模はない。暑さを反映して夏物衣料は好調に推移したが、景気の好転によって底上げが進んでいる感触がないのが実情である。
		その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	競争相手の様子	・輸入商品の原価が上がっているが、販売先への値上げ申請ができていないため、利益が圧迫されてきている。
		その他非製造業〔電気業〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・アベノミクス効果がまだ末端まで届いていない。
やや悪くなっている		食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・連日の酷暑や、お盆休みもあったため、今月の売上は例年にならぬ落ち込みとなっている。飲料、冷菓関係の販売は伸びているように聞かすが、調味料の動きは連日の猛暑に勝てなかった。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・飲料は猛暑で売れているが、そのほかの製品の受注量は明らかに少ない。
		電気機械器具製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・お盆休みの影響で、出荷量は減少している。
		輸送業（商品管理担当）	受注価格や販売価格の動き	・販売量が増加する傾向がみられない。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	受注量や販売量の動き	・読者数は一進一退で大きな変化はないが、折込件数の減少によって折込収入が落ち込んでいる。
		広告代理店（営業担当）	取引先の様子	・各ショッピングセンター共に、8月に入っても来客数は変わらないが、客単価が伸びず、売上は微減となっている。
悪くなっている	—	—	—	
雇用関連	良くなっている	民間職業紹介機関（支社長）	求人数の動き	・今までは企業が費用をかけなかった事務や管理部門といった職種の求人も増えている。求人広告の伸びも前年同月比で130%ほどになっている。
	(近畿)	やや良くなっている	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き
人材派遣会社（営業担当）		求職者数の動き	・若年層（20代）の求職者が増え、より条件の良い仕事に応募が集まるようになってきている。	
新聞社〔求人広告〕（管理担当）		求人数の動き	・一時は停滞気味であった求人広告も持ち直し、景気は上向いているように感じられる。	
職業安定所（職員）		求人数の動き	・求人を募集する事業所数が増え、求人数の増加につながっている。	
民間職業紹介機関（職員）		求人数の動き	・建設日雇い労働者の人手不足という問題はあがるが、少しずつ求人は上向いているように感じられる。	
民間職業紹介機関（営業担当）		採用者数の動き	・採用が増加している。	
変わらない		人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・オフィスワーク系の求人は前年比で堅調に伸びている一方、新規登録者数は伸び悩み、マッチングができていない状況である。
		人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・参議院選挙後の活発な動きに期待していたが、関西では特に大きな動きはない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	求人数の動き	・新聞の求人広告量でみると、消費税増税の様子見状態となっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・直近の新規求人数は18か月連続で前年を上回り、前月は減少した一般求人や製造業の求人も増加に転じた。特に、派遣業の動きが活発である。製造業の事業所からは、「受注は増加しているが、先の見通しが不透明」という声が多く、その対応として派遣業の受注が増加しているようである。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数の動きについては、医療・福祉、卸売・小売業からの求人は引き続き増加しているが、建設業、製造業からの求人は減少してきている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・職種によって、求人数が増えている場合と減っている場合がある。
		民間職業紹介機関（大学担当）	採用者数の動き	・採用の環境は良い方向に進みそうであるが、今後の社会状況により一変する可能性もある。
	学校〔大学〕（就職担当）	周辺企業の様子	・南港のコンテナヤードへの入港数が増えている、大型の船に替わってきている。3週間ぐらい前から変化が起きているように感じる。	
	やや悪くなっている	アウトソーシング企業（社員）	雇用形態の様子	・人手不足で、求人を行っても応募がない。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・新聞広告の推移をみると、ここ最近では関西の地場産業（医薬品、学校、人材派遣、不動産）の動きが悪い。梅田・阿倍野地区の商業施設のオープンといったトピックスが一巡したことが要因である。	
悪くなっている	—	—	—	

8. 中国（地域別調査機関：公益社団法人中国地方総合研究センター）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (中国)	良く なっている	—	—	—
	やや良くなっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・猛暑で客足が落ちている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街への来街者も以前より多くなり、店舗の来客数もだんだん増えてきている。
		百貨店（購買担当）	お客様の様子	・今月は暑い日が続いたので、夏物クリアランスセールが順調であった。食品関係はギフト最終処分大会で、前年を超える売上があった。景気は上向いているが、良い物を安く買うという客の傾向は変わらない。
		百貨店（販売担当）	来客数の動き	・今年は夏休み、お盆に伴うファミリー層や帰省客の来店が前年をやや上回っている。
		スーパー（店長）	単価の動き	・来客数は前年を上回っていないが、客単価が3か月前より2%上昇した。理由としては、暑さ、商品の値上げ、長い盆が考えられる。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・衣服、住生活商品の販売量が微増ではあるが伸びており、特に盛夏商品が良い。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・3か月前に比べて来客数が前年比で伸びてきている。
		スーパー（総務担当）	販売量の動き	・販売数、客数とも前年比で増加してきている。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・猛暑が続き、エアコンや扇風機等の季節商材の動きが活発である。冷蔵庫も販売量が伸び、省エネタイプの構成比が高まって単価が上がっている。
		その他専門店〔和菓子〕（経営者）	来客数の動き	・JRのキャンペーン効果で、来客数が増加している。
		その他専門店〔ファッション雑貨〕（従業員）	来客数の動き	・夏休みに入って家族連れの客が平日も多く、ボーナスもあって、売上は期待どおり前年実績を確保した。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（支配人）	来客数の動き	・盆休みを9日間の長期休暇とした人が多く、また前年より期間後半に取得した人も多かった。帰省・行楽関連商品は好調に推移し、特に前準備として期間前半に動いた。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・夏休みで、家族連れと個人の動きが良い。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		一般レストラン(経営者)	販売量の動き	・今年は梅雨明けが早く、夏物商品の動きが早くから良かった。その流れを受けて盆商戦に突入し、販売額が増加したものの、盆の終わりとともに消費者の動きは鈍くなっている。	
		一般レストラン(エリア担当)	来客数の動き	・客単価は相変わらず低いままであるが、来店頻度が上がってきた。盆期間なども集客が良かった。	
		一般レストラン(外食事業担当)	来客数の動き	・猛暑が続き、盆の14日までの来客数は前年並みであったが、それ以降は前年を上回った。客単価は良くないが、厳しい暑さで飲料やビールの売上が増えた。	
		都市型ホテル(企画担当)	来客数の動き	・団体の先行受注は伸び悩んでいるが、夏休みシーズンで個人需要がやや活発になっている。海外の宿泊客も増加傾向にある。	
		旅行代理店(営業担当)	お客様の様子	・年末年始の予約状況が良好である。	
		タクシー運転手	来客数の動き	・今月は野外コンサートや全国規模の大会開催に、天候不順が重なって、前年より売上が5%以上伸びている。	
		タクシー運転手	お客様の様子	・客の動きが良く、単価は低いが総売上は前年よりも良い。	
		設計事務所(経営者)	競争相手の様子	・消費税増税の駆け込み需要のため、業界全体で受注が伸びている。ただし、業者間の格差は大きい。	
		変わらない	商店街(代表者)	お客様の様子	・3か月前同様に客の消費意欲は強く、一部商店では高額品ほど売上が堅調である。しかし、取扱商品によってはアベノミクスの恩恵がない商店もある。
			商店街(代表者)	来客数の動き	・相変わらず客の購買数は必要最低限となっており、レジ周りに置いているプラスワン商品の動きが悪い。
			商店街(代表者)	単価の動き	・デフレ傾向で好景気は一切感じられず、消費税増税の影響で、客はより安く、より良い物を厳密に選択する傾向が続いている。
			商店街(代表者)	お客様の様子	・輸入関連商品が値上げ傾向にあるが、客の収入に変化はない。
			一般小売店[靴](経営者)	お客様の様子	・真夏日が3週間以上続いたので、来客数と売上は減少したが、安い品物に流れる傾向から、日本製のしっかりした品物を適切な価格で購入する客も目立つようになった。
			百貨店(営業担当)	お客様の様子	・客の関心に合った品ぞろえだと、来客数、売上ともに確保できる。
			百貨店(営業担当)	販売量の動き	・お盆期間が長めに設定可能な曜日まわりだったので、帰省客や観光客の来店が通常より若干増えた。
百貨店(営業担当)	販売量の動き		・売上は前年同月の97%程度で、良くない。前年を上回っている店舗は半数程度で、飲食、サービスが比較的順調である。来客数は前年同月の93%であるが、全体的に客単価が上がっており、わずかではあるが売上をカバーできている。メインのアパレルが伸びないと景気が上向いているとは言えない。		
百貨店(販売促進担当)	単価の動き		・秋物の展開時期となったが、例年以上の酷暑が続くため、婦人服を中心に動きは悪い。しかし夏物セールで夏物商品の売上は2けた以上のプラスとなった。全体では客単価がマイナスとなり、売上はファッションを中心に低迷傾向である。ただ来客数は駅前のドーム広場完成により増加に転じている。		
百貨店(売場担当)	お客様の様子		・8月は百貨店にとっては物が売れにくい月であるが、客は安くても不要なものは買わず、逆に必要なものは少し高くても買う傾向にある。特にコーヒーなどの食品嗜好品は、こだわりをもって買う客が多い。		
百貨店(売場担当)	販売量の動き		・8月は猛暑により、UV商品が引き続き好調であった。クリアランスセールが落ち着くなかで、季節商品が数字を押し上げた。その反面、季節に無関係のハンドバッグはやや苦戦した。		
百貨店(電算担当)	販売量の動き		・猛暑で来店数が減少したが、店全体の売上は前年と変わらない。婦人衣料品は苦戦し、メガネは好調であった。観光地の店舗は人の移動が多いので、売上が好調である。お中元の売上が下げ止まったことには注目している。		
スーパー(店長)	来客数の動き		・客単価に変化はない。		
スーパー(店長)	来客数の動き		・来客数が前年比で100%を越えないが、買上点数と客単価は微増である。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（財務担当）	来客数の動き	・盆の期間中は、来客数、客単価ともに前年並みであったが、平常に戻ったら来客数が前年割れとなっている。
		スーパー（管理担当）	単価の動き	・来客数は若干前年を上回るが、上回った分以上に単価が前年を下回っている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数は下げ止まりではあるが、まだ上昇傾向とはいえない。
		コンビニ（副地域ブロック長）	単価の動き	・前年比で改善傾向にあり、猛暑で飲料やアイスなど盛夏商品が好調であるなど、環境に恵まれた。
		衣料品専門店（経営者）	それ以外	・中小企業に勤める客が多く、景気は全く良くなっていないという声をよく聞く。
		家電量販店（企画担当）	販売量の動き	・季節商材目的の客は多いものの、その他商品の販売量は変わらない。
		乗用車販売店（副店長）	販売量の動き	・9月の中間決算を控えているため、そこで一気に客が動くような感じがする。
		乗用車販売店（店長）	販売量の動き	・販売量に大きな変化はない。
		乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・8月の販売量は前年とほぼ同じ動きをしている。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・前年と比べた場合、大きな変化がない。
		その他専門店〔海産物〕（経営者）	販売量の動き	・お盆もあり、トータルの売上は前年を上まわったが、極端な賑わいはなく、購買単価も変わらない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（運営担当）	来客数の動き	・猛暑の影響で来客数が増えず、服飾店舗を中心に売上が伸び悩んでいる。
		その他飲食〔サービスエリア内レストラン〕（支配人）	来客数の動き	・お盆前後の動きは良かったが、お盆が明けると客の動きが悪くなり、買上点数も減っている。
		観光型ホテル（支配人）	販売量の動き	・当初は予約が少なかった夏休み期間中の宿泊客は、前年並みまで回復したが、お盆期間中の料金設定を見直したため客単価は低下した。客の財布のひもはまだ固い。
		都市型ホテル（スタッフ）	お客様の様子	・夏の行楽シーズンの宿泊は早期予約が少なく、当日や前日の予約が多くなっている。旅行計画を早くから立てられない客が増えており、景気が良くなっているとは思えない。
		都市型ホテル（企画担当）	単価の動き	・宿泊及びレストランについては、来客数は微増で、単価も若干伸びている。一般宴席については、大型宴席が減っているため、1件当たり単価が下がっている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・夜の動きが鈍く、売上が半減している。
		通信会社（企画担当）	お客様の様子	・8月は盆時期で、商品販売は低調だったが、商品への関心がないわけではなく、以前より営業は進めやすくなっている。
		テーマパーク（管理担当）	来客数の動き	・前年と変動がない。
		テーマパーク（業務担当）	来客数の動き	・新規イベントなどで集客を見込んでいたが、猛暑や大雨など天候不順が続いたため、外出を控える動きが出た。
		ゴルフ場（営業担当）	来客数の動き	・猛暑により、事前の予約時点はいいが、1か月前くらいから予約数が伸びなくなり、結果的には前年より悪くなる。
		競艇場（職員）	販売量の動き	・売上、客数ともに横ばい状態である。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・売上と来客数の動きは鈍く、客からも景気が良いという話は聞かれない。
		美容室（経営者）	販売量の動き	・来客数、来店頻度、商品の販売量に変化はない。
		その他サービス〔介護サービス〕（介護サービス担当）	お客様の様子	・客やその家族との会話からは景気の変化がうかがえるような話は、一切聞かれない。
		設計事務所（経営者）	販売量の動き	・前年に比べて受注量が3割以上増え、現在も引き合いが順調にきている。
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・地方経済は衰退の一途である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
やや悪くなっている		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・古い住宅の耐震化へ向けてのリフォーム意識が最近高まってきた。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・消費税増税前の対応で、客が慎重になっている。
		住宅販売会社（販売担当）	お客様の様子	・消費税増税への関心は高いが、積極的な購買行動にはつながっていない。住宅ローンの検討に客は慎重な様子である。
		住宅販売会社（営業担当）	お客様の様子	・消費税増税に伴う駆け込み需要もピークを過ぎた様子である。
	商店街（理事）	来店数の動き	・猛暑で外出を控える客が多く、景気が悪い。	
		一般小売店〔茶〕（経営者）	販売量の動き	・今年のお中元商戦は前年に比べ悪かった。今の政権を応援するが、当社を取り巻く経済環境はますます悪くなっている。
		一般小売店〔酒店〕（経営者）	販売量の動き	・料飲店の売上が上がらない。瞬間的には忙しくなるが、コンスタントな売上がなく、不安定な状況が続いている。
		一般小売店〔食品〕（経営者）	単価の動き	・6～7月は客単価が上昇したものの、8月は盆需要期にもかかわらず、来店数、客単価ともに前年を下回った。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	販売量の動き	・8月は営業活動や新しい動きが少ない月であるが、前年と比較しても売上が悪い。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・宝石やブランド品が売れず、厳しい状況である。
		スーパー（店長）	単価の動き	・生鮮食品、食肉、水産品、惣菜の客単価が低下している。調理を必要とする食肉は、猛暑の影響で売れず、水産品も生食を避ける傾向がある。惣菜が売れるかという、思うように売れず、いずれも非常に売上が悪い。
		スーパー（販売担当）	来店数の動き	・天候不順のためか、客数が伸び悩んでいる。猛暑続きということもあり、午後の客数の減少が著しい。
		スーパー（業務開発担当）	販売量の動き	・競合店との競争激化の影響もあるが、来店数、販売点数とも前年割れである。高温による野菜の値上がり、加工食品の相次ぐ値上げで単価が上昇し、販売点数減少の要因になっている。
		スーパー（販売担当）	販売量の動き	・猛暑の影響でアイスクリームや飲料の売上は伸びているが、それ以外の商品の動きは鈍い。
		コンビニ（エリア担当）	来店数の動き	・工事現場の客の減少と、猛暑の影響で来店数が前年を下回っており、売上は3か月前より3～4%落ちている。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・呉服業界では、絹糸や麻などの原材料の値上げで商品価格が上がり、販売に影響が出ている。小売店で商品が売れなくなると卸売店の仕入が減少し、生産者も仕事が減って廃業する人も出る。ますます中小企業は大変になってきている。
		衣料品専門店（地域ブロック長）	単価の動き	・品質の良い商品を買う客が減少し、家計が厳しいため安い商品が売れる。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・エアコンが好調であったが、盆を過ぎると販売量が減少して苦戦している。
		その他専門店〔布地〕（経営者）	来店数の動き	・猛暑続きで人出が少ない。給与が上がったという話もなく、円安で物価が上昇し、ガソリン代の値上がりも家計に響いている。
		一般レストラン（経営者）	来店数の動き	・来店数が減少している。
悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・不順な天候、景気の動向など、いい材料がない。	
		来店数の動き	・アベノミクスで景気が回復傾向というが、地方の商店街は間違いなく苦戦している。これで消費税が上がれば、商売自体が行き詰まるのは目に見えている。	
	家電量販店（販売担当）	来店数の動き	・客数が明らかに減っている。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・日本製にこだわりがあれば高級品も売れるが、販売量の減少とともに外国製の廉価商品を望む客が多いため、収益性が低い。	
		自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・売上は前年を下回り、客足も少ない。	
		その他専門店「時計」（経営者）	来客数の動き	・大雨等の影響もあり、来客数が8月に入り激減した。景気そのものも良いとはいえないが、地方は特に疲弊している。	
企業動向関連 (中国)	良くなっている	鉄鋼業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・国内自動車メーカー向けの売上は横ばいであるが、設備投資に伴う工作機械関係では上向きの動きがみられる。	
		輸送用機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新車の立ち上がりがあり、受注量が増加している。	
	やや良くなっている	農林水産業（従業者）	それ以外	・7月と4月を比較すると、水揚げ数量は430t、水揚げ金額は1億1,500万円の増加である。7月単月では、水揚げ数量が500tの減少で前年の72.2%、水揚げ金額は3,780万円の減少で前年の92.2%である。	
		木材木製品製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・販売が前年比で増加してきている。	
		化学工業（経営者）	取引先の様子	・取引先の増産計画が1～3か月延期されたが、景気動向にらみの感が強い。	
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・徐々にではあるが鉄鋼大手向け生産が上向いてきて、生産量を底上げしている。また自治体向け焼却炉用炉材の注文も入りつつある。	
		鉄鋼業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・自動車に加え、土木、建築など各分野で需要が好転しているなか、鋼材市況は横ばいであったが、ようやく好転し始めた。	
		非鉄金属製造業（経理担当）	受注価格や販売価格の動き	・輸送用機器向け及び電子機器向けの生産が好調である。	
		金属製品製造業（総務担当）	競争相手の様子	・同業他社から、代わりに生産できないかという問い合わせがきた。直近1年以上なかったが、同業でも会社によっては仕事量が増えてきているようである。人員などを絞っている背景はあるが、3か月前と比べると上向きと判断できる。	
		建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・消費税増税を見越した駆け込み需要がまだ続いている。ただ収益の確保は、人手不足、資材の値上がり等により厳しい。	
		輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・営業面の成果が出始め、客数、受注量とも増えている。通信販売関係は顕著な伸びである。	
		輸送業（業務担当）	受注量や販売量の動き	・国内の物流にあまり変化はないが、輸出入荷物が増加してきている。	
		通信業（営業企画担当）	競争相手の様子	・経営状況が上向きな既存客に対して、競合他社からの提案が増加しており、前年に比べて防衛提案が相次いでいる。	
		変わらない	化学工業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・円安による原燃料高騰等を価格に転嫁できておらず、素材産業には景気回復の実感がまだない。
			電気機械器具製造業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・アベノミクスによる景気上昇気運が高まる中、円安による材料値上げを打診されるが、薄い利益では値上がり分を吸収できず、対応に苦慮している。
			輸送用機械器具製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・新製品の立ち上がり際に、生産がひっ迫している職場があり、受注量の好調さがうかがわれる。
			輸送用機械器具製造業（財務担当）	取引先の様子	・2014年末頃に向けて景気が徐々に悪化していく見通しであったが、足元の円安等により、好景気とは言えないまでも、変わらずで推移している。
			建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・悪いまま推移している。
建設業（総務担当）	取引先の様子		・型枠工事等の協力業者の確保が困難な状況は変わらない。		
通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き		・通信機器、ネットワーク環境の販売や更改に際して、新たな設備投資が抑制されており、販売も横ばいの状況にある。		
金融業（自動車担当）	取引先の様子		・自動車部品メーカーの受注は、低燃費車の輸出好調から前年比プラスで推移している。経費削減も進み、利益率は上昇している。		
不動産業（総務担当）	それ以外	・来店数、成約件数は微増である。			

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		広告代理店（営業担当）	取引先の様子	・取引先で様々な取組を提案するが、現状で販売見込みがあまり良くないという話をよく聞く。販売促進戦略も費用対効果は当然ながら、なるべく費用を使わないなど、取引先の思案も多様である。
		会計事務所（職員）	取引先の様子	・物流関連が相変わらず良くない。建築関係では、設計事務所は徐々に受注が増えているものの、まだ数字に出てきていない。また、円安による輸入材料の高騰や賃金の値上がりを見越して、工期が長期間にわたる受注に対しては、二の足を踏む動きがある。
	やや悪くなっている	食料品製造業（総務担当）	それ以外	・円安の影響で材料関係が値上がりしているが、価格転嫁できていない。
		食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・盆休みの売上は予想以上に悪く、客の動きも鈍い。
		その他製造業〔スポーツ用品〕（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・受注先からは海外生産比率を高めるため、一部減産の意向が示され、国内生産工場である当社にとっては非常に厳しい状況で、生産体制の見直しを余儀なくされている。
	金融業（貸付担当）	取引先の様子	・円安の影響で原材料価格が高騰している。販売価格にすぐに転嫁できる企業は問題ないが、中堅中小企業は販売価格に転嫁できず苦労している。結局、企業の設備投資増加はもちろん、個人の所得が上がり、内需が増えなければ、景気は良くなったと実感できない。消費税増税の行方を見極めていく市場と同じように、踊り場状態という感がある。	
	悪くなっている	—	—	—
雇用関連 (中国)	良くなっている	—	—	—
	やや良くなっている	人材派遣会社（支社長）	求人数の動き	・求人を出す企業が、一部の大手から地場中小企業にまで拡大してきており、求人数は増加している。その求人背景には繁忙対応という理由が目立ち、企業の生産活動が活発になっている。
		人材派遣会社（経営企画担当）	雇用形態の様子	・太陽光・住宅・医療関連等、内需関連企業に求人の動きが出てきている。
		求人情報誌製作会社（採用支援担当）	求人数の動き	・2014年卒の依頼が増えてきている。また、2015年卒採用についても採用数を増やす動きが多く、当社の受注件数も伸びそうである。
		求人情報誌製作会社（広告担当）	採用者数の動き	・景気回復が非常に進んでいるという実感はないが、2015年度の採用活動が進行している企業には、今年度から更に採用人数を増やす計画の企業が多くなっている印象を受ける。
		職業安定所（産業雇用情報担当）	求人数の動き	・7月の新規求人に占める正社員求人の割合は、3か月前と比べ0.1ポイントと微増ではあるが上昇している。
		職業安定所（雇用開発担当）	求人数の動き	・新規求人数は前年比で着実に増加しているが、新規求職者数は減少傾向が続いており、この状況は継続する。
		民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・建設土木業のおう盛な求人、製造業の堅調な伸び、近隣県からの問い合わせの増加など、急激に求人数が増えてきている。
		その他雇用の動向を把握できる者〔労働機関〕（職員）	求人数の動き	・水産加工業が好調だった製造業や、補正予算による公共事業大幅増の建設業、出雲大社遷宮による観光客増による宿泊業からの求人増が、求人数全体を押し上げ、前年比で2割増加した。
		変わらない	人材派遣会社（営業担当）	周辺企業の様子
	新聞社〔求人広告〕（担当者）		求人数の動き	・6月の有効求人倍率は、1.21倍と前月と変わらない。非製造業は回復を見込んで採用に積極的だが、製造業は円安による材料費上昇により、慎重姿勢が続いている。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）		雇用形態の様子	・夏場ということもあってか、目立った動きは見られない。
	職業安定所（産業雇用情報担当）		求職者数の動き	・求人倍率は7か月ぶりに1倍を超えたが、有効求職者数が3か月前より13%減少したことが影響しており、景気が良くなっているわけではない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		民間職業紹介機関（人材紹介担当）	それ以外	・おおむね、7月と8月の状況に変化がみられない。
		学校〔短期大学〕（学生支援担当）	求人数の動き	・世間はアベノミクスで上昇ムードのようであるが、求人に変化はない。
	やや悪くなっている	—	—	—
	悪くなっている	—	—	—

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (四国)	良くなっている	設計事務所（所長）	単価の動き	・建築関係の労務単価が上昇したことから、建築単価も上がっている。
	やや良くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・夏祭り等に大勢の人出があった。観光客数も多く、良く買い物もしてくれ、夏物の最終バーゲンも大変にぎわった。今までは少し頭打ちだったが、今月になってかなり好転した。
		商店街（事務局長）	来客数の動き	・人出は多く安定しており、街には活気が見られるが、店舗売上は人通りの数に比例していない。空き店舗も減っており、多彩な選択肢が商店街内に拡がりつつある。
		一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・店頭売上、外商売上ともに、前年並みまで回復してきた。
		スーパー（店長）	単価の動き	・客単価が引き続き堅調である。猛暑で夏物の動きが良く、お盆の期間が長かったことも好影響を与えた。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・盆商戦の来客数が前年を上回り、好調な売上を記録した。
		スーパー（企画担当）	単価の動き	・お中元シーズンの動きは、購入数量は前年より減ったが、価格帯は前年より高めのもの伸びた。
		コンビニ（店長）	単価の動き	・ファストフードのようにプラス一品が売れており、客単価が上昇している。
		コンビニ（商品担当）	販売量の動き	・客単価は下落傾向だが、購入点数が増えているのでプラスになってきた。
		コンビニ（総務）	来客数の動き	・猛暑により、来客数が増加した。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・以前は8月が1年で一番悪かったが、数年前から夏休みには家族で旅行する傾向が出てきている。特に今年は、7月中旬頃から大幅に来客数が増え、売上も伸びた。
		旅行代理店（支店長）	お客様の様子	・有名大型テーマパークの開業30周年等、旅行需要を刺激するイベントもあって、首都圏向けを中心として申込が増えている。
		通信会社（企画）	お客様の様子	・比較的高額な商品や、集合住宅向け設備メンテナンスサービスが付帯した契約の引き合いが引き続き増えている。
		変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子
商店街（代表者）	それ以外		・地方都市のまちづくりが「コンパクトシティ構想」として法改正するところまで動き始めた。しかし、まちづくり三法ができ、10年になるが地方都市は個性を失い、活力を失い、魅力もない画一的な姿に成り果てた。	
一般小売店〔菓子〕（総務担当）	お客様の様子		・お盆の期間が長く、盛り上がりには欠けたが、購買意欲の高い状態が続き、昨年とほぼ同程度の売上であった。	
一般小売店〔酒〕（販売担当）	お客様の様子		・飲食店からの注文も増えず、店頭売上も少ない。スーパーなどで買うケースが多いようで、専門店にはなかなか足を運んでくれない。	
百貨店（営業担当）	販売量の動き		・来客数は増えているが、購入点数は伸びていない。	
衣料品専門店（経営者）	販売量の動き		・あまりにも暑く、夏物の売上が伸び悩み、秋物も動かないので、3か月前と変わっていない。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
企業 動向 関連 (四国)		衣料品専門店 (総務担当)	販売量の動き	・猛暑の影響もあって、乗客数が伸び悩み、売上も低迷した。また、単品買いが多く、客単価の低迷を感じる。
		家電量販店(店員)	単価の動き	・ボーナス直後は改善されていたが、売れ筋が低単価の商品に偏る傾向に戻って来た。
		乗用車販売店(役員)	販売量の動き	・受注は前年並みを維持しているが、販売は前年を割っている。中間決算である9月には少しは回復するのではないかと期待をしている。
		乗用車販売店(営業担当)	販売量の動き	・前年はエコカー補助金の駆け込み需要から好調だったため、2年前と比較するとほぼ同水準であるが、景気が良いとは言えない。
		その他小売 [ショッピングセンター] (副支配人)	単価の動き	・土産をまとめ買いする客が減少したことなどから、客単価が低下した。
		タクシー運転手	お客様の様子	・1か月の売上も1日の平均単価も、3か月前とほぼ同じである。例年、8月は忙しい時期だが、売上はあまり良くなかった。
		美容室(経営者)	来客数の動き	・客単価は少しずつ上昇しているが、来店回数の減少によって来客数が減り続けている。
	やや悪くなっている	一般小売店[生花](経営者)	お客様の様子	・お盆の御供商品は例年並みの売上だったが、その他の商品の動きが悪かった。また、お盆以降の繁華街の人通りが大幅に少ない。
		衣料品専門店(経営者)	来客数の動き	・来店すると購入してしまうからか、来店そのものを控えている様子が見られる。
		乗用車販売店(従業員)	販売量の動き	・ガソリン価格の高騰もあり、新車販売台数は前年比8割程度になっている。しかし、軽自動車やハイブリッド車の販売台数は落ちていない。
		乗用車販売店(従業員)	販売量の動き	・今年4月以降、販売台数が前年を上回った月は無い。景気は、良くなっていないと感じる。
		都市型ホテル(経営者)	来客数の動き	・猛暑のためか、来客数が少ない。特にレストランがふるわず、宿泊も、お盆を境に急激に落ち込んでおり、消費動向は良くない。
		タクシー運転手	来客数の動き	・猛暑に加え、瀬戸内国際芸術祭の期間中は、もう少し利用があると思っていたが、近距離利用が少し増えた程度であった。お遍路の仕事も少なく、売上が悪い。
		ゴルフ場(従業員)	来客数の動き	・猛暑が大きく影響していると思うが、来場数は前年比で大きく減少している。
		競艇場(職員)	販売量の動き	・8月の売上は、3か月前比29.4%増、前年比で16.5%増となった。お盆や大きなレースの開催により売上の大幅増を期待していたが、期待通りにはならなかった。
	美容室(経営者)	来客数の動き	・来客数が減っている。	
	悪くなっている	一般小売店[乾物](店員)	来客数の動き	・猛暑の影響で、来客数がとても少なかった。それにより売上もとても悪かった。
		コンビニ(店長)	お客様の様子	・今一つ、消費者の購買意欲が感じられない。収入が増えた気配もなく、街周辺に相変わらず活気が感じられない。また、夏祭りの集客力低下を感じた。
	企業 動向 関連 (四国)	良くなっている	食料品製造業(商品統括)	それ以外
やや良くなっている		繊維工業(経営者)	受注量や販売量の動き	・猛暑が続き、小売店での夏用タオルの受注が大幅に増加した。また、国産品回帰の傾向とブランドの浸透により、国産商品のニーズが増加している。
		電気機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・引き続き、太陽光発電関係の受注が好調である。
		建設業(経営者)	受注量や販売量の動き	・公共事業量が増え、受注量も前年比2～3割増となっている。同業他社も同様の状況で、建設業界全体が堅調である。
		建設業(経営者)	受注量や販売量の動き	・官民とも3か月前より、発注件数が若干増えてきている。
変わらない		パルプ・紙・紙加工品製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・販売量や売上金額が若干下落している。
	一般機械器具製造業(経理担当)	受注量や販売量の動き	・国内は地域差があるものの、全体的に稼働状況は良い。海外は中東や東南アジアが引き続き堅調である。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		電気機械器具製造業（経理）	受注量や販売量の動き	・得意先からの注文数量に大きな変化は見られない。
		建設会社（経理担当）	受注量や販売量の動き	・成約件数は3か月前とほぼ同じである。
		輸送業（経営者）	競争相手の様子	・燃料費高騰など会社としては苦しいが、雰囲気は良い感じがする。
		通信業（部長）	取引先の様子	・景気の先行きが少し不透明な状況になっている。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・マンション購入には消費税増税前の駆け込み需要が見られるが、その他の景気改善傾向は見られない。
		公認会計士	取引先の様子	・今月の各企業の決算書等を見ると、前年比でほとんど売上が伸びていない。また、利益も増えておらず、景気はほとんど変化していないと思う。
	やや悪くなっている	鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・受注量に上向く兆しが見えない。スポット的な見積依頼はあるものの、価格や納期面で折り合わず、受注の増加には繋がっていない。
	悪くなっている	○	○	○
雇用 関連 (四国)	良くなっている	—	—	—
	やや良くなっている	人材派遣会社（営業担当）	求職者数の動き	・求職者のニーズが派遣から直接雇用へと移っており、企業の採用意欲が高まってきたと考えられる。
		職業安定所（職員）	それ以外	・7月の月間有効求人倍率は0.90倍で、3か月前比で0.1ポイント上昇している。
	変わらない	人材派遣会社（営業）	求人数の動き	・今春入社の新卒社員や中途社員の早期離職で、引き続き欠員補充のための求人が増加している。
		求人情報誌（営業）	周辺企業の様子	・求人数は徐々に増えているが、県内資本の企業には、夏季賞与も低い水準にとどまったまま先行きが見えないところが多い。サービス業・製造業が引き続き厳しい。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・求人広告は増えず、広告出稿が増えている業種も無い。また、新規出店も見当たらない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人は好調だが、非正規社員の募集が多数を占め、求職者の希望との乖離が進んでいる。
	やや悪くなっている	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・消費者の購買意欲の改善により、小売業やサービス業など、一部業種に限られるが、採用意欲が高まっている。
		民間職業紹介機関（所長）	求職者数の動き	・転職相談会を開催したが、現在の勤務先の将来に不安を感じている人が多く、転職を考えている人が多いように見受けられた。
	悪くなっている	人材派遣会社（営業担当）	求職者数の動き	・派遣業のイメージが悪いためか、求職者の登録が激減している。
悪くなっている	—	—	—	

10. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（—：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (九州)	良くなっている	都市型ホテル（副支配人）	お客様の様子	・販売量は前年度に比べてすばらしく良い。団体、個人ともに客の表情が非常に生き生きしている。
	やや良くなっている	一般小売店〔精肉〕（店員）	販売量の動き	・余剰在庫が出なくなっている。
		百貨店（店舗事業計画部）	来客数の動き	・入店客数の多い時期ではあるが、駅利用者を中心に客足が良く、盛夏商品が必需品となり好調なのに加え、お盆前後の手土産もよく売れた。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・客数の増加もあるが、お盆過ぎからの客単価の上昇が一番売上に貢献している。買上点数もかなり増えている。
		スーパー（統括者）	競争相手の様子	・新聞紙上や競合業者の状況からみて、売上等も良くなってきている。市場は回復傾向である。
		コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・今月末の売上は、量販店が前年比103.9%、コンビニエンスストアが114.1%、ローカルスーパーが74.0%であった。全体的に販売量は伸びている状況だ。今月はコンビニエンスストアのオープン店舗が多く、売上が伸びている。
		衣料品専門店（チーフ）	販売量の動き	・ファイナルセール時期とはいえ、まとめ買いの客が数多くみられる。
家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・猛暑によりエアコン・冷蔵庫の動きが良く、他の商品にも波及効果がみられる。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		家電量販店（広報・IR担当）	販売量の動き	・猛暑によるエアコンや冷蔵庫等の白物家電が好調に推移した。
		その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売（従業員）〕	販売量の動き	・例年なら鹿児島市内は降灰が多いが、今年はお盆が終わるまで降らなかった。天候に恵まれたため空港の搭乗客が昨年より多く、売上に貢献した。現在、数量、売上ともに前年比108～110%増えている。やっと景気の上向きを肌で感じられるようになった。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（広報担当）	来客数の動き	・梅雨明けが早く、盛夏物が早めに動いた。その分8月に入り衣料品を中心に苦戦した。盛夏物も秋物も動きは悪いが、猛暑が続く、エアコン等の空調関連、飲料やアイスクリームは好調に推移している。中元商戦も昨年を上回る結果となり、消費者の節約志向はあるものの、消費環境としては、やや良くなっていると判断する。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	来客数の動き	・来場数が海外の客を含め、増加している。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・宿泊関連では全国高等学校総合文化祭・全国高等学校総合体育大会等が開催され、昨年を大きく上回る。レストランにおいても前年を上回って推移している。
		タクシー運転手 その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	来客数の動き それ以外	・観光客の増加と猛暑のため、乗客数がやや伸びた。 ・在宅サービスについては猛暑の影響で入院等による利用中止が増したが、高齢者向け住宅建設については、国の施策や消費税増税前の駆け込み需要により、業界的にも活発になっている。
		設計事務所（代表）	来客数の動き	・広告の反響が増えている。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・今年に入って、請負契約棟数が毎月、前月を上回っている。
		住宅販売会社（代表）	来客数の動き	・住宅は完成見学会の来場数が1.3倍ぐらいに増えており、そのなかでも具体的に新築を考えている客の割合が増えている。
	変わらない	商店街（代表者）	販売量の動き	今年の夏は異常に暑い日が続く、商店街の小売業はどこでも売上不振という答えが返ってくる。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・8月は猛暑のせいで昼間の客は少なかったが、夜のイベントは大変にぎわった。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・例年がない暑さのせいで、特に昼間は年配の方の来客数がかかなり少なくなっている。地方の商店街にはまだまだアベノミクスの波及効果がない。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・今年の夏はかなりの猛暑で、我々の商店街では空調設備がなく駐車場の狭いため、来客数がかかなり少ない。8月の終わりの集中豪雨でいよいよ商売もさっぱりである。
		一般小売店〔青果〕（店長）	お客様の様子	・し好品である果物の伸びが厳しい状態だ。また、キュウリなどは袋入りよりも1～2本のバラ売り需要が伸びている。客が無駄な買物をしなくなった状態が、この2、3か月で著しくなってきた。
		一般小売店〔茶〕（販売・事務）	販売量の動き	・厳しい暑さで、前年より贈答品の購入者数と販売量が大幅に減少した。外販も受注件数が少なくアベノミクス効果は中小企業には全く反映されていない。
		百貨店（総務担当）	販売量の動き	・猛暑が続くビアガーデンを筆頭に飲食は好調なもの、アパレルは晩夏物、初秋物の動きが鈍い。加えて来店客減により書店、100円ショップなどの実績が大きいテナントが不調である。
		百貨店（業務担当）	お客様の様子	・夏物の処分期にあたるが、猛暑によりミセス・シニア客の来店が明らかに少ない。セールの中でも最終処分期で、もうひと山あるはずのお盆休み前後から特にその動きが顕著となっている。
		百貨店（売場担当）	競争相手の様子	・売上は、台風の影響で2ポイントほど前年割れの状況になる。ただし台風を除くと5月とあまり変わらない状況である。実質的には安定した動きを維持しているので特段心配ない。今月は、各部門の差があまりないのが特徴である。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・連日記録的な猛暑で、夏物の季節商材中心に期待していたが、猛暑過ぎて客の入店数が思ったより伸びず、結果として夏物衣料、夏物用品もそこまで販売量を増やすことができなかった。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（営業統括）	お客様の様子	・中元商戦後半に入り、記録的な猛暑に見舞われ、婦人高齢顧客を中心に来店客が減少している。
		百貨店（営業政策担当）	来客数の動き	・九州主要百貨店の状況は来客数・売上高とも、前年比で引き続き100%にあるものの、各社個別の営業戦略の他、天候与件等で左右される部分も大きく、安定的な景気上昇局面とまでは言えない。
		百貨店（企画）	販売量の動き	・来店客数は増えてきているが定価品への関心が低い。反面、別会場催事などのセール品の売上は好調に推移している。
		スーパー（経営者）	販売量の動き	・最小限の買物で無駄な買物がなく、買わない客もいる。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・気候的な要因での単価変動はみられるものの、基本的な景況感は3か月前と大きな変化はない。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・食料品を中心に客数が昨年並みに回復しているが、セール期間中に集中しており、平常は厳しい状況が続いている。また会員様限定企画等ではエアコン、海外メーカーの高級クリーナー、パソコン、ノンフライヤー等、耐久消費財が好調に動いているが、いずれも安売りをしたときに限られる。
		スーパー（店長）	競争相手の様子	・食料品の売上は前年比103%で推移しているが、衣料品が厳しい。特に夏物衣料の婦人と肌着が同96%と厳しい数字となっている。トータルでは前年並みであるが、衣料品の買い控えがかなり影響している。
		スーパー（店長）	単価の動き	・環境が日々厳しくなるなかで、競争相手との対抗策を含め、価格の見直しを行った結果、売上は回復したものの、客単価は前年比97%で決して良い状況とは言えない。
		スーパー（総務担当）	それ以外	・食料品、住居用品は昨年を上回って推移しているが、衣料品は猛暑のわりに夏物の動きが良くなかった。
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・猛暑のため、飲料ほか家庭で手間のかからない揚げ物や簡便商材の売行きが良い。
		スーパー（業務担当）	お客様の様子	・夏休み期間全般を通して、ファミリー層の客足が例年と比較して減少している。季節商材も食品は低調が続く、販売員へのヒアリングでも「客の購買意欲が接客のなかでも感じられない」といった感想が多かった。
		コンビニ（エリア担当・店長）	競争相手の様子	・この1か月の間に競合する既存店が改装オープンし、さらにコンビニエンスストアが新規オープンした影響で、この1か月半は売上が低迷している。
		衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・客の買物が、日常の買物に限られている。その日常の買物では価格の安い店を選んでいるようだ。
		衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・月末の大雨で夏物最終セールの売上が伸びなかった。代わりに初秋定価品の売上が伸びて、結果、昨年並みの売上になった。
		衣料品専門店（取締役）	お客様の様子	・例年、8月は季節の変わり目で大変厳しい月である。5月の春物の実需期と比較すると8月はあまり良くない結果となった。セール品のまとめ買いも減っており、月末に雨だったこともあり2、3日分、昨年の実績を割る結果となった。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・季節要因もあるが、家電についてはずっと悪い状態が続いている。特に今年はエアコンや季節物が多く出たが、単価ダウンが影響して良いとは言えない。
		乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・当社の主な取扱車種である登録車のコンパクトカーは、軽自動車の好調に押され販売が伸びない。厳しい状況が続いている。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	販売量の動き	・前年同月比では、コーヒーが出る量はほぼ横ばい状態である。販売量は同じであるが、若干新規顧客が増加している。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	販売量の動き	・燃料油の小売価格は6月より上昇してきた。本年は例年と比較して早く梅雨明けし、猛暑日が昨年より多かったせいか、燃料油の販売量は多少昨年より増加した。高額のカークケア商品を購入する顧客は、昨年並みである。
		その他専門店〔書籍〕（地区支配人）	販売量の動き	・天候に左右されることが多く、日々の売上の上下のブレ幅が大きい、平均すると変わらない。
		高級レストラン（専務）	来客数の動き	・8月の猛暑で客数が減ったのに加え、鹿児島島の桜島噴火の影響でキャンセルがたくさん出たことが重なり、売上が伸びなかった。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般レストラン (経営者)	お客様の様子	・7月は、予約数や来客数の増加に加えて食事の単価も上昇傾向にあったが、8月の繁忙時期に入り、県外の客が例年より少なく、県内の地元客に関しても安価なコースを注文することが多かった。客との会話のなかで、T P Pに関する不安の声や消費税増税に反対する声を聴く限り、決して良くなってはいない。
		居酒屋(経営者)	来客数の動き	・出入りしている業者に聞いても、平日もあまり忙しくない状況で、週末も似たような感じとのことである。
		観光旅館組合 (職員)	来客数の動き	・客数は増えているが、商品を買わない方や安い物しか購入しない方が多くなったようだ。
		都市型ホテル (販売担当)	販売量の動き	・客の数が増え、今月は売上も良かった。
		旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・お盆期間だけに限ると、売上は前年増であったが、その前後は前年割れとなった。猛暑による出控えもあったようだ。富士山登山は過去最大の人気である。
		タクシー運転手	来客数の動き	・長崎は今月イベントが続いたのでいくらか良かった。イベントがなかったらあまり冴えなかった。
		タクシー運転手	来客数の動き	・8月にしては全体的に稼働率が良く、予約状況も良かった。売上も例年になく良かった。
		通信会社(企画担当)	販売量の動き	・市場に飽和感があり、他社を含めて現状を打破する施策が見いだせていない。
		通信会社(総務局)	販売量の動き	・新規契約数は前年並みで推移しているが、伝送路の光化が進み解約件数は昨年より減少傾向にある。
		ゴルフ場(従業員)	単価の動き	・今年は猛暑でなかなか入場者数が伸びない。また、単価的にプレー代が安いゴルフ場に客は流れている。県外の客が前年を少し割っているような厳しい状況であるが、予約が少しずつ増えているので、どちらとも言えずさほど変わらない状況である。
		美容室(店長)	お客様の様子	・客の来店回数が増える様子もなく、新規の客もない。
		住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・宅建業の住宅販売における顧客は、興味がある物件については非常に関心が高く問い合わせも多く予約も入っているが、コンセプト等が合わないと見向きもされないような状況が続く。
	やや悪くなっている	商店街(代表者)	来客数の動き	・猛暑と豪雨で来客数が激減している。
		商店街(代表者)	販売量の動き	・アベノミクス効果と皆浮かれていたが、真夏になって客の動きが良くない。猛暑もあるだろうが購買意欲が非常に低下している。
		商店街(代表者)	来客数の動き	・7月の夏物衣料が好調だっただけに、前倒しのせいか、8月に入ってから売上が伸び悩んでいる。特に高齢者が多い商店街では、異常な猛暑のため、日中の来街者が極端に少なく、売上減少の原因となっている。
		百貨店(営業担当)	単価の動き	・日祝の入店客数が3か月連続で前年を上回っている。しかし、上昇傾向にあったレジ客数が前年に達せず、2か月連続で前年を上回った客単価も当月は伸び悩んでいる。また、高級時計等の購入はあるが、夏物セール及びお中元ギフトは伸び悩んでいる。お中元ギフトの1品単価は上昇したが、客単価は前年割れした。厳選したギフトを送る傾向が顕著となり、購買意欲が減退傾向にある。
		百貨店(営業担当)	お客様の様子	・高額品の動きは引き続き堅調である。3か月前に比べると、中間層の景気回復への期待感がしぼみ、本来売れるべきものが厳しい状況である。
		百貨店(営業担当)	来客数の動き	・入店客数がここ数か月前年比90%前半であり、入店客数が非常に悪い状況が続いている。
		スーパー(総務担当)	来客数の動き	・自社近隣マーケット間の競争が激しく、集客戦略の差が大きく影響している。コストダウンに伴う販売促進策の減少が集客ダウンに影響した。
		コンビニ(エリア担当)	競争相手の様子	・競合店出店が相次ぎ、売上が大幅に減少している。また、客の動向は、将来の消費税増税を前に財布のひもは緩むことなく、厳しい状況で推移している。
		コンビニ(店長)	販売量の動き	・この夏の猛暑の影響で悪くなっている。
		衣料品専門店 (総務担当)	お客様の様子	・客の1人当たりの購買量が減っており、その結果として客単価が下がり、販売額が若干減少傾向にある。
		乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・エコカーの受注は伸びているが、それ以外の車種の受注が極端に少ない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		住関連専門店（経営者）	お客様の様子	・毎月のキャンペーンは、低水準だが前年並みであった。しかし店舗での販売が先月、今月と良くない。消費者の購買意欲はあるが、慎重に検討するため、なかなか1回で決まらず、購入に時間が掛かる。	
		高級レストラン（支配人）	来客数の動き	・ランチ、ディナー共に来客数減となっている。	
		都市型ホテル（総支配人）	お客様の様子	・ホテル宿泊数は良くなっていない。	
		タクシー運転手	お客様の様子	・あまりにも暑かったせいか、昼は人の動きが悪く、夜も週末だけ動いている。	
		通信会社（業務担当）	販売量の動き	・8月は、夏モデル商品の人気に陰りが見られ、販売台数が伸びず苦戦している。特に買換え需要が低調で、平日、週末とも来店客数の割には販売台数が伸びず。昨年を大きく下回っている。	
		ゴルフ場（支配人）	来客数の動き	・8月の猛暑は予想以上で来場者数は激減した。日中は直射日光が熱波のように感じられ、早朝プレー以外は敬遠されてしまった。常連客は標高の高いゴルフ場にくら替えし集客は困難になった。	
		美容室（経営者）	来客数の動き	・アベノミクス効果に期待しているが、お盆過ぎから客が減り愕然とした。チラシを打っても鳴かず飛ばずで経費ばかりかかっている。	
		美容室（経営者）	販売量の動き	・2、3か月前からだんだん悪くなっている。アベノミクス効果は一部だけのことである。消費税増税の影響を懸念する。	
	悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・猛暑も影響し、来客数が非常に減少している。	
		一般小売店〔鮮魚〕（店員）	来客数の動き	・魚の入荷量の少なさや魚価の高さなど要因はあるが、最近の来店数の少なさは異常で、採算割れの日が続く。	
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・猛暑で来店客がほとんどない。	
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・8月はお盆前後がかなり厳しかった。	
	企業動向関連 (九州)	良く なっている やや良く なっている	—	—	—
			繊維工業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・例年のこの時期に比べて受注が多い。工賃も少しずつ良くなっている。
家具製造業（従業員）			受注量や販売量の動き	・8月という季節的マイナス要因はあるものの、全体的には受注量、受注額、3か月前までの情報量共に3か月前よりは10%程度伸びている。一部商品を除き在庫品の回転も伸びているが、高額品の動きは鈍く、低価格商品の販売が大半を占めている。	
金属製品製造業（事業統括）			取引先の様子	・引き合い数が増加しており、取引先及び競合他社の受注状況はやや良くなっている。	
一般機械器具製造業（経営者）			受注量や販売量の動き	・前月同様、省エネ関連部品製造の設備受注が好調である。	
建設業（社員）			競争相手の様子	・9月までは今のままの発注が続く。一般競争入札が多く、偏った業者が受注しているが、市場で公共工事は発注されている。下請でも工事を請け負っている業者が多い。今のまま続けてほしい。	
金融業（従業員）			取引先の様子	・自動車関連企業の生産がやや減少しているが、鉄鋼や食料品の生産は増加している。コンビニエンスストアのほか百貨店・スーパーの売上が増加するなど、個人消費も持ち直してきている。	
金融業（調査担当）			取引先の様子	・メーカーや小売業などの取引先で消費税増税前の駆け込み需要など、景気改善の話を良く耳にする。	
新聞社（広告担当者）			受注価格や販売価格の動き	・今年は、住宅設備や通信販売、化粧品関連が全体の売上をけん引し、オリンピック関連の広告出稿が多く業績が良かった前年を超える売上となった。	
経営コンサルタント（社員）			受注価格や販売価格の動き	・ワインの売上が増している。	
経営コンサルタント（代表取締役）			取引先の様子	・取引先に業況を聞くと、仕事が多く人手が足りないという話をよく聞くようになった。	
その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）			競争相手の様子	・建設関係は、受注が減少したが、土木・建築とも業務の受注が増えている。土木は、今年度当初予算で建設関係の予算が追加されたこと、建築は、消費税増税前の駆け込みで住宅建築の需要がみられる。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他サービス業〔物品リース〕（支社長）	取引先の様子	・取引先のゲームセンター運営会社は、数年新規出店を見送っていたが、今期1件出店する。ショッピングセンター内の施設で、買物客の来店は底堅く推移している。当社のリース事業に関しては、貸し倒れも発生せず安定している。
	変わらない	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・7、8月は猛暑で、ビールの消費に伴う焼き鳥等は量的に計画以上の売上だった。スーパー向けも惣菜や生食等、お盆需要も計画通りの数字になりそう。冷食やハムの引き合いが強いが、原料不足もあり供給不足状況となっている。
		農林水産業（営業）	取引先の様子	・畜産業界の状況は厳しい。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・9月の受注が本当に少ない状態である。特に一般商品が悪く、今後の新商品に期待する以外はない。昨年度は休業補償手当で雇用調整助成金を受けていたが、前年度の10%が基準なので今年度は雇用調整助成金も申請できない状態である。
		電気機械器具製造業（経営者）	それ以外	・発注状態が非常に不安定な影響で、作業者に負荷がかかり非常に多くの退職者が出た。そのため不良品の発生や客への納期問題が起り、大変な状況に陥っている。この状況を食い止めるために最善の努力をしている。
		電気機械器具製造業（取締役）	取引先の様子	・一部取引先で受注が激減している。しかし商品によっては好調なものもあるようで、それに特化した営業が必要だと考えている。
		精密機械器具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・前月より受注量は変わらないが、毎月の黒字は続いている。
		輸送業（総務）	受注量や販売量の動き	・猛暑の影響で水物やエアコン関連の荷動きは良いものの、青果物は水不足で不作の状態である。
		通信業（経理担当）	それ以外	・アベノミクスが一段落し、景気回復に向けた次の起爆剤が見つからない。ガソリン代も円安や中東情勢の悪化を背景にジリジリと上昇を続けている。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・建設業の中小企業は、労務費や資材価格の上昇により利益が思うように計上できない状況が続いている。
		金融業（得意先担当）	取引先の様子	・当地は建設業関連の業種の企業が多く、各企業の業況は厳しいところではあるが、昨年の台風被害に伴う災害関連復旧工事がかなり出ており、当面の資金繰りに問題は無い状況である。
		金融業（営業）	取引先の様子	・企業の設備投資は決して悪くはない。消費税増税の意識もあり、介護関連、新型の機械への投資等、中小企業の設備投資は一定の水準を維持している。ただし、3か月前から増加しているレベルではない。
		不動産業	それ以外	・不動産の売買は前月と変わらず動いているが、賃貸の特に事務所の動きが悪く、借り手も少ない。
		経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・DMによる営業活動を積極的に行っているが、ほとんど反応がない。
	やや悪くなっている	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・畜産物を販売しているが、全体的に厳しい状況である。特に、値段が高い牛について苦戦している。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・商品生産、販売ともにシーズン性があり、8月は端境期のもであった。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・思うように受注量が上がらない。
		その他製造業（産業廃物処理業）	競争相手の様子	・同業他社の話を聞くと、どこも仕入れ状況が思わしくないとのことだ。企業・一般から排出されるスクラップが減っている様子である。半導体製造メーカーに受注が入っていないとの声も出ている。
		輸送業（総務担当）	取引先の様子	・荷主から預かっている荷物の荷動きが悪くなっている。また料金の値下げの要請も多くなってきた。
	悪くなっている	—	—	—
雇用関連	良くなっている	学校〔専門学校〕（就職担当）	求人数の動き	・大企業、中小企業を含めて求人の動きが良い。
(九州)	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・実質の給与所得が上がっているわけではないが、中規模会社が人材を確保するため、採用活動を強化している。今後の人材需要を見越しての先買いではあるが、今後、企業が攻めに出る際に必要となる有能な社員の確保を危惧する経営者も多く、採用を後押ししている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		人材派遣会社(社員)	求人数の動き	・派遣の求人依頼数は、前年比130%と堅調である。社員化を前提とした紹介予定派遣の依頼数も伸びている。
		人材派遣会社(社員)	それ以外	・ここ2か月ほど、派遣登録の予約を入れたが、仕事が決まりキャンセルする人が増えている。以前は、あまりキャンセルは出なかったが、企業の採用も活発になっているようだ。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・新規求人は、前年同月比で22.8%増と大幅に増加しており、有効求人倍率も前月より0.06ポイント改善した。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・就職数も前月や昨年同月に比べて増えているが、特に有効求人倍率がかかなり大きく伸びてきている。
		職業安定所(職業相談)	求人数の動き	・豪雨災害復旧工事の本格化やJR九州駅ビルの工事開始に伴い、建設業並びに建設業資材関係製造業が増加している。また宿泊業についても求人が伸びている。
	変わらない	人材派遣会社(社員)	求職者数の動き	・社員採用が増えた影響で、求職者の数が減ってきている。ただし中高年やスキルの低い人材は採用には結びついていない状況である。
		人材派遣会社(営業)	求人数の動き	・求人数は前年や3か月前と比べて、大きな変化がない。
		求人情報誌製作会社(編集者)	求人数の動き	・当社調べの求人の取扱件数は、前年を上回っている。
		新聞社[求人広告](担当者)	求人数の動き	・新聞の求人広告の動きは横ばいだった。猛暑の影響か、企業活動もやや停滞気味だったようだ。
		新聞社[求人広告](担当者)	求人数の動き	・正社員求人が停滞している。
		新聞社[求人広告](担当者)	それ以外	・企業訪問や営業取材などで得た情報では、景気が「良くなっている」「良くなっていない」と感じている人が概ね半々である。プラスマイナスの面があり、相殺して「変わらない」というのが実感だ。
		職業安定所(職員)	周辺企業の様子	・全国的に好況と言われている自動車関連製造業だが、管内企業の増産の話はなく、海外生産へのシフトで厳しくなっている状況である。また、食品製造関係においては、円安による原材料の高騰により、価格転嫁を図る動きがあるが、消費の動きを勘案し十分に転嫁できていないところが多い。
		民間職業紹介機関(社員)	求人数の動き	・求人依頼数は横ばいである。派遣利用の話はあるが、実際の利用に至ることは少ない。マンションや一戸建の設計会社からCAD利用の話があるが、急増していない。消費税増税前の駆け込み需要による案件はまだ不透明である。
		民間職業紹介機関(支店長)	求人数の動き	・求人数、人材派遣契約数が横ばいの状況である。前年同期比で減少してはいないが、増加もない。
		学校[大学](就職支援業務)	採用者数の動き	・現大学4年生を対象に調査した7月上旬までの内定者数は、前年度より増加しているが、月別の報告者数では顕著な伸びは認められない。
	やや悪くなっている	人材派遣会社(社員)	求人数の動き	・お盆休みの影響もあるが、例年以上に長期求人数が少ない。
	悪くなっている	—	—	—

11. 沖縄(地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター)

(-：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連(沖縄)	良くなっている	家電量販店(総務担当)	販売量の動き	・天候が要因となり、夏物商品の売行きが例年以上に良い。
		観光型ホテル(マーケティング担当)	販売量の動き	・今月の稼働率は、前年同月実績を大幅に上回り、非常に良い状況である。前年は大型台風の影響を受け、大きなキャンセルがあったが今年は直撃した台風も無く、順調に予約が伸びている。
	やや良くなっている	一般小売店[菓子]	販売量の動き	・一部の取引先だけではなく、全般的に販売量が増えている感がある。
		一般小売店[鞆・袋物](経営者)	来客数の動き	・台湾はじめ東南アジアからも観光客が増えて、それに伴い観光客の買物が増えている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（営業企画）	販売量の動き	・今年台風心配も無く天候に恵まれ、小売業としては順調な売上推移となっている。8月は前年に比べ旧盆に対する中元ギフトが10日間ほど前倒しとなり、下旬の落ち込みが心配されていたが、外国人観光客の入域も後押しとなり、食品で大きな落ち込みも無く、衣料品も堅調な伸びで店舗全体では108%となった。
		スーパー（企画担当）	販売量の動き	・既存店の好調に加え、新規開店効果の相乗効果により、売上高、来客数ともに前年を上回っている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・前年同期より来客数が増加し、年齢層にも幅が出ている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・来客数が前年を超えるようになってきている。
		その他専門店〔書籍〕（店長）	販売量の動き	・前年を上回るどころまではないかいないまでも、少しずつ前年との差は縮まってきている。
		その他のサービス〔レンタカー〕（営業担当）	来客数の動き	・沖縄の夏場の観光需要は台風の接近で大きく左右される。今月、沖縄本島は台風の上陸が無かったため、観光客のレンタカー利用は前年に比べて1割程増えている。
		住宅販売会社（総務・企画分野）	来客数の動き	・住宅展示棟への来場が、前月と比べ増えている。住宅の消費税増税前の駆け込み契約について、客が確認中であると考えられる。
		変わらない	コンビニ（エリア担当）	単価の動き
		衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・良くなっているとまでは言わないが、客1人1人の単価が上がっていると思われる。
		その他専門店〔楽器〕（経営者）	来客数の動き	・今月は天候がよく、エイサー等のイベントも順調である。本店周囲では本土からの来客数が微妙に減少しているような気がしているが、前年並みの来客数、売上はある。しかし前年は前々年より数字が減少していたので、景気が回復しているとまでは言えない。まだまだ先のみえない状態が続くのか、不安である。
		その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	それ以外	・回復の兆しか、ここ2か月は近隣に飲食店舗の出店が相次いでいる。しかし、自店舗の売上は例年の90%台と芳しくない。平日の地元客の動きが鈍い。
		ゴルフ場（経営者）	単価の動き	・確実に客単価が上がっている。
		住宅販売会社（代表取締役）	お客様の様子	・住宅等の建築計画に関する消費税増税前の駆け込み需要が増えている。
		やや悪くなっている	通信会社（店長）	販売量の動き
悪くなっている	○	○	○	
企業動向関連 (沖縄)	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	食料品製造業（総務）	受注量や販売量の動き	・中元は、前年に比べ消費者の購買意欲が増しているように感じられ、実際に当社の売上も増加している。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・公共、民間工事共に前年比で増えている。
		建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・新築の契約棟数、契約金額が増えている。
		輸送業（代表者）	受注量や販売量の動き	・宮古島、石垣島で民間工事が散見され、一括交付金の活用で公共工事の先々の展望の雰囲気が良くなってきている。
	変わらない	輸送業（本社事業本部）	受注量や販売量の動き	・お盆対応で瞬間的に輸送量は増えたものの、それ以外は落ち着いている状態にある。輸送量の増減もほとんどみられず、比較的安定している状況にあると思える。
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・仕事は十分とはいえないがある。なんとか要員を回している。
	やや悪くなっている	-	-	-
	悪くなっている	○	○	○

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
雇用 関連 (沖縄)	良く なっている	—	—	—
	やや良く なっている	人材派遣会社 (経営者)	求人数の動き	・既存ユーザーからの追加依頼や、新規依頼がある。 また問い合わせ自体も増えている。
	変わらない	人材派遣会社 (総務担当)	求人数の動き	・企業の求人は、ある程度堅調である。
		学校 [専門学校] (就職担当)	求人数の動き	・今月に入り、新卒採用求人が減っている。企業の新卒採用活動がほぼ一段落したとみられる。早めの2次募集、追加募集に期待したい。
		学校 [大学] (就職担当)	周辺企業の様子	・周辺企業から給与、求人数等について上向きな情報は得られていない。
	やや悪く なっている	—	—	—
悪く なっている	—	—	—	